

環境レポート 2012

環境にイイこと、プラス。



会社概要

●本社	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
●設立	1950年3月13日
●資本金	101億2,925万円(2012年2月現在)
●代表者	前村 哲路
●事業内容	衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア
●売上構成	衣料品15%・食料品67%・住居関連品17%・その他1%(2012年2月期実績)
●決算期	2月20日(年1回) / 東京・名古屋(各1部)の各市場に上場
●店舗数	1府19県下に226店舗(2012年7月末現在)
●従業員数	32,212名(2012年2月20日現在)
●売上高	7,882億円(2012年2月期実績)
●主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、住友信託銀行
●HPアドレス	http://www.uny.co.jp
●グループ連結売上	1兆792億円(2012年2月期実績)
●主なグループ企業	(株)サークルKサンクス、(株)99(キューキュー)イチバ、(株)さが美、(株)バレモ、(株)モリエ、UNY [HK] CO.,LTD.、(株)ユーライフ、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、(株)ユニコム、(株)マイサポート、(株)ユニフード

事業所 ※2012年7月末現在

中京エリア

■名古屋

ヒルズウォーク徳重ガーデンズ(ピアゴラ フーズコア徳重店)、アビタ新守山店、アビタ千代田橋店、アビタ東海通店、アビタ名古屋北店、アビタ名古屋南店、アビタ鳴海店、アビタ緑店、アビタ港店、アビタ味鏡店、アビタアラタマ店、アビタ榎田店、アビタ西城店、アビタラ フーズコア桜山店、アビタ鹿山店、アビタ清水山店、アビタ中村店、アビタ平針店、アビタ守山店、アビタラ フーズコア萱場店、アビタラ フーズコア正保店、アビタラ フーズコア柴田店、アビタラ フーズコア神野店、アビタラ フーズコア滝ノ水店、アビタラ フーズコア黒川店、ユーホーム桶狭間店

■愛知県

エアポートウォーク名古屋(アビタ名古屋空港店)、リーフウォーク稲沢(アビタ稲沢東店)、アビタ阿久比店、ユーホーム阿久比店、アビタ安城南店、アビター宮店、アビタ稲沢店、ユーホーム稲沢店、アビタ大口店、アビタ大府店、アビタ岡崎北店、アビタ蒲郡店、アビタ刈谷店、アビタ木曾川店、アビタ高蔵寺店、アビタ江南西店、アビタ小牧店、アビタ瀬戸店、アビタ知立店、アビタ東海荒尾店、アビタ桃花台店、アビタ豊田元町店、アビタ長久手店、アビタ向山店、アビタ赤池店、アビタ阿久比北店、アビタ安城店、アビタ井ヶ谷店、アビタ岩倉店、アビタ印場店、アビタ大清水店、アビタ大治店、アビタ香久山店、アビタ上和田店、アビタ気噴店、アビタ清洲店、アビタ吉良店、アビタ国府店、アビタ幸田店、アビタ江南店、アビタ佐屋店、アビタ篠木店、アビタ基目寺店、アビタ十四山店、アビタ勝幡店、アビタ新城市店、アビタ武豊店、アビタ知立店、アビタ伝法寺店、アビタ東栄店、アビタ常滑店、アビタ豊明店、アビタ中切店、アビタ長久手南店、アビタ西春店、アビタ半田店、アビタ東刈谷店、アビタ尾西店、アビタ菱野店、アビタ福釜店、アビタ碧南店、アビタ碧南東店、アビタ洞店、アビタ布袋店、アビタ妙興寺店、アビタ八劔店、アビタ矢作店、アビタ大和店、アビタ豊川店、アビタ蟹江店、アビタラ フーズコア半田清城店、アビタラ フーズコア三河安城店、ユーホーム矢作店、ユーホーム安城店

■岐阜県

アキアウォーク大垣(アビタ大垣店)、ラスパ御嵩(アビタ御嵩店)、アビタ各務原店、ユーホーム各務原店、アビタ北方店、アビタ岐阜店、アビタ中津川店、アビタ飛騨高山店、アビタ美濃加茂店、アビタ浅草店、アビタ鞠店、アビタ恵那店、アビタ各務原店、アビタ笠松店、アビタ川辺店、アビタ関店、アビタ多治見店、アビタ長良店、アビタ穂積店、アビタ瑞浪店

■三重県

アビタ伊賀上野店、アビタ桑名店、アビタ鈴鹿店、アビタ名張店、アビタ松阪三雲店、ユーホーム松阪三雲店、アビタ四日市店、アビタ赤尾店、アビタ阿倉川店、アビタ嬉野店、アビタ上地店、アビタ保田店、アビタ孤野店、アビタ多度店、アビタ東員店、アビタ星川店

■長野県

アビタ飯田店、アビタ伊那店、アビタ岡谷店、アビタ高森店、アビタ飯田駅前店

■滋賀県

アビタ一里山店、アビタ今崎店、アビタ近江八幡店、アビタ豊郷店、アビタ松原店、アビタ水口店

■京都府

アビタ精華台店

■奈良県

アビタ大和郡山店、ユーホーム大和郡山店

北陸エリア

■石川県

アビタ金沢店、アビタ松任店、ユーホーム松任店、アビタ七尾店、アビタ金沢ベイ店

■富山県

アビタ魚津店、アビタ黒部店、アビタ砺波店、アビタ富山店、アビタ富山東店、アビタ小矢部店、アビタ富山西町店

■福井県

アビタ敦賀店、アビタ福井店、アビタ福井大和田店、アビタ丸岡店

関東エリア

■神奈川県

アビタ金沢文庫店、アビタ戸塚店、アビタ長津田店、アビタ日吉店、アビタイセザキ店、アビタ大口店、アビタ弘明寺店、アビタ座間店、アビタ大雄山店、アビタ中山店

■埼玉県

ピオニウォーク東松山(アビタ東松山店)、アビタ岩槻店、アビタ吹上店、アビタ本庄店、アビタ大桑店、アビタ川本店

■群馬県

けやきウォーク前橋(アビタ前橋店)、アビタ伊勢崎東店、アビタ笠懸店、アビタ高崎店、アビタ館林店、アビタ藤岡店

■茨城県

アビタ石下店、アビタ佐原東店、アビタ守谷店

■千葉県

アビタ市原店、アビタ木更津店、アビタ君津店

■栃木県

アビタ足利店、アビタ宇都宮店

■新潟県

リバーサイド千秋(アビタ長岡店)、アビタ新潟亀田店、アビタ新潟西店

■福島県

アビタ会津若松店

山静エリア

■静岡県

フレウォーク浜北(アビタ浜北店)、アビタ伊東店、アビタ大仁店、アビタ掛川店、アビタ静岡店、アビタ鳥田店、アビタ初生店、アビタ藤枝店、アビタ富士吉原店、アビタ磐田店、アビタ於呂店、アビタ香貫店、アビタ上岡田店、アビタ上島店、アビタ清水高橋店、アビタ大覚寺店、アビタ中里店、アビタ榛原店、アビタ袋井店、アビタ富士中央店、アビタ富士宮店、アビタ森店、アビタラ フーズコア中田店

■山梨県

ラザウォーク甲斐双葉(アビタ双葉店)、アビタ石和店、アビタ田富店



店舗紹介

地域の中でライフスタイルを多面的にカバーする、ユニーの各業態

ユニー株式会社は、衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、関東から北陸・東海地区に226店舗（2012年7月末現在）を展開するチェーンストアです。その代表であるモール型ショッピングセンターをはじめ、豊かで楽しい生活提案を取り入れた「日常生活向上店」を目指すアピタ店舗、毎日楽しく買い物ができる「日常生活便利店」を目指すピアゴ店舗など、地域の中でライフスタイルを多面的にカバーできるよう、さまざまなタイプの店づくりに取り組んでいます。また2008年8月21日にはスーパーマーケット事業を柱とする株式会社ユースストアと合併し、スーパーマーケット部門のより一層の充実に努めています。

●モール型ショッピングセンター

数多くの専門店街とエンターテインメントを兼ね備えた広域型複合ショッピングセンター。ファッション・ライフスタイル・グルメなどトレンドを意識したテナント誘致で、地域交流・活性化を見据えた「街づくり」を進めています。



●アピタ店舗

ヤングマインドで日常生活にこだわりを持つお客様をメインターゲットに、立地やマーケット特性に合わせた店づくりを行っています。



●ラスパ

専門店にウェイトを置き、「ミニモール」タイプとしてトレンド感あふれるショップが魅力。また、ライフスタイルにこだわりを持つお客様をメインターゲットに、立地やマーケット特性に合わせた品揃えや店づくりを行っています。



●ピアゴ店舗

「日常生活便利店」として、ファッションから食品まで地域密着型の品揃えとサービスが特徴の総合小売店です。



●ピアゴラ フーズコア

「時代にフィットしたこだわり志向の食材」も提供する都市型小型食品スーパー。街の生活に密着した、「食」のライフスタイルを発信しています。



CONTENTS

会社概要・事業所・店舗紹介	1
環境理念・環境方針	3
社長インタビュー	5
エコ・ファーストの約束	7
環境計画の概要	9
環境マネジメント	11
特集 子供環境学習	13

環境にイイこと、プラス。

廃棄物を削減する取り組み	17
環境にやさしい容器包装	19
食品廃棄物リサイクルシステム	25
低炭素社会の構築	31
環境負荷	35
生物多様性	37

社会・地域にイイこと、プラス。

店舗での取り組み	39
ピック・アップ・エコストア	41
お客様の声	43
社会貢献・地域貢献	44
ユニーの食育について	51

従業員にイイこと、プラス。

働きやすい職場環境づくり	53
環境教育	54



自然との調和を大切に

「未来の子供達に美しい自然を残したい」ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

対象範囲

ユニー株式会社226店舗及び本社事務所（各エリア事務所含む）
※旧ユニー（株）と旧（株）ユースストアは、2008年8月21日に合併しました。
この環境レポートに記載している内容の一部は旧ユニー（株）に関するものみの場合もあります。

対象読者

ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、店舗の近隣住民の方々・お取引先・従業員など、当社にかかわる全ての皆様を対象とします。

対象期間

2011年度（2011年2月21日～2012年2月20日）
※一部上記対象期間以外の活動等を記載しています。



環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。



環境方針

ユニー株式会社は

- 1 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、環境負荷の少ない安全安心な商品及びサービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、環境マネジメントシステムを機能させ、運用することにより、汚染の予防及び持続的な改善に努めます。
- 3 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、エコ・ファーストの約束及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現に努めます。
- 4 持続可能な社会を目指した環境目的及び目標を設定し、営業活動を通じて
 - 低炭素社会の実現のために、省エネ型店舗・サプライチェーン全体でのCO₂排出量の削減を目指します。
 - 循環型社会実現のために、廃棄物削減やリサイクル推進に努めます。
また、容器包装の削減とリサイクル及び環境負荷の少ない容器包装の使用を推進します。
 - 自然共生社会実現のために、食品リサイクルループの構築、生態系保全に配慮した商品を販売します。
 - 次世代を担う子供たちに、持続可能な社会について学ぶ環境学習を実施します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客様と一緒に、地球環境保全活動及び社会貢献活動を推進します。

2012年2月21日

ユニー株式会社
代表取締役社長

前村哲路



持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



エコストア
ピアゴ蟹江店

低炭素社会

CO₂など温室効果ガス発生抑制を目指す社会

- 化石燃料の使用削減
- エネルギーの節約
- カーボンフットプリントの少ない商品
- バイオマスの利活用
- エコストアの建設

- リデュース…コピー用紙使用削減
- リユース…マイバッグキャンペーン
- リサイクル…リサイクルボックス

- 自然の恵みを大切にされた農業
- 自然や生物に配慮した商品



リサイクル
ステーション

循環型社会

限りある資源を大切に、3Rを実践する社会

持続可能な社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会



エコ野菜

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。
10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？

101年目のユニー

アピタも30周年を迎え、来年からのホールディングス化を前に ユニーグループの環境社会貢献はどう進化していくのでしょうか。

ユニー株式会社 代表取締役社長 前村哲路

アピタは30年前、新しいライフスタイルを提案する「ニュー GMS (総合小売業)」として誕生しました。30年目のアピタは、ライフスタイルの大事な要素として環境や社会貢献を提案する「エコストア」を目指しています。こうした社会貢献が企業価値を高めることを踏まえ、新たな戦略としてホールディングス化を進める意義を、前村哲路社長への百瀬則子環境社会貢献部長によるインタビューで紹介します。

お客様と一緒に創るエコストア

●百瀬 ユニーがエコ・ファースト企業に選ばれて4年、今年の3月には「エコ・ファーストの約束」の更新を細野豪志環境大臣と交わしました。今回の約束は、特に「店舗での環境教育」や「環境にやさしい来店のための交通手段」などを取り入れました。新しい価値観のライフスタイルを提案する店づくりを実現するものです。

●前村 ユニーは「生活提案業」を自負しています。特に昨年の東日本大震災以来、自然の脅威や原子力発電に象徴されるエネルギーや放射能汚染の問題。さらに普通の生活が「持続可能」であり続けるためにはどのような暮らし方を選べばよいのかを考えるようになりました。

そうしたなかで、ユニーは持続可能な社会の構築を目指したエコストアとして、名古屋市のアピタ千代田橋店が、日本環境協会から小売店舗としては初めての「エコマーク」認定を受けました。これはかなり大きな意味を持ちますよね。

●百瀬 ええ、認定のハードルは非常に高く、30数項目すべてエコマークの基準に達しないと認定されません。店舗そのものは新しくなく、設備もエコストアとして整っていない店がエコマークを取得したということに価値があります。重要な点は環境保全活動をお客様と一緒に取り組んできた実績です。レジ袋を使わないお買い物やエコ野菜の販売、容器包装だけではなく小型家電や廃食用油などのリサイクル資源の店頭回収により、店舗が地域のエコステーション的存在になっています。また、環境学習や見学なども小学生から一般の方までを対象に常時実施しています。これからも地域の自慢のエコストアを目指していきます。

●前村 そして2011年9月にリニューアルオープンした「ピアゴ蟹江店」は、これぞエコストアという店で、環境に対して現在一番良いといわれる機能を装備したエコストア

となる店舗です。この店舗は実験的存在として、ここで効果を検証して有効だと認められたら、他の店舗にも普及させるつもりです。ユニーや他の小売業が分かっている、なかなか環境整備に取り組めない原因は、やはりコストの問題です。設備に費用がかかっても、エネルギーコストが下がったり、CO₂が削減できると検証できれば、全店導入も進むはずですよ。ピアゴ蟹江店のこれからのデータが次のエコストアを創っていくわけです。

●百瀬 ピアゴ蟹江店で導入したLED照明等は環境効果もコスト削減にも有効だということですが、太陽光発電などは、設備費用がまだかなりかかりますね。

●前村 そこそが理念だと思います。地球規模でみれば、これから30億人という人口爆発が起こるわけでしょう。地球が健全に生きていてこそ商売が成り立つわけだから、やるべきことはやらないといけません。

高齢者にもやさしいエコストア

●百瀬 エコストアは人にもやさしい店ではなくてはならないですね。特にこれからは高齢者の割合が増え、今までアピタやピアゴに来店されていたお客様が、身体が不自由になられたり認知症になられたりして、お買い物が難しくなったということをお聞きしています。ユニーでは従業員が「サービス助手」の勉強をして資格を取得、認知症についても学習しています。また、来店できないお客様にはネットスーパーもご利用いただけますね。

●前村 そうですね、ネットスーパーはこれから需要が増していくと思います。現在は60店舗ですが、将来はユニーが店舗を持っている地域全てに展開していきます。より手軽にご利用いただくためには、高齢の方への受注と配送について簡単で合理的にすることが必要です。注文を電話で受けたり、配送をユニーグループのコンビニ、サーク



ルKサンクスと協働で行うなど、より良い形を構築していければと考えています。

●百瀬 配送に電気自動車を使ったり、使用済み容器包装をリサイクル回収したりといった、エコストアとしてのサービスも実施していきたいですね。また、お買い物を楽しみたい高齢のお客様をおもてなしできる店舗として、設備面や特に従業員はじめ店舗で働くみんなまで支援できるように努めていきます。

社会貢献が企業の存在価値 地域やお客様と一緒に 環を拡げます

●前村 地域貢献を重視する企業として、自治体との「包括協定」を進めています。地域の皆様に頼りにされる存在として、災害時の避難拠点、環境への取り組み、食育、地産地消、青少年の育成などが包括協定に盛り込まれています。行政と連携することで地域貢献をより効果的に進めたいと考え、今後、ユニグループの店舗を展開している多くの自治体と協定を結びたいと思っています。本社のある愛知県をはじめ千葉県、岐阜県と締結済みで、神奈川県、三重県、福井県、石川県、富山県とも締結に向けて協議を進めています。

●百瀬 東日本大震災の時に、スーパーが地域に大きな貢献したことが評価されていますね。

●前村 そう、特に分かったのが、災害が起きて1～2週間に果たす役割の重要性。時間が経てばさまざまところから支援が届きますが、それまでの間、避難場所であり必要なものを供給する基地として我々はとても頼りにされた。つまり、一番お客様が困っている時にどう貢献できたかがポイントで、当社は幸いにして本社が中部地方にあったこともあり、どの企業よりも商品を揃えて貢献できたことで、その後、大きな支持をいただいているわけです。

●百瀬 義援金もお客様や従業員からたくさん寄せられ、日本赤十字社を通じて届けましたが、今年はベルマーク活動で東日本の子供達を応援しました。1月中旬からの1カ月間で、全店舗の店頭と事務所にベルマーク回収箱を設置したところ、325万点も集まり、ベルマークの事務局から表彰されました。ベルマークはお子さんが小学校に通っている家庭では集める習慣がありますが、卒業した後も集めていた方がたくさんいらっしゃって、「機会を設けてくれてありがとう」と喜ばれました。また、この活動は、

メーカーと小売業がお客様と一緒に進める活動だということで、今後も継続していくことにしました。

●前村 その一つひとつの取り組み自体は非常に小さなことでも、取り組んだことの重要性をしっかりと認識し、継続すると、大きな輪になっていきます。トヨタ白川郷自然学校で2005年から取り組んでいる夏休み自然体験隊も地道な活動だけれども、大切な活動です。

●百瀬 子供環境学習は「未来を担う子供達に、地球を守ること」を体験学習してもらうことを目的に、環境部が創設されたときから取り組んでいます。毎年白川郷で開催する自然探検も2012年で8回目となり、今年も24名の子供達が自然の中でさまざまな体験をしたり、各地から集まった子供達と友達になって、楽しい3日間を過ごします。彼らが大人になった時に、地球や地域のことを考えたエコライフを選び、持続可能な社会を構築してくれることを願っています。

●前村 また、国連（ユネスコ）が定めた「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の最終年となる2014年に、10年間の成果などを取りまとめる最終年会議が名古屋市で開催されます。2005年の愛知万博、2010年のCOP10の開催にも協力してきたユニーは、これらの経験を活かし、この最終年会議においても積極的なサポートをしていきます。

●百瀬 今年は店舗での環境学習だけではなく、小学校や児童館などへの出前授業も積極的に実施しています。地域でESDを推進する役割も果たしています。

ホールディングス化を 進めるということ

●百瀬 2013年2月に、スーパー事業、コンビニ事業が一体となった「ユニグループ・ホールディングス」が誕生します。持ち株会社化することで、環境・地域貢献への取り組みも大きく一歩前進させたいということですね。

●前村 一番は、GMSとコンビニエンスストアの境目がなくなってきた今こそ、大きなシナジーがいるということで決断をしたわけです。私は、「グループシナジーを出して、グローバルでグッドカンパニーにしよう」と、その頭文字をとって「3G」と言っていますが、その次にも「G」はあって、それは「グレート」だと思っています。これは単に大きくなりたということではなく、時間はかかるかもしれないけれども、ユニーという経営理念、

環境に対する取り組み、社会貢献への姿勢に共鳴して、その旗の下に集まっていけるのであれば、大きな輪になっていける。3Gを4Gにしていくことができる。これが持ち株会社化する一つの大きな狙いです。

●百瀬 それは「誇り」を持った企業の集合体にしたということですね。グループ会社内だけではなく、例えば「食品リサイクルループ」でエコ野菜を生産している地域の農家の方が「アピタで自分の顔写真のついた野菜を売っていることがうれしい」と言ってくれています。いつもお買い物に来ていただいている農家の方が、アピタに自分の作った野菜が置かれていることを誇りだとおっしゃるのです。

●前村 それは本当にうれしいことですね。そういうことから考えても、環境や地域貢献に対して地道に、そして積極的に取り組んでいくことで、お客様にアピタやピアゴ、またサークルKサンクスに買い物に行く自分を誇りに思ってもらえるようにすることが大切なテーマだと思います。そのためにも、エコマーク認定店を次々増やしていくことも大事だし、サークルKやサンクスでも認証を受けたいね。

●百瀬 ユニグループ・ホールディングスになっても、これまでの環境・社会貢献への取り組みは継続しますが、他の業界のサークルKサンクスや保険事業などと、どう連携していくかが大きな課題です。また、どんな場合でも「未来の子供達に美しい自然を残したい」という目標を掲げていくつもりです。

●前村 エコストアの先駆者として取り組んできた当社として、ぜひ、全ての関係者がやりがいを持って取り組んでもらえることと期待しています。

(インタビュー：2012年6月18日)



代表取締役社長 前村哲路（左）、
環境社会貢献部長 百瀬則子（右）

エコ・ファーストの約束

ユニーは、環境への取り組みの業界のトップランナーとして2008年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わしました。さらに2010年には、エコ・ファースト制度の改定により、新たな約束を更新しました。東日本大震災以降、努力から義務となった持続可能な社会構築への取り組みを、企業活動を通して進めています。

エコ・ファーストの約束を更新

2008年に始まったエコ・ファースト制度が2010年に改定され、ユニーも2012年3月24日にエコ・ファーストの約束の更新を行いました。

当初は京都議定書の目標達成に向けた地球温暖化防止対策や循環型社会への取り組みなど、業界のトップランナー企業が自ら環境保全に関する取り組みを環境大臣に約束する制度でした。改定により環境省が掲げた7項目のうち3項目を選んで新たな「エコ・ファーストの約束」を環境大臣と交わしたのです。



細野環境大臣（左）と前村社長

エコ・ファースト推進協議会

環境省から認定を受けたエコ・ファースト企業が集まり、さらなる持続可能な社会実現を目指して2009年にエコ・ファースト推進協議会が発足しました。協議会は、次世代を担う子供達に、環境に対して関心を高めてもらうために、「エコとわざコンクール」を2010年から開催しています。

エコ・ファースト推進協議会では、業界を超えて情報交換や企業同士の協働を企業活動に活かす活動や環境保全を目指した啓発活動を行っています。ユニーは、エコ・ファースト企業とのコラボレーション企画を麒麟ビール、ライオンと実現しています。



エコ・ファースト推進協議会総会（幹事企業）



エコとわざコンクール表彰式（エコプロダクツ会場）

エコ・ファーストの約束の進捗状況

1 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します	● 食品廃棄物発生抑制の取り組み （食品売上高1万円あたりの発生量を2012年度までに2007年度と比べ10%削減）	21.2%削減	p25 参照
	● 食品循環資源のリサイクルの取り組み （再生利用等実施率を2012年度までに60%達成）	54.2% （食品リサイクル法定定期報告数値は64.1%）	p25 参照
	● 食品循環資源を活用した食品リサイクルループを全県に拡大 （地域循環を目指し、各地域での食品リサイクルループの構築を図る） <small>※福島県は震災などの影響で除外</small>	愛知・神奈川・三重・千葉・京都・奈良・滋賀・岐阜で認定済 / 富山・福井・新潟・長野で申請中	p29 参照
	● 環境学習・農業体験を全店舗で実施 （循環型社会について学び持続可能な社会を目指す）	● エコロお店探検隊 / 101回 ● 農業体験 / 4回	p14参照 p30参照
2 その他循環型社会の形成に向けた取組をお客様と一緒に積極的に推進します	● 容器包装廃棄物の発生抑制 （レジ袋辞退率を2012年までに75%達成）	レジ袋辞退率74.1% ・有料化店舗88.3% ・非有料化店舗23.4%	p19 参照
	● 使用済み容器包装の店頭回収とリサイクル推進 （回収量・種類・取り扱い店舗の拡大を図る）	リサイクルボックス回収実績 14.3%向上 （2008年度比）	p21 参照
	● 商品搬入時の段ボールを削減し省資源を推進 （商品搬入時の段ボールを通い箱・クレートに替え使用量を削減する）	11.7%削減 （2008年度比）	p18 参照
3 地球温暖化の防止に向けた取組を積極的に推進します	● 地球温暖化防止を目指したライフスタイルの提供 （消費者を含む第三者審査委員会の審査に通った環境配慮商品を「ecolon」ブランドとして販売）		p33 参照
	● 省エネ活動の推進 （改善活動の一環で省エネ省資源活動を全店舗で実践）		p36 参照
	● 「エコストア」を建設し省エネを推進してCO₂の発生抑制を図る （ピアゴ蟹江店を最新の環境設備を導入したエコストアのパイロット店舗として開店、省エネ効果を評価して今後の店舗施設改善へのモデルにした）		p41 参照



エコ・ファーストの約束 (更新書)

～環境先進企業としての地球環境保全の取組～

平成24年3月22日

環境大臣 細野 豪志 殿

ユニー株式会社
代表取締役社長 前村 哲路

「未来の子供達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、持続可能な社会構築と社会貢献のため、以下の取組を進めてまいります。



食品循環資源のリサイクルループによる再生資源化および 容器包装廃棄物の削減に取り組みます。

- 食品リサイクルの取り組みを全店舗で実施し、2012年度までに再生利用等実施率60%を達成します。
- 再生利用事業計画制度を活用し、地元のリサイクル事業者・農業者等と連携し、地産地消の取り組みとなるよう配慮した食品リサイクルループを2012年度までに、当社が店舗展開する1府18県に拡大します。
- 容器包装使用抑制への取り組みとして、2012年度までに会社全体としてレジ袋の辞退率75%を達成します。
- 地方自治体と協力しながら、お客様が持ち帰った使用済み容器包装を店頭回収し、限りある資源を有効に循環させます。



持続可能な社会構築のための環境学習を実施します。

- 未来を創っていく子どもたちに対して、買い物を通して持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）を実現するために学び、考え、行動する環境学習を2012年度までに全店舗で実施します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物・リサイクル関連など）に対し、関連法令や最新技術などの学習会や視察をととして、法令遵守・リサイクル推進を促します。



消費者のライフスタイル変革による、低炭素社会実現を目指します。

- 環境配慮商品やカーボンフットプリントの表示、地産地消費作物などの購入や、容器包装の適正使用などを通して、消費者に地球温暖化防止を目指したライフスタイルを提供します。
- 消費者の来店方法として、電気自動車の充電器の設置、公共交通利用啓発などを推進します。



ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するために、環境方針に基づき、さらにエコ・ファースト企業として継続的な環境保全活動を行ってまいります。
 そのために、具体的な環境目的および数値的な環境目標を設定し、達成するために取り組んでいます。
 現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「未来の子供達に美しい自然を残したい」を実現していきます。

環境計画

環境方針	取り組み項目	2011年度目標
環境マネジメントシステムの構築	● ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	● 「エコ・ファーストの約束」の更新に伴い、実施計画を見直す ● 環境負荷低減について目標値を設定し、毎月記録と結果を本社に報告する。目標達成のためのPDCAを確立する
エコストアの実現	● 省エネ設備によるエネルギー削減 ● 環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供する	● 新規開店店舗および既存店舗への省エネ機器導入計画に従い、順次実施する ● 環境配慮型PB商品ecoIonの開発、販売を拡大する(イズミヤ、フジとも協働する) ● 「リサーチャーズクラブ」の活動を継続拡大し、消費者目線での環境配慮型商品の開発・販売を進める
環境負荷の低減	● 省エネへの取り組み ● 物流システムの見直し ● 包装資材の使用削減	● CO ₂ を原単位で1%削減する ● 全店での展開を図る ● 使用エネルギーを1%削減する ● 物流の合理化による環境負荷低減を図る ● 段ボール 5%削減 ● 容器包装の規格、素材の見直しを図る(有料レジ袋にバイオマスプラスチック製品を採用する) ● 包装資材使用削減 5% ● レジ袋有料化を中京地区での完全実施を図る ● レジ袋辞退率 76%
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	● 廃棄物排出削減 ● 食品リサイクル推進 ● 店頭容器包装回収の推進 ● バイオマスプラスチック製容器包装	● 廃棄物排出総量 前年比 3%削減 ● 千葉県・富山県・埼玉県・石川県・京都府・奈良県・長野県・岐阜県のリサイクルループの再生利用事業計画の認定 ● リサイクルループの範囲拡大を行政と協議して推進する ● リサイクル率 50% ● 発生抑制 2007年度比 5% ● 再生利用等実施率 55% ● リサイクルボックスの回収実績5%向上 ● リサイクル実績向上 3% ● リサイクル製品生産拡大 ● リサイクル製品(再生レジ袋)の使用拡大
環境情報の開示と環境保全活動	● 環境情報の開示 ● 環境保全活動 ● 環境教育、啓発活動の拡大	● 啓発用などのDVD作成(従業員教育用) ● 売り場での環境配慮商品の情報開示 ● 店舗での情報開示推進 ● 創業100周年ユニーグループ事業実施 ● 全店でのグリーンキャンペーン実施 ● 廃棄物分別・CO ₂ 削減についての教育を実施 ● 子供環境学習90回、農業体験10回実施 ● 各地域環境展、シンポジウム等への参加 ● エコ・ファースト推進協議会活動 ● 環境関連事業者連絡会セミナー開催
環境汚染防止	● 環境汚染物質の排出抑制と監視	● 全店舗での排水水質監視を実施 ● (清掃点検表の完全実施) ● 低濃度PCBの適正管理実施

2011年度結果	評価	2012年度目標
●「エコ・ファーストの約束」を環境実施計画とし、担当部署を特定	○	●2013年3月31日までにエコ・ファーストの約束を達成
●エネルギー・廃棄物排出状況・レジ袋削減・排水水質管理・リサイクルなどの管理システムにより、目標管理を実施	○	●環境負荷をCO ₂ 換算し、目標管理を実施 ●各部署の目的目標を策定し、目標管理を実施
●建て替えをした設備に省エネ機器を導入し効果を測定	○	●照明器具のLED使用を拡大
●環境配慮型PB商品ecolonの開発・販売を拡大 ecolon開発数 6件、売上 3億7,230万円	○	●環境配慮型PB 商品ecolonの開発・販売を拡大 (イズミヤ、フジと協働)
●低炭素型ライフスタイルをお客様と一緒に推進する「リサーチャーズクラブ」をモデル店舗(アピタ緑店)でトレイレス実験を実施	○	●環境配慮商品の環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求
●前年比 9.5%削減	○	●CO ₂ を原単位で1%削減する
●全店で省エネ委員会を開催	○	●省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る
●電気使用量 98,818kwh (90.8%)	○	●使用エネルギーを1%削減する
●ガス使用量 23,068k㎡ (87.8%)	○	
●石油使用量 8,789千ℓ (93.4%)	○	
●輸送距離・量・エネルギー使用量いずれも削減	○	●物流の合理化による環境負荷低減を図る
●前年比 0.9%増加	×	●段ボール 2%削減
●バイオマスプラスチック製容器の店頭回収・再生製品を作製	○	●ecolon商品の容器包装、有料レジ袋にバイオマスプラスチックを使用する
●レジ袋 851t (88.3%) △11.7%	○	●包装資材使用削減 5%
●包装紙 172t (94.5%) △5.5%	○	
●紙袋 202t (97.1%) △2.9%	○	
●豊橋市のみ未実施。全社では、食品取扱217店舗中170店舗で実施 (78.3%)	△	●レジ袋有料化中京地区での完全実施を図る
●レジ袋配布店舗 23.4%、有料化店舗 88.3%、全社換算…74.1%	×	●レジ袋辞退率 75%
●廃棄物総排出量 1.6%削減	×	●廃棄物排出総量 前年比 3%削減
●廃棄物処理場・リサイクル現場を確認	×	
●千葉県・京都府・岐阜県認定済み・福井県・富山県申請中。 新潟県・長野県・静岡県・山梨県申請準備中	△	●営業店舗所在地1府18県でリサイクルループを構築 (福島県を除く)
●滋賀県・奈良県(京都有機質資源) 拡大申請中、 茨城県(ブライトビッグ)を拡大申請	△	●リサイクルループ参加店舗を拡大(2011年5月現在90店舗) 135店舗
●リサイクル率 54.2%	△	●リサイクル率 60%
●発生抑制 △21.2%	△	●発生抑制 △20% (売上100万円当たり40kg)
●再生利用等実施率 64.1%	△	●再生利用等実施率 65%
●牛乳パック 598,709kg (96.3%)	×	●リサイクルボックスの回収実績5%向上
●トレイ 304,644kg (94.7%)	×	
●アルミ缶 534,081kg (102.4%)	×	
●ペットボトル 1,760,944kg (100.3%)	×	
●リサイクルボックス回収実績 0.7%向上	×	
●全店舗から回収	○	●リサイクル実績向上 3%
●リサイクル製品(定規)作成	○	●リサイクル製品生産拡大
●店頭回収35店舗で実施	○	●店頭回収を拡大
●ゴミ図鑑DVD作成	○	●啓発用などのDVD作成(従業員教育用)
●ecolonなどの情報を掲載	○	●売り場での環境配慮商品の情報開示
●環境掲示板の設置を標準化	○	●店舗での情報開示推進
●エコ博・環境展を開催 6店舗	○	●エコ博・環境展を開催 6店舗/8回実施
●全店実施	○	●全店実施
●廃棄物分別「ユニーのゴミ図鑑」を発行	○	●排水水質改善教育を実施
●子供環境学習101回、農業体験4回実施	○	●子供環境学習全店実施、農業体験10回実施
●100周年記念・エコ博を開催 6店舗	○	
●メッセナゴヤ、EPOCに参加	○	●アピタ30周年エコ博8回実施
●講演会、リサイクル施設見学会 2回実施	○	
●水質検査の実施と排水管理マニュアルの徹底	△	●全店舗での排水水質監視を実施
●適正管理の実施	△	●(清掃点検表の完全実施) ●低濃度PCBの適正管理実施

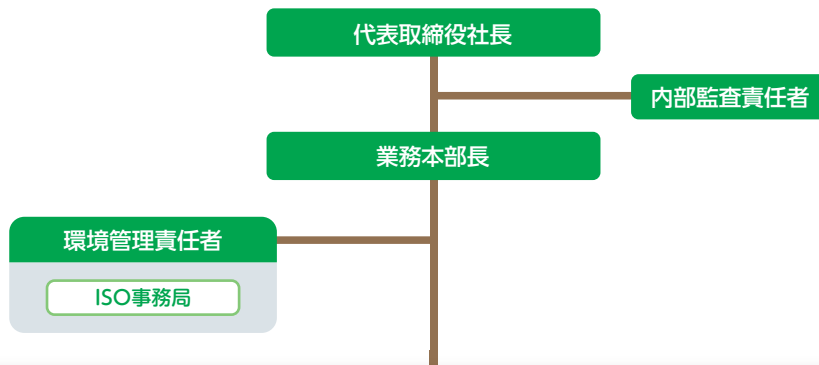
環境マネジメント

ユニーは、持続可能な社会の構築を営業活動を通して実現することが企業責任であると「環境方針」に掲げています。現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存していける社会、持続可能な社会を「地球にやさしいお買い物」によって実現したいと願い、お客様や生産者、取引先そしてその他の関係する人達と一緒に目指していくために、環境マネジメントを実践しています。

環境マネジメントシステム (EMS) の組織と活動

ユニーは営業活動の中で地球環境に対してさまざまな影響を及ぼしています。商品を生産者から仕入れ、運び、販売し、お客様に消費していただくバリューチェーンのそれぞれの過程で発生する環境に悪い影響（環境負荷）をできるだけ低減することを環境目的目標にしています。また、環境配慮商品の販売やエコストアの建設、容器包装の削減や廃棄物のリサイクルなど、環境をよくするための活動をさらに進めることも、環境マネジメントシステムで実践しています。

このシステムは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（検証）・Action（見直し、改善）のスパイラルで環境方針を実現し、持続可能な社会構築のために継続的に改善していくものです。



各部門の代表的な目的目標

本社スタッフ	営業統括本部スタッフ	業務本部	山静事務所
<ul style="list-style-type: none"> ● 監査部 ● 社長室 ● 広報室 ● グループ政策室 ● 改善部 ● 国際部 <p>〈環境目的目標〉 青果廃棄物削減手法の精度向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業管理部 ● 商品・品質管理部 ● お客様サービス部 ● 営業政策部 ● 営業企画部 <p>〈環境目的目標〉 店舗の省エネ設備への投資の推進（営業管理部）、消費者向け節電リーフレットの作成、配布（営業企画部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 総務部 ● 法務部 ● 人事部 ● 環境社会貢献部 ● IT物流部 ● 経理財務部 <p>〈環境目的目標〉 コピー用紙使用削減。バイオマスプラスチック製レジ袋の開発、販売</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務管理部 ● 山静営業部 ● 衣料部 ● 住関部 ● 食品部 <p>〈環境目的目標〉 食品リサイクルループの構築。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動</p>
開発本部	衣料本部	食品本部	北陸事務所
<ul style="list-style-type: none"> ● 企画部 ● 管財部 ● 建設部 ● 店舗開発部 <p>〈環境目的目標〉 エコストアの建設と、環境配慮設備の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● レディス部 ● 子供ベビー部 ● メンズ部 ● インナー部 ● 靴服飾部 ● 商品企画開発部 ● 衣料本部スタッフ <p>〈環境目的目標〉 環境配慮商品の販売</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ドライ食品部 ● 鮮魚部 ● 精肉部 ● 青果部 ● コンセ部 ● 食品本部スタッフ ● プロセスセンター管理部 ● 商品企画開発部 <p>〈環境目的目標〉 売れ残り廃棄商品の削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務管理部 ● 北陸営業部 ● 衣料部 ● 住関部 ● 食品部 <p>〈環境目的目標〉 食品リサイクルループの構築。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動</p>
テナント本部	住関本部	関連事業本部	関東事務所
<ul style="list-style-type: none"> ● 企画部 ● 管理部 ● 開発導入部 ● 運営部 ● 催事部 <p>〈環境目的目標〉 専門店から排出される廃棄物削減の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ヘルス&ビューティ部 ● ホームファッション部 ● ホビー&スポーツ部 ● 商品企画開発部 ● 住関本部スタッフ <p>〈環境目的目標〉 環境配慮商品の開発、販売</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務部 ● コーホーム事業部 ● 夢屋書店事業部 <p>〈環境目的目標〉 環境配慮商品の売り上げ向上。太陽光発電商品を普及させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務管理部 ● 関東営業部 ● 衣料部 ● 住関部 ● 食品部 <p>〈環境目的目標〉 食品リサイクルループの構築。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動</p>

● : 担当部署

環境マネジメント (ISO14001) の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後関東事務所・山静事務所・北陸事務所がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月、本社が各本部を統合し、組織変更を行いました。さらに同年8月にユースタアを合併し、組織変更・拡大を図りました。

また2004年から2009年まで審査機関はオリオン・レジストラ・ジャパンでしたが、2010年1月から審査登録機関を株式会社日本環境認証機構 (JACO) にお願いしています。



サーバランス審査



サーバランス部門審査



産業廃棄物保管状況審査

環境目的目標にエコ・ファーストの約束を設定

環境マネジメントの目的目標については、各部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出し、影響の重大なものを改善するよう環境実施計画を策定しています。

さらに、エコ・ファースト企業としての高い環境目標を掲げている「エコ・ファーストの約束」を果たすために、環境実施計画に以下のことを組み込みました。

- 食品リサイクルの推進
- 容器包装の削減とリサイクル推進
- 環境教育の実施
- 環境配慮商品の開発および販売拡大
- エコストアの建設



ゴミ0運動いなざわ

継続的な環境目的目標

- 省エネ活動……空調温度規制・照明の個別管理・クールビズ・ウォームビズ
- 省資源……コピー用紙使用削減
- 廃棄物の削減とリサイクル推進
- 本社周辺の清掃活動

ISO14001推進のための社員教育

環境方針・環境目的目標や環境マネジメントシステムの理解を深め、環境活動を実践していくために、適用範囲の全従業員と関係する人々に教育を行いました。

また、環境マネジメントシステムが規格に適合しているか、有効に機能しているか、コンプライアンスを確保しているかどうかを監査する内部監査員養成研修を開催し、現在までに資格取得者は221人になりました。



内部監査員研修



本社集合教育

緊急事態への対応

環境影響で重大なものに災害があります。2011年の東日本大震災レベルの災害が東海地方に起きることを想定し、防災訓練を計画し、実施しました。



地震および津波の避難訓練



防災訓練 (グループ会社合同)

「地震対応ガイドライン」の改訂

東日本大震災を教訓に、震災マニュアル「地震対応ガイドライン」を全面的に改訂しました。また、各店舗・事業所で実施している震災・消防訓練とは別に、

- 被災を想定した各店舗、事業所の施設点検演習
- システムを使った店舗被災情報の集約演習
- 社内緊急メールの配信演習

などを組み入れた全社規模の演習 (震災総合演習) を半年ごとに実施し、災害に備えています。特に店舗は地域との防災協定を結んでいるので、避難場所として頼りになる存在となるよう努めます。

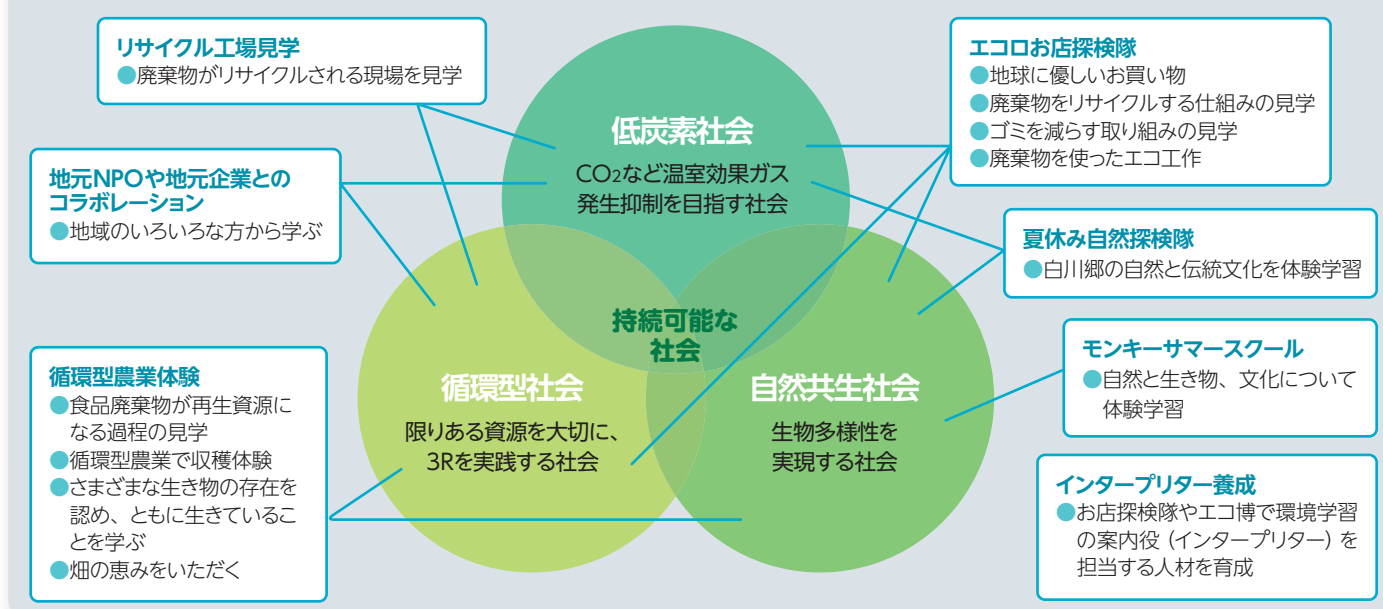


総務部 (防災担当)
佐野彰彦

子供環境学習 [環境について学ぶための取り組み]

ユニーは、子供環境学習を通じて、子供達一人ひとりが今の自分達のためだけでなく、人を思いやる心、ものを大切にすることを、地球の生き物や自然を守って生きていくことの大切さを伝えます。これからの「持続可能な社会」の主役は今の子供達になります。地球温暖化を防止して循環型社会をつくるために、子供達に毎日の暮らしの中で、どう行動していくべきかを伝えます。

ユニーは持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。



循環型農業体験

私たちの毎日の食卓に並ぶ食物はどのように作られているのでしょうか？ ユニーが推進している食品リサイクルループの仕組みを見学したり農業体験を通して、「たくさんの生き物と一緒に生きること(生物多様性)」や「食べ物を大切にすること」を学びました。

JAあいち海部での農業体験

JAあいち海部のエコ部会では、食品リサイクルループで作った堆肥を使い、野菜や米を生産しています。お店で募集した子供達やその家族と一緒に田植えや稲刈り、エコ野菜の収穫などの農業体験をしました。



三功・酵素の里

三功・酵素の里では、ユニーから排出された食品残さから堆肥を作り、その堆肥を使って野菜を作っています。実際に堆肥の製造過程を見学し、堆肥の熱や臭いを感じました。



地元NPOや企業とのコラボレーション

地元NPOとのコラボレーション

ユニーの店舗の近くで活動しているNPOや市民団体と一緒に環境学習を実施しました。ユニーは店舗を活動の場所として提供、NPOがプログラムを実施し、地域とのコミュニケーションを深めました。



大垣市環境市民会議



NPOエコネットふくい

企業とのコラボレーション

東邦ガス、ブラザーなどの企業と共催で環境学習を実施しました。

●東邦ガス

地元で作られた野菜や調味料を使ってエコクッキングをしました。野菜の皮なども工夫して調理し、おいしくいただきました。



●ブラザー

親子モノ創り環境教室を店舗で行いました。最新のミシンでオリジナル刺繍をしたエコバッグを作りました。ブラザーの社員が先生となり、ものづくりの楽しさを親子で体験しました。



エコロお店探検隊

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」も、2011年度は101回99店舗で開催しました。自分たちの近くにあるアピタ・ピアゴのお店にはいったいどんな工夫や秘密、環境によい商品があるのでしょうか。

店長を探検隊長にして、地域の小学生がお店で行われている環境保全活動や環境にやさしいお買い物を探検します。

環境問題解決は決して難しいことや大変なことではなく、身近なことから始めることができる、ということを感じて実践へのきっかけとしています。

リサイクルの秘密を知ろう

使い終わった容器の行方を見学!

家庭から排出される容器包装をリサイクルステーションで回収しています。回収することで、ゴミではなく新しいものに生まれ変わることを伝えます。



地球にやさしいお買い物をしよう

環境ラベルの意味を学ぼう!

子供達に身近な文房具についている環境ラベルを探してもらいます。普段使用している下敷きやノートにも、リサイクルされた原料や環境にやさしい素材で作られたものがあります。



お店の裏側を探検しよう

お店から出るゴミの行方を知ろう!

店舗の裏側を見学します。店舗から出るゴミは19種類に分別し、計量しています。計量することで、ゴミを減らす意識を高めます。また、折り畳み式のコンテナを使用し、段ボールの使用抑制に取り組んでいます。



エコ工作にチャレンジしよう

使わなくなったものを材料にした工作体験!

通常なら捨てられてしまう容器包装などを使用したり、自然の素材を使ったエコ工作を行います。捨ててしまえばゴミになってしまう物も工作で生まれ変わります。



●エコクイズラリー

普段お買い物をするお店のエコクイズラリーを通して、お店のさまざまなエコな取り組みを知ってもらいました。今後ピアゴ店舗を中心に行う予定です。



●自由研究応援隊

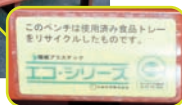
夏休みの宿題のヒントはお店にたくさん隠れています。リサイクル、節電、環境によい商品などをテーマに展示を行い、自由研究のお手伝いをしました。



リサイクル工場見学

中央化学 (トレイリサイクル工場)

店舗で回収したトレイをリサイクルしてベンチを作る工場を見学しました。



三功 (廃棄物リサイクル工場)

廃棄されたプラスチックや発泡スチロールなどをリサイクルする様子を見学しました。



丸富製紙 (牛乳パックリサイクル工場)

店舗で回収された牛乳パック類をリサイクルして、トイレトペーパーを作る工場を見学しました。



夏休み自然探検隊

2005年からトヨタ白川郷自然学校で夏休み自然探検隊を開催しています。2011年は「環境にイイことプラス!」な「未来の自分への手紙」に応募した小学4年生から6年生の24名が世界遺産白川郷で自然の大切さと先人の知恵について学びました。

先人の知恵

白川郷の合掌造りでは昔の人の知恵を学びました。

はい、ガッショウ〜! (合掌)



白川郷の方にお話を聞いたよ!

合掌造りの中はこんなふうなんだね。工夫がいっぱいだ!



白川村を散策しました。

未来のエネルギー! 水素電池で電気自動車を走らせました。



自然に触れる

森や川、たくさんの自然に触れました。

インタープリターに森の秘密を教えてくださいました。



小川の水を使って水力発電の実験をしました。水の力で電気がついた!

昼間とは違う朝の森



友達づくり

全国から集まった友達と仲よくなりました。

イギリス式テーブルマナーの講習。



蚕のまゆでシルクタペストリー作り! 森の葉っぱをすきこみました。



日本モンキーセンター「モンキーサマースクール」

ユニーは日本モンキーセンターと共働でモンキーサマースクールを開催しています。「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した24名の小学生を招待し、人間に一番近い生き物である霊長類との触れ合いを通して、命について学びました。



学芸員からサルの生態を学びました。サル図鑑を自分で作りました。



普段は入れないオリの中でサルの観察。

みんなで協力してサルのえさを準備しました。



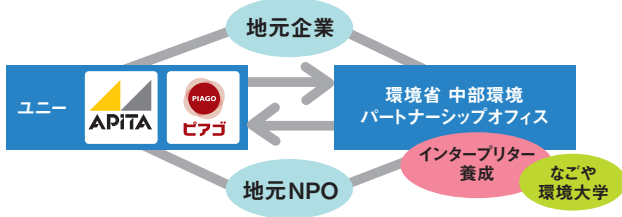
河原の石で石器作り! BBQ用の肉を切りました。



理想の動物園をグループで考えました。未来の動物園はどんな風になるのかな?

インタープリター養成

市民講座なごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。環境にやさしいライフスタイルをテーマに、お店探検やエコ博の案内役になってもらう人を育成しました。



「伝え方」を学びました



エコキッズ応援隊でエコ博案内役として活躍

EPOC

中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) は、行政、大学・研究機関に加え種や規模の垣根を越えて企業が集まり地域社会で活動しています。「次世代交流分科会」では、子供達が分かりやすく学び、体験する講座を受け持っています。ユニーは「環境にやさしいお買い物」をテーマに高校や小学校、児童館などで講座を開催しました。



名古屋市立本郷小学校



名古屋経済大学高蔵高等学校



名古屋市とだがわこどもランド

持続可能な開発のための教育 (ESD) への取り組み

ユニーの目指す「持続可能な社会」を担う子供達に、環境学習や農業体験、自然探検など体験や学習、いろんな人達との交流の場を提供しています。この活動は、国連が進めるESDを踏まえ、環境や社会貢献という要素だけではなく、「食糧問題」や「命の大切さ」をテーマに、子供達が美しい自然の中で幸福に生きていくための「ちから」を身につけてもらいたいとすすめています。

「ESDの10年」最終年の2014年に向けて 未来をつくるための学びあい～お店だからこそESD

ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で、持続可能な開発のための教育と訳されています。2005年からの10年をキャンペーン期間とし、普及啓発や実践の仕組みづくりなどが国際的に進められています。そして2014年の最終年合会が愛知県・名古屋市、岡山市で開催されることになり、ESD活動が活性化されつつあります。ESDは、地球の限りある資源をうまく使って、今を生きる人、未来を生きる人が安心して暮らすことのできる社会をつくるための「未来をつくるための学びあい」といえるでしょう。

ユニーは、店舗や販売している商品の生産・流通現場等を活用して多様な環境教育の機会を提供、またCOP10を機に生物多様性を学ぶ体験型環境学習プログラムも実践されています。それも、自社だけでなくNPOや企業、行政と連携しながら、です。まさに「ESD」です。スーパーマーケットには、持続可能な社会づくりのキーワード「環境、経済、社会の調和」を実体験できる機会があふれています。今後、子どもも大人も参加できる学びの場、また学校教育と連携した場の創出を期待します。ユニーのお店には、地域のESD拠点として存在していただきたいと強く思います。



環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子

ESDの歩み

1992年
国連環境開発会議（ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ）にて、持続可能な開発のための教育（ESD）の重要性をうたった「アジェンダ21」を採択

2002年
持続可能な開発に関する世界首脳会議（南アフリカ/ヨハネスブルグサミット）にて、日本の提案による「ESDの10年」が実施計画に盛り込まれる
第57回国連総会にて、ユネスコを主導機関として「国連ESDの10年」（2005～2014）を採択

2005年
「国連ESDの10年」スタート

2014年
「持続発展教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」（日本/愛知県・名古屋市、岡山市）

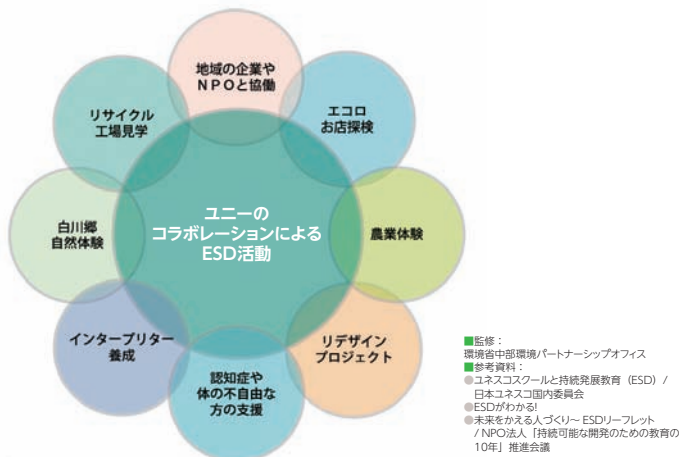
いろんなテーマで!

お店探検隊ではブラジル籍の子供や障がいをもった子供達も参加しています。まさに多文化共生、バリアフリー教育です。また認知症の方や高齢者のお買い物サポート、リデザインプロジェクトによる商品開発や商品販売などを実施。「学び合い」「つながり」がどんどん広がる多様なESD実践を期待します。



いろんな場所で!

日本モンキーセンターやトヨタ白川郷自然学校、リサイクルトイレットペーパーの工場、田んぼ、味噌蔵など、いろいろな場所での学習を展開しています。地域の多様なセクターとのもっと楽しく学べるESD企画を期待しています。



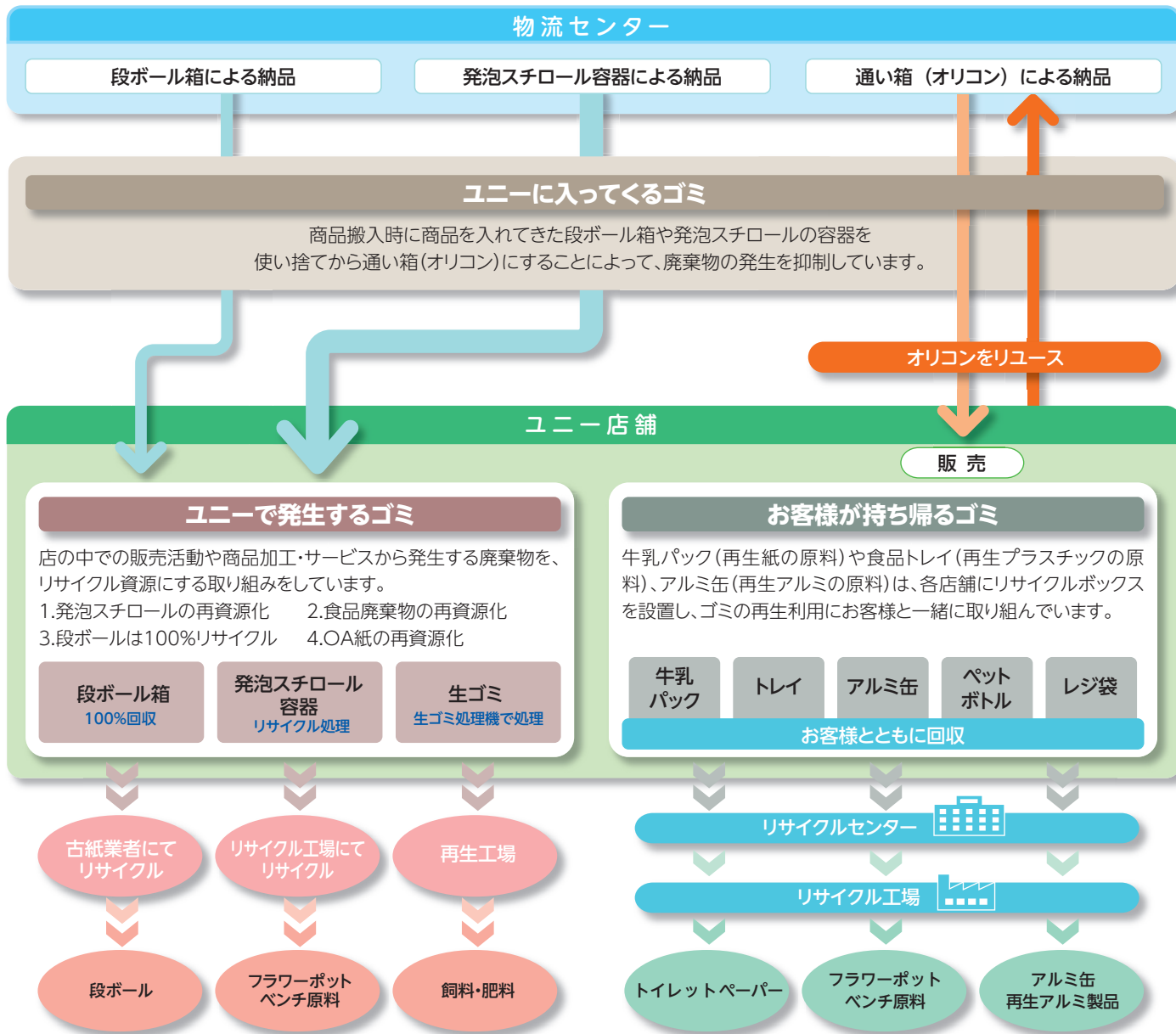
■監修：環境省中部環境パートナーシップオフィス
■参考資料：ユネスコスクールと持続発展教育（ESD）/ 日本ユネスコ国内委員会
●ESDがわかる
●未来をかえる人づくり～ESDリーフレット/NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

廃棄物を削減する取り組み

企業活動による廃棄物をできるだけ出さないようにするためには、廃棄物の発生場所や原因、種類などを正確に捉えることが必要です。ユニーでは全店舗で廃棄物計量器を設置し、排出場所・分類別に計量し、廃棄物の発生抑制やリサイクル推進に努めています。また、家庭に持ち帰るとゴミになる容器包装をできるだけ削減し、さらに使用済みの容器包装を店頭回収して再生利用しています。

廃棄物削減のための取り組み

廃棄物の再資源化



廃棄物分別を徹底するために

ユニーの廃棄物分別計量は、店舗の直営部だけではなく、入店されているコンセッショナリーやテナント、お客様用ゴミ箱など共有部分での廃棄物など、あらゆる廃棄物で行っています。正確に分別計量してもらうために、関連している全ての人々を教育しています。



「ユニーのゴミ図鑑」と教育用DVD



事務所内の分別箱「ゴミステーション」



モールのテナント従業員の集合教育

2011年度年間廃棄物排出量

店舗における廃棄物排出量

ユニーでは2003年度より順次店舗に廃棄物計量器を設置し、全ての廃棄物を排出場所ごとに分別計量を実施しています。排出場所（売り場、テナント、その他）ごとに管理することで排出責任を明確にし、廃棄物の発生要因を追求し発生抑制に努めています。また排出された廃棄物も種類ごとに分別を徹底することで再生資源としての価値が上がり、リサイクルが進みます。

2011年度の廃棄物総排出量は2010年比98.4%と1.6%削減できました。ほとんどの種類で削減できましたが構成比の高いダンボール、一般可燃ごみが横ばいのため減少幅が小さくなっています。店舗で排出される廃棄物の約50%は段ボールです。年々オリコンやクレートなどの通い箱を導入することによって段ボールを削減してきました。オリコンやクレートが導入済みで今後は段ボールの大幅な削減が難しいので、店舗における廃棄商品、ロスを削減することで、生ゴミや容器包装の可燃ごみ、ビニールゴミを削減していきたいと考えています。また一般可燃ごみに混入している再生できる紙類を選別するなど、正しい分別を行うことで一般可燃ごみを削減していきます。

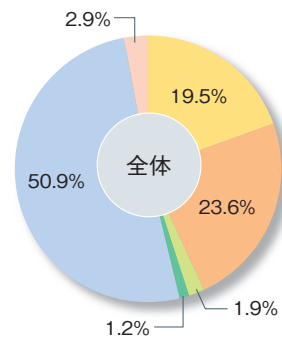
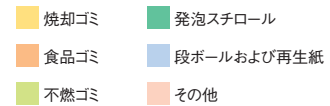
まずは廃棄物を出さない発生抑制に取り組み、排出された廃棄物は正しく分別することによって焼却ゴミの削減と再生資源としてのリサイクルを進めていきます。

廃棄物排出量

(単位:kg)

区分	種類	2009年度	2010年度	2011年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ	一般可燃ゴミ	12,291,571	12,128,956	12,130,126	100.0%
		ビニール(食品系)	4,837,767	4,779,492	4,319,674	90.4%
		小計	17,129,338	16,908,448	16,449,800	97.3%
	食品ゴミ	生ゴミ	16,196,931	14,777,363	14,174,353	95.9%
		魚のアラ	4,052,794	3,712,463	3,177,342	85.6%
		てんかす	1,217,085	1,302,481	1,220,555	93.7%
		廃食用油	1,441,346	1,417,817	1,371,352	96.7%
小計	22,908,156	21,210,124	19,943,602	94.0%		
不燃ゴミ	ビン	961,344	1,034,530	1,054,398	101.9%	
	缶	558,496	533,041	512,169	96.1%	
	小計	1,519,840	1,567,571	1,566,567	99.9%	
発泡スチロール		1,188,429	1,082,640	982,894	90.8%	
段ボール および 再生紙	段ボール	41,127,317	40,441,290	40,787,926	100.9%	
	紙類(再生可)	1,966,093	2,012,196	2,110,142	104.9%	
	小計	43,093,410	42,453,486	42,898,068	101.0%	
その他	プラスチック	502,768	477,839	467,949	97.9%	
	ビニール(衣住系)	965,095	966,398	924,381	95.7%	
	ペットボトル	320,172	370,258	370,200	100.0%	
	陶器・ガラス	113,614	121,284	125,519	103.5%	
	金属カス	181,303	152,504	139,464	91.4%	
	その他	489,410	424,671	463,083	109.0%	
	小計	2,572,362	2,512,954	2,490,596	99.1%	
合計		88,411,535	85,735,223	84,331,527	98.4%	

廃棄物構成比率



廃棄物計量システム



廃棄物は排出場所・分別毎にバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



シールを発行します。同時にデータは事務所の端末に記録、集計され、本社環境社会貢献部の端末に送信されます。テナントや売場には毎月集計された結果が告知されます。



計量した廃棄物は、それぞれ温度管理された廃棄物庫で保管されます。腐敗しやすい食品廃棄物などは冷蔵保管されます。

環境にやさしい容器包装

セルフサービスで販売しているユニーでは、容器包装の商品を販売し、また贈答などで包装を承れば紙やプラスチック製の包装を施します。容器包装は商品の品質や衛生を保ち、手軽に安全に持ち運ぶ役割を担っています。ところが、これら容器包装は家庭から排出されるゴミの50%にもなるとわれています。ユニーでは容器包装を見直すことで、ゴミの削減、資源の節約、また容器包装由来のCO₂の発生抑制を図っています。

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- トレイを使わない販売の検討
- 贈答品などの簡易包装
- マイボトルやマグカップなどの利用促進

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルによる店頭回収
- 再生資源として製品（トイレトペーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

3 サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- 環境配慮PB商品eColonの容器にバイオマスプラスチックを使用
- 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用

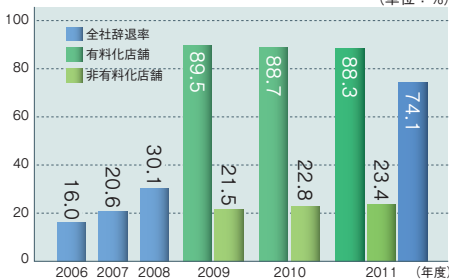
1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

スーパーで「買い物の持ち帰り用」にレジ袋を配布し始めたのは1960年代でした。薄くてじょうぶで水にも強いレジ袋は便利で、多くのスーパーなどで使用され、社会に浸透していきました。ところが買い物に一度使えばほとんど捨てられるレジ袋は、家庭から出るゴミになってしまうことから「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、マイバッグが環境にやさしいお買い物の象徴になりました。

ユニーでは1989年から「お買い物袋持参運動」を開始、スタンプカードでお客様への参加を促しました。2001年からは「マイバッグキャンペーン」でさらに啓発を進めましたが、レジ袋辞退率はなかなか向上せず、2007年から無料配布中止（レジ袋有料化）とし、「ノーレジ袋キャンペーン」を展開しました。2012年6月時点で全店の約80%173店舗で実施し、1年間で約2億枚のレジ袋を削減しています。

レジ袋辞退率の推移



レジ袋使用量の推移

年度	枚数 (単位: 千枚)	重量 (単位: t)	備考
2006	333,630	2,075	ノーレジ袋キャンペーン開始
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる

容器包装リサイクル法への対応

年度	委託金額
2006	2億7,322万円
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円

※2008年にユースストアと合併し80店舗増える
 ※容器包装リサイクル法に基づき、財団法人容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

レジ袋有料化

レジ袋無料配布中止（有料化）への取り組み

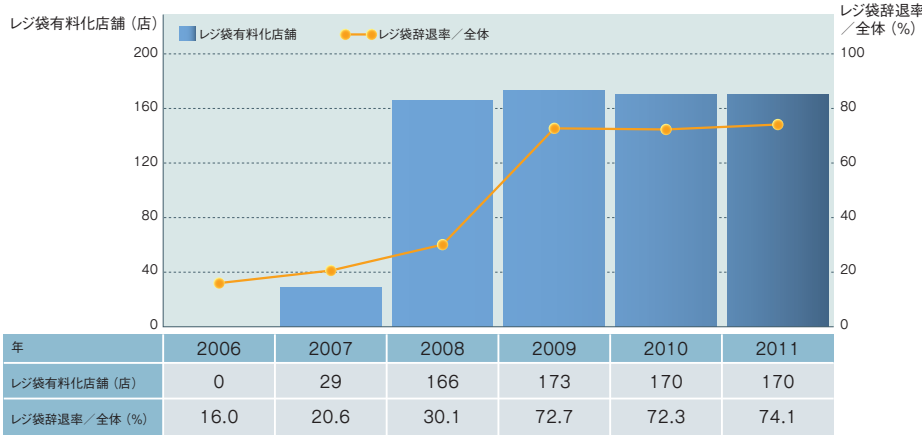
ユニーではノーレジ袋キャンペーンをお客様と一緒に推進してきましたが、自治体から「廃棄物削減・地球温暖化防止」を目的としたレジ袋使用削減の要請があり、また消費者団体などからの要望もあって、2007年からレジ袋無料配布中止に取り組み始めました。2007年6月に横浜市緑区ピアゴ中山店（旧ユニー中山店）で最初にレジ袋有料化を始めたところ、自治体や消費者との協働や周囲の同業他社の連携もなかったため、来店客が減少し売上が一時低迷、厳しいスタートとなりました。

しかし、「今までと同じようにレジ袋の使い捨てを続けたら、未来の子供達にきれいな地球を残せない」とお客様に訴え、客数・売上は持ち直しました。この反省を踏まえ、以降レジ袋有料化を実施するには、自治体や市民の皆様との合意のうえ、周囲の同業他社と連携し、地域全体で取り組みました。後から実施した地域では大きな問題は起こりませんでした。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援して下さること。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

レジ袋有料化店舗拡大と辞退率向上



地域環境活動に寄付

レジ袋を無料配布しない地域では、1枚5円で販売しています。購入していただいたレジ袋1枚につき1円を地域の環境活動に寄付しています。

■2011年度実績
93市町 173店舗 24,022,496円



レジ袋表彰 (白山市 松任店 臼井店長)

レジ袋削減のための取り組み

■お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「使用済みのレジ袋を再び使用しましょう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員 (1989年11月、サンテラス一宮店)

■マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



■レジ袋の無料配布中止

名古屋市緑区で、他のスーパーと一緒に有料化を進めました。市民や市の職員と一緒にキャンペーン活動をしました。



名古屋市緑区アピタ鳴海店

トレイを使わない販売へのチャレンジ

レジ袋の削減が進み、次に取り組む容器包装削減に食品トレイを取り上げました。精肉や鮮魚、惣菜などの販売に使用していますが、食品トレイはポリスチレン樹脂を発泡させた薄板をトレイ状に形成したもので、水に強く保冷性があり生鮮食品の容器包装に適しています。ところが、最近食品レジ近くのゴミ箱に、中身を出した後の食品トレイが捨てられていることが多くなってきました。そこで食品トレイを使わない販売を継続的に実践して、お客様からのご意見や売り場の声を聞きながら、使用削減にチャレンジすることになりました。

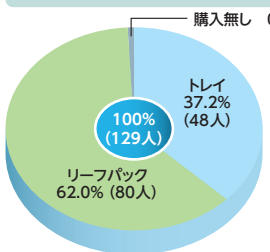
2008年に名古屋市アピタ千代田橋店精肉売り場で、ポリ袋を使った販売を実験し、2011年春には名古屋市ピアゴ清水山店でリーフパック (紙シートにラップを使った包装) で実験を行いました。今年は名古屋市緑区のアピタ緑店でリーフパック商品を継続的に販売しています。

トレイを使わない販売について、トレイ使用商品とリーフパック商品を購入されたお客様にアンケートを行い、お客様からの意見を聞きました。また、この販売には、リーフパックのメリットや環境配慮へのメッセージをPOPやポスターにして売り場に掲示し、その効果も検証しました。このPOPやポスターは「お買いもの革命」のリサーチャーズの皆さんに作成していただきました。



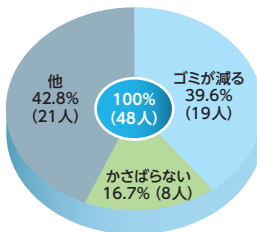
リーフパック売り場

「どちらの商品を購入しましたか？」



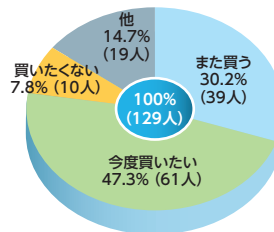
129人のお客様にアンケートを実施しました。リーフパックでの販売を知らなかった方が31人いらっしゃいました。

リーフパック商品を購入した方へ「どうして購入しましたか？」



「ゴミが減る」「かさばらない」という理由が大半で、その他は「シートの上で切ればまな板がいらない」「冷凍にしやすい」「前に購入してよかった」といものや「なんとなく」「欲しいものがたまたまリーフパックだった」などでした。

全員に「今後リーフパック商品を購入したいですか？」



今後購入したい方は77.5%でしたが、「買いたくない」と答えた方は「慣れているトレイの方がよい」「破れそう不安」「肉汁が出そう」などがその理由です。

※2011年11月27日～2012年2月4日 アピタ緑店

マイボトルキャンペーン

レジ袋以外の容器包装の削減のもう一つの提案が、「マイボトルを持つライフスタイル」です。2011年環境省の事業に横浜市が参加し、ユニーでは学生が多いアピタ戸塚店に給水機を設置し、いつでもマイボトルに給水できるサービスを行っています。また、キャンペーンにはモニター300名を募集し、eco!onオリジナルボトルを提供し、エコライフスタイルにチャレンジしていただきました。



給水機



モニター募集

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは、店舗から配送センター内のリサイクルセンターに搬送する際に、商品物流便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂排出削減に努めています（現在、北陸地区・中京地区の配送センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場へ搬入しています）。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器を計量し効率的に搬送しやすくするように圧縮し、それぞれのリサイクル工場へ搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

容器包装リサイクルの仕組み



リサイクルボックスによる容器の店頭回収

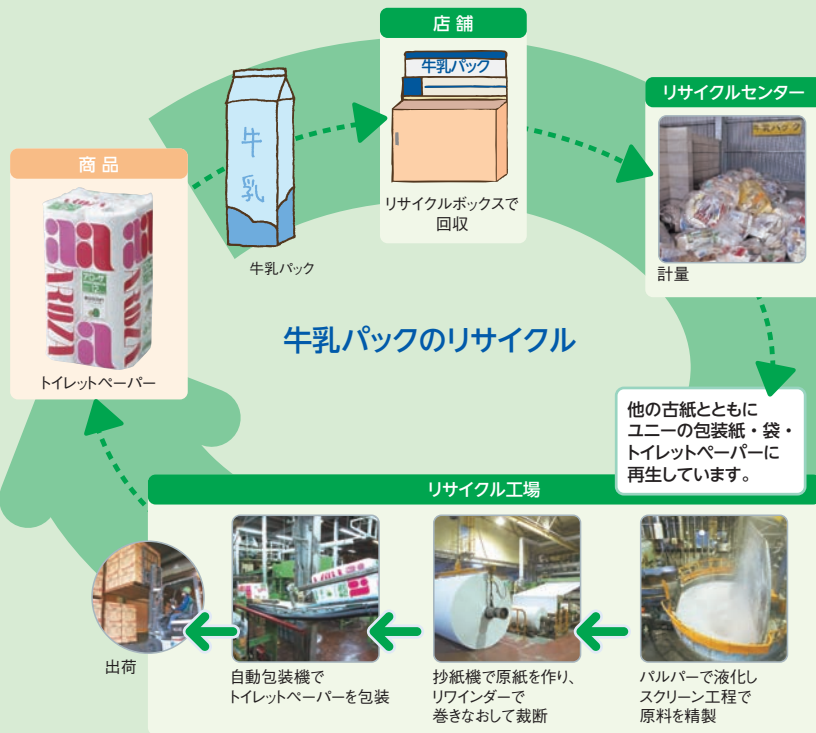
ユニーではお客様の家庭から出るゴミを削減し再生資源とするために、食品取り扱い店舗全店で使用済み容器包装を店頭に設置したリサイクルボックスで回収しています。これはお客様と一緒に進める「循環型社会構築」のための取り組みの一つです。リサイクルボックスで回収する容器包装は、再生利用ルートを確認し、国内で循環するシステムに利用できるものだけです。再利用することが困難なものは回収していません。

各店舗の回収実績は毎月集計し、ポスターで公表します。またリサイクルの流れやリサイクル製品を分かりやすく説明したポスターなども掲示し、お客様にリサイクルの仕組みを理解していただけるよう努めています。

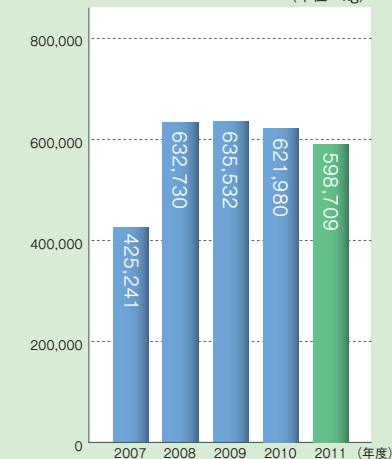


全国牛乳容器環境協議会によると、牛乳パックの回収率は日本全国で約34%（使用済み回収分）と報告されていますが、アルミ缶の90%、ペットボトルの80%に比べ、とても低い回収率です。牛乳パックはバージンパルプで製造され、高品質なパルプとして再生利用できます。

ユニーでは、牛乳の消費者である子供達に、お店探検や環境学習の場で牛乳パックのリサイクルについて学んでもらい、飲み終わった牛乳パックを洗って開いて、リサイクルボックスに自分で持ってくるよう啓発しています。

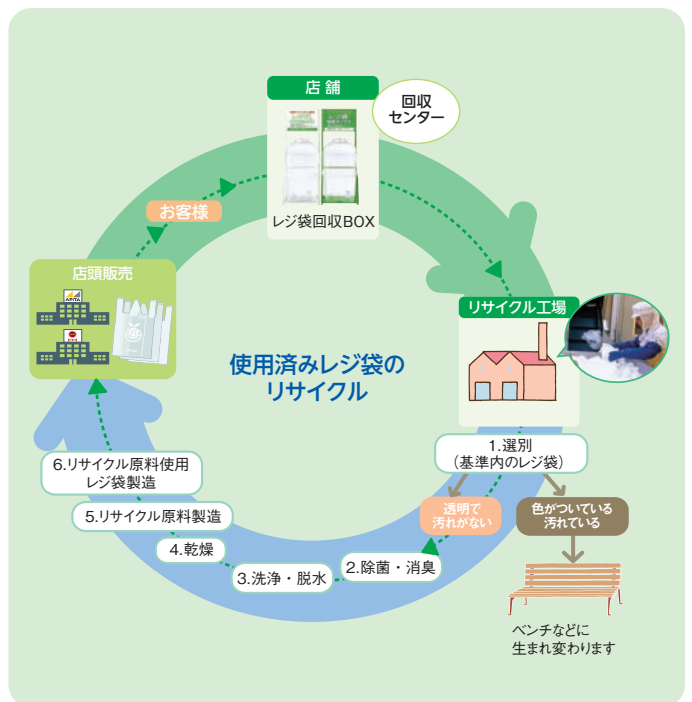
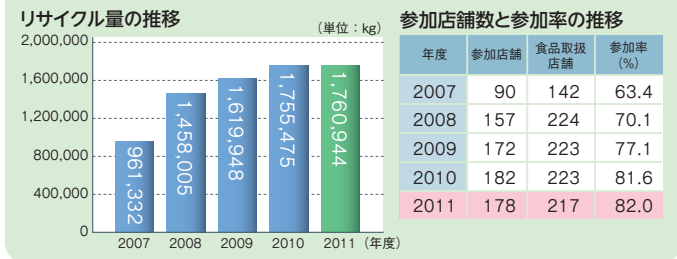
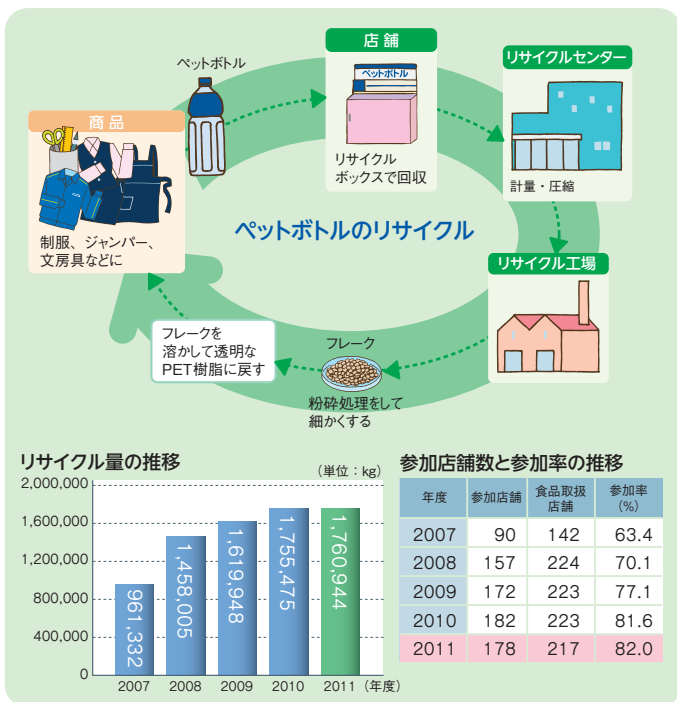
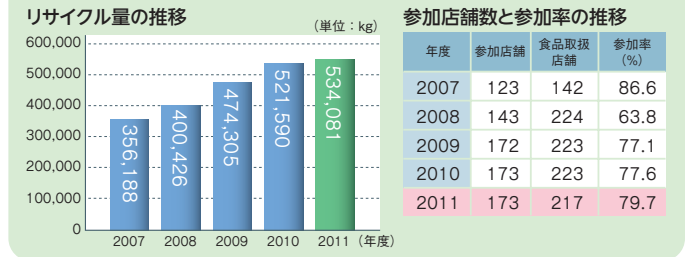
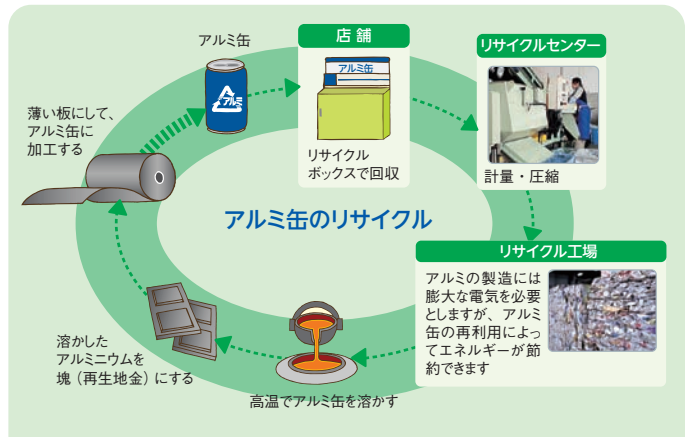
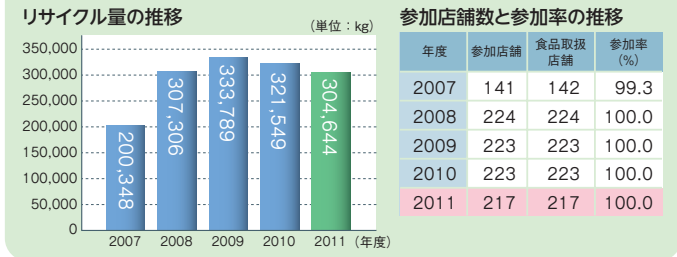
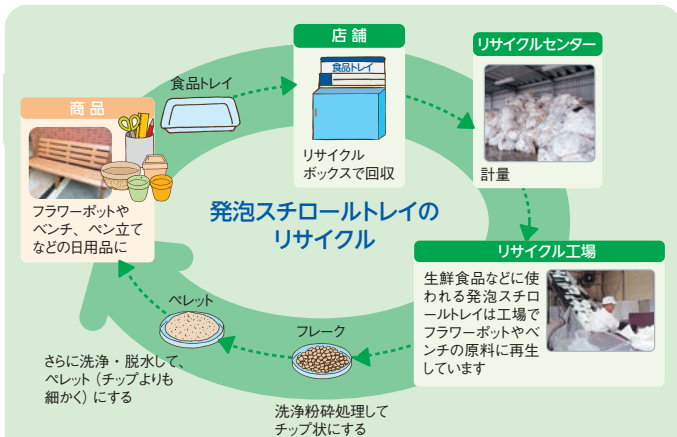


リサイクル量の推移



参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)
2007	142	142	100.0
2008	220	224	98.2
2009	223	223	100.0
2010	223	223	100.0
2011	217	217	100.0



環境省活かそう資源プロジェクト

資源循環を具体的に知ってもらい、「ゴミにしないで活かす」ことをテーマにしたプロジェクトが環境省廃棄物リサイクル部で立ち上がり、稲沢市のリーフオークの「エコ博」で展示されました。リサイクルという言葉はよく口にされ目にも止まりますが、具体的に何に再利用しているのかが見えてきません。私たちがリサイクルするために出し、回収された再生資源が活かされていることを知り、さらに資源循環に努めていけば、循環型社会を構築することができるのです。



店頭回収の現状

リサイクルボックス回収実績

リサイクルボックスの2011年度の回収実績はアルミ缶が前年比102%で増加、ペットボトルが前年比100%でした。しかし、食品トレイは前年比94.7%、牛乳パックは96.3%で前年より減少しています。ただ、回収実績は重量で示されており、ペットボトルと食品トレイは年々軽量化が進んでいるため、回収個数はそれほど減少していないと考えられます。

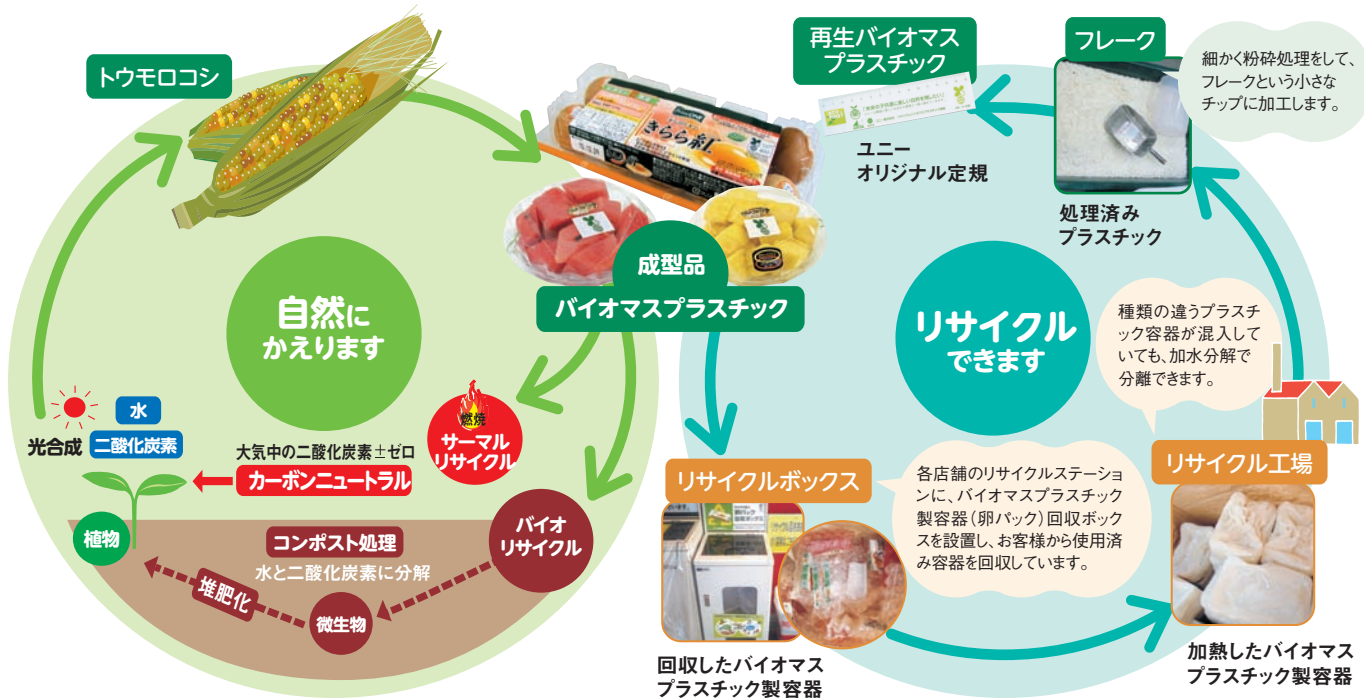
また食品トレイ回収の減少の要因としては、市や町のごみの分別が「容器以外のプラゴミ」と「容器プラゴミ」と分かりにくく曖昧で、家庭でゴミの分別が正しく行われていないことにあると思います。

3 サステイナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック（ポリ乳酸）製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料はほとんどが石油です。石油は地球に残された量には限りがあり、近い将来には使い切ってしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装にそのような資源を使ってしまってよいのでしょうか。また、石油は化石資源なので産出するときや廃棄処理するときCO₂を排出し、地球温暖化の原因になると言われています。

こうしたことを考えて、ユニーでは2006年から植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により大気中からCO₂を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サステイナブル（持続可能な）原料です。



バイオマスプラスチックの特徴



バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に戻ります。

1 石油に代表される化石燃料の節約になる
トウモロコシのような植物生まれの原料を使うことで、
限りある化石燃料が節約できます。

2 二酸化炭素を増やさない
バイオマスプラスチックを燃やしても、もともと含んでいた
二酸化炭素が自然にかえるだけで、地球上の二酸化
炭素の増加にはつながりません（カーボンニュートラル）。

3 微生物の力で水と二酸化炭素に分解
生ゴミなどの堆肥に入ると、微生物によって水と
二酸化炭素に分解され、廃棄物になりません。

4 リサイクルできる
使用済みバイオマスプラスチック容器を回収し、再
生資源としてリサイクルしています。

三県一市グリーン購入キャンペーン

2002年より愛知県・岐阜県・三重県と名古屋市との共催で「環境にやさしいお買い物」を推進するキャンペーンに参加しています。またユニーでは独自のプログラムとして、「バイオマスプラスチック製容器の認知度向上と普及」を目的に、応募企画と啓発イベントを実施しました。

このキャンペーンでは、文房具や食品のバイオマスプラスチック製容器などの紹介、使用済み容器包装の回収とその再生利用を子供達への環境学習と、大人のお客様にはクイズで啓発活動を行いました。



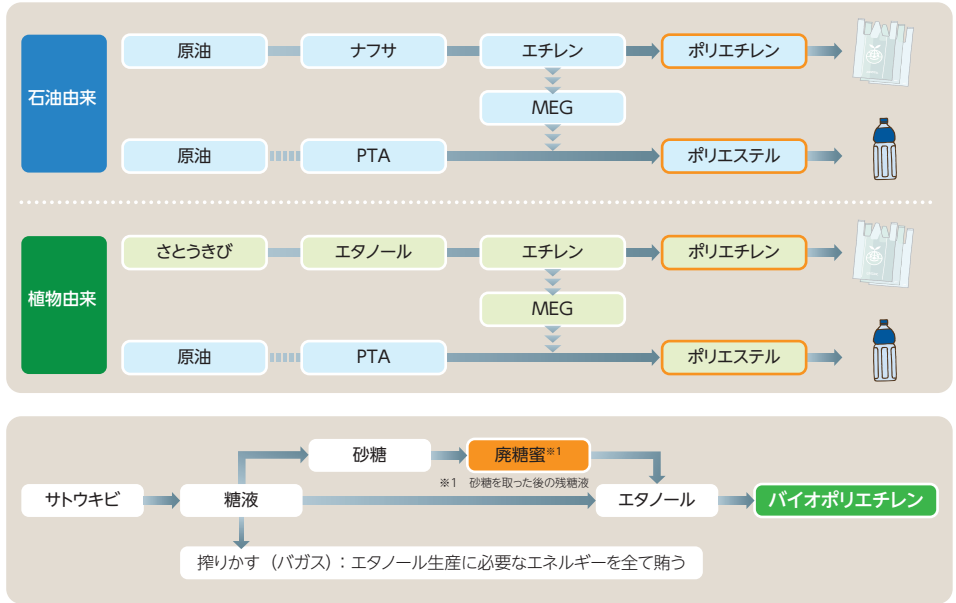
バイオマスプラスチック（バイオポリエチレン）製容器の活用

ユニーでは2012年よりサトウキビの廃材を利用したバイオマスプラスチック（バイオポリエチレン）を使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、石油由来のものとの大きな違いは、植物は光合成により大気中からCO₂を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サスティナブル（持続可能な）原料だということです。

食料との競合

「サトウキビから生産されるプラスチックは、食料との競合はないのでしょうか?」よく聞かれる質問です。このバイオマスプラスチックは砂糖を取った後の残糖液（廃糖蜜）から製造され、砂糖の生産には影響ありません。

石油由来／植物由来のポリエチレン・ポリエステルのできるまで



レジ袋にバイオマスプラスチックを使用

2012年6月から、ユニーのレジ袋無料配布中止している店舗で販売する有料レジ袋を、バイオポリエチレン25%含有製品に代えました。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは、石油由来100%のレジ袋に比べ、サトウキビの生産～ポリエチレン原料製造工程～レジ袋製造～輸送～焼却処分までのCO₂を17%削減します。ユニーとしてはCO₂を年間262,231kg削減します。（試算：補助工業）



製品の容器にバイオマスポリエチレンを採用

サスティナブル^{※1}とカーボンニュートラル^{※2}を目的としてStyle oneの衣料用洗剤・柔軟剤の一部商品の資材に植物由来のPETとPE^{※3}を使用しました。これらの原料はサトウキビの廃液を主とし、植物由来の原料（バイオマス）を使用することで枯渇が懸念される石油の使用量を抑制するとともに、生育段階における光合成によって廃棄時に発生するCO₂を相殺します。ボトル容器では重量の約30%、詰替容器では重量の約35%～40%にPET・PEを使用しています。

該当商品には、一般社団法人日本有機資源協会（JORA）とeco:lon第三者審査委員会より認定されたことを証明するそれぞれ「バイオマーク」と「eco:lonマーク」を表示しています。

※1 サスティナブル：地球環境を保全しつつ持続可能なことを指す
 ※2 カーボンニュートラル：排出されるCO₂と植林などで吸収されるCO₂が同じ量である状態
 ※3 PET：ポリエチレンテレフタレート PE：ポリエチレン



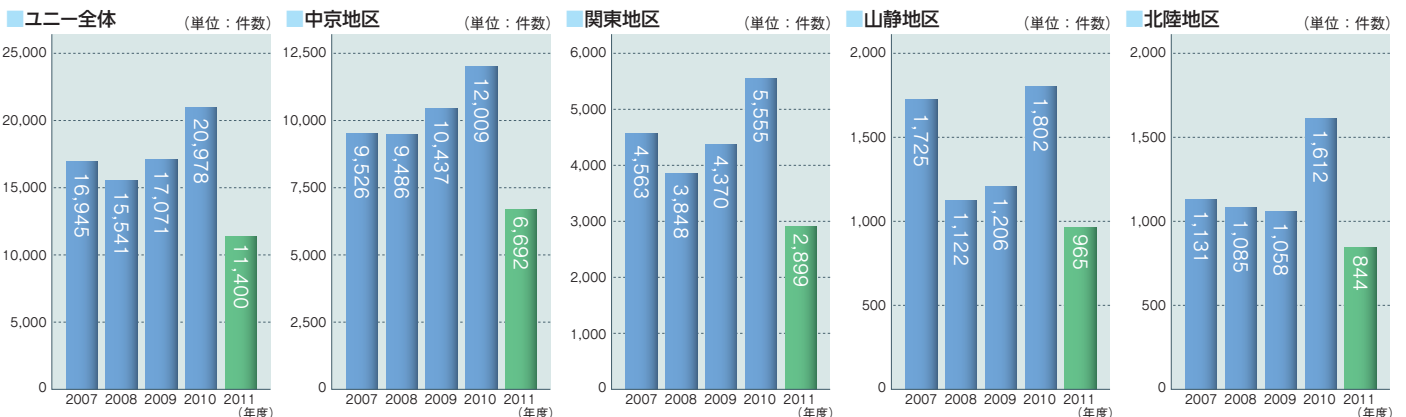
住関本部
商品開発部バイヤー
千葉哲志



家電リサイクル

家電リサイクル回収実績

家電リサイクル法に定められた冷蔵庫・洗濯機・エアコン・テレビの4品をお客様の家庭から回収しています。ただし、家電製品取扱い店舗が年々縮小しているため、回収量は減少しています。



食品廃棄物リサイクルシステム

現在日本では、食料自給率が40%に満たない状況でありながら、毎日大量の未利用食品が廃棄されています。これらの食品廃棄物の発生抑制と循環資源として再生利用するために、ユニーでは食品リサイクル法を遵守し、食品廃棄物をできるだけ発生させない取り組みと、循環型農業による「食品リサイクルループ」の構築に努めています。

食品廃棄物発生抑制への取り組み

2007年の食品リサイクル法改正では、「食品関連事業者においては、食品廃棄物等の発生抑制を最優先で取り組むもの」と位置づけられ、2012年の見直しでは、「業界区分の細分化と各々の発生率の目標値」が設定されました。

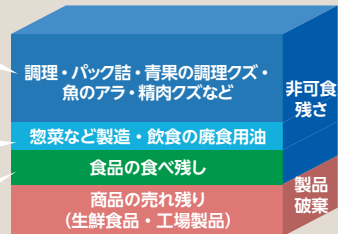
小売業における食品廃棄物は、販売前に発生するキャベツの外葉や魚のアラなどの非可食品と、「売れ残り」「食べ残し」などの可食品があり、後者は消費者行動に関係するものが少なくありません。食品廃棄物の発生抑制を進めるためには、食品関連事業者と消費者が連携した取り組みが必要です。

ユニーの店舗から排出される未利用食品(食品残さ)

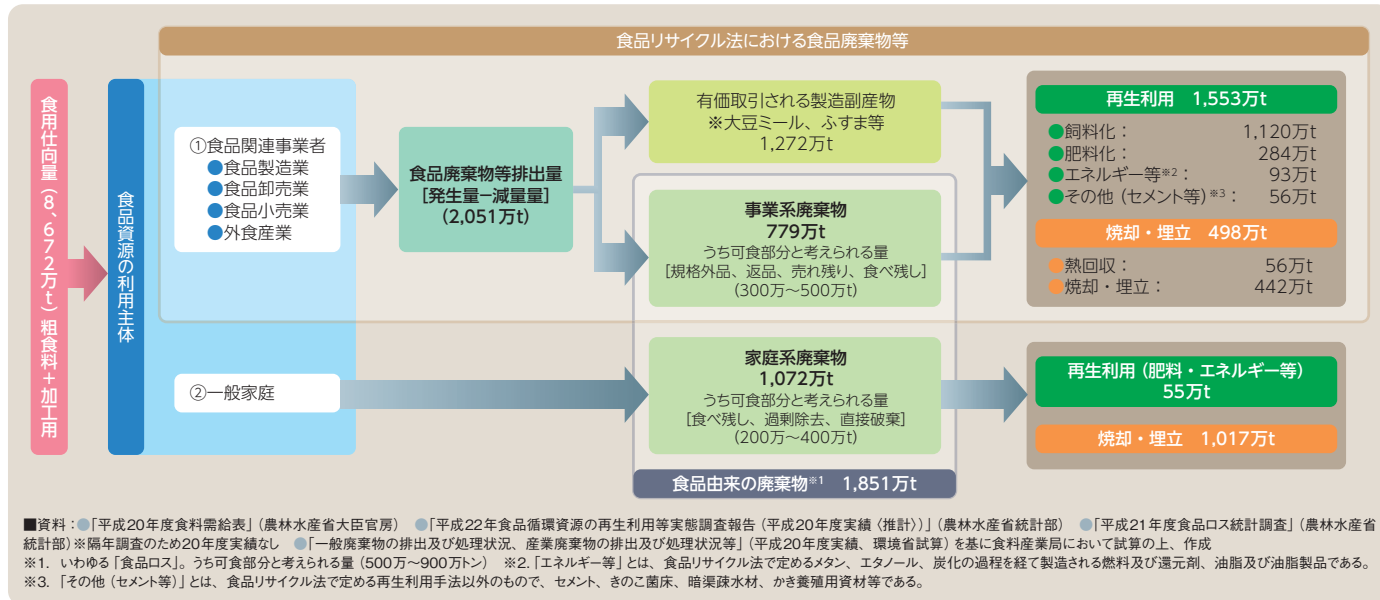
市場や生産地から生鮮食品が搬入され、売り場に出すために調理するときに排出される食品残さ

総菜やパンなど店内で製造する際、飲食店で調理する時に排出される使用済み廃食用油

飲食店などでお客様が残した食品残さ



日本の食品廃棄物等の利用状況(平成20年度推計)【概念図】



ユニーの食品リサイクル方針

2001年にユニー環境部が設立された時点で、食品リサイクル法はすでに施行されており、食品関連事業者は業種の区別なく、20%以上リサイクルなどの実施が義務付けられていました。ユニーはこの数値を達成するために、「食品リサイクルの方針」を決めました。食品リサイクルの方法として、環境負荷の少ない、経済的に負担が重くなく、持続可能なものを構築してきました。特に再生品・農畜産物を自社で販売するリサイクルループの構築にこだわっています。

その後2007年に食品リサイクル法が改正され、新たに小売業45%というリサイクル率目標が設定され、さらに取り組みの強化を図りました。食品リサイクルは、自然環境や生物多様性を保全し、持続可能な地域循環を目指すものです。

- 1 安全であり環境負荷が少ないこと。
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 2 再生資源として有効であること。
(有価資源になり再廃棄しない)
- 3 経費が抑えられること。
(公共処理料金との比較)
- 4 継続できる方法であること。
(リサイクルルートが確立していること)

リサイクル実績

店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品)	2010年度			2011年度		
	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
生鮮食品の調理クズ(野菜果物など)、賞味期限切れや飲食の食べ残し	14,777	5,685	38.5	14,174	6,436	45.4%
魚のアラ(魚介類の調理クズや内臓・骨)	3,712	3,190	85.9	3,177	2,841	89.4%
廃食用油(使用済み揚げ油)	1,418	1,418	100.0	1,371	1,371	100.0%
てんかす(フライやテンブラなどの揚げカス)	1,303	85	6.5	1,221	164	13.4%
合計	21,210	10,378	48.9	19,944	10,812	54.2%

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

食品廃棄物発生とリサイクル実績

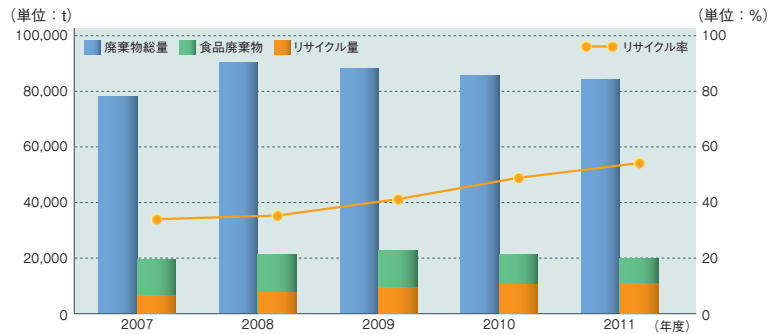
ユニーでは全店舗で廃棄物の分別計量を行うことで、廃棄物の総排出量は毎年削減できています。食品廃棄物についても、商品の廃棄ロス削減に取り組み、毎年削減しています。また、食品リサイクルループの構築を店舗所在地でそれぞれ進めており、2011年には16県下12ループが完成、リサイクル量も年々増加し、リサイクル率も向上しています。

エコ・ファーストの約束では店舗営業所所在地全てでリサイクルループを構築するとしています。現在、食品リサイクルループを構築できていない県下においては、再生利用事業者・農業生産者とのパートナーシップにより農畜産物を店舗で販売する取り組みを進め、2013年3月末までに食品リサイクルループの構築を目指しています（福島県を除く）。

食品リサイクルの推移

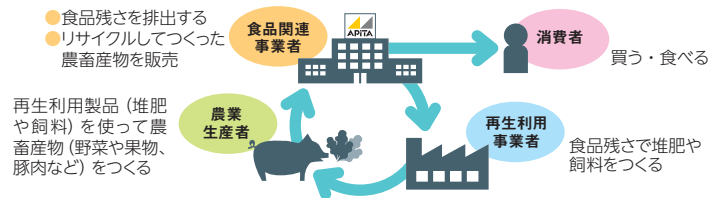
年度	廃棄物総量 (t)	食品廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
2007	78,013	19,605	6,656	34.0
2008	90,560	21,436	7,561	35.3
2009	88,412	22,908	9,444	41.2
2010	85,735	21,210	10,378	48.9
2011	84,332	19,944	10,812	54.2

※2008年にユースストアと合併したため、排出量が増加した



リサイクルループを構成するパートナーシップ

私達がそれぞれの役割を果たすことによって、リサイクルの環が完成します。食品をムダにせずに、ゴミも減らすことができる、地球にやさしいライフスタイルです。「安全安心で新鮮、そしておいしい」、作った人の顔が見える農産物をお客様にお届けすることが、ユニーの役目と考えています。



食品関連事業者

食品循環資源を排出する店舗

- 調理クズ・魚アラ・売れ残り・残飯などから異物を排除し分別、計量する
 - 分別マニュアルの作成
 - 従業員・テナントへの教育の徹底
- 食品循環資源の品質を確保するために、適正に保管する
 - 廃棄物庫の整備（清掃・冷蔵施設）
 - 保管容器の整備（分別容器・洗浄）

再生利用事業者

- 品質の高い再生製品（堆肥・飼料）を製造する
 - 原料である食品循環資源・製造方法・施設・保管の基準作成と監視
- 農業生産者のニーズにあった再生製品を製造する
 - 再生製品の販売先を確保し、農業生産者とパートナーシップを図る

農業生産者

リサイクル農産物を消費者に提供する

- トレーサビリティの確立（生産者の顔が見える農産物）
 - 農業生産者の生産技術と適正な再生製品（堆肥・飼料）によって、安全安心な農産物を提供してもらう

リサイクルループを構築するために

店舗の所在地で「地域循環型食品リサイクルループ」を構築し、地域の再生利用事業者や農業生産者とパートナーシップを図っていくことがユニーの方針です。パートナーを探すために、紹介者（もしくはコーディネーター）が必要になります。パートナーシップで最も重要な要素は、お互いの食品リサイクルに対するポリシーが合っていることです。



エコ野菜売場

環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生製品（堆肥や飼料）を利用する農業者を探す

再生利用事業者の製造する堆肥や飼料が、農業生産者の利用に適した品質かどうかを確認する。

地産地消を前提に、生産技術の高い農業者に主旨を理解してもらい、パートナーになってもらう。

仕入担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る

食品関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

販売計画を立てる前に、農作物の栽培履歴や品質が販売基準に達しているかどうかを確認する。

販売計画に基づいて生産計画を検討して、購入契約を結ぶ。

売り場にリサイクルループの主旨説明や生産者の紹介などを掲示し、「安全安心な農作物」であることを明示する。

食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷の少ないリサイクルの構築に努めてきました。

2000年

- 福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
- 名古屋市内店舗に熱乾燥処理機導入（アピタ新守山店）



福井環境事業の循環型農業

2001年

- アピタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加

2002年

- 茨城県で堆肥へのリサイクルに取り組む
- 愛知県内2店舗に真空乾燥機導入（アピタ岡崎北店・アピタ東海荒尾店）

2003年

- 富山市内4店舗、富山エコタウンに参加（バイオガスによる発電）



富山エコタウン「富山グリーンフードリサイクル」

2004年

- 長野県（アピタ伊那店）・奈良県（アピタ大和郡山店）の店舗に真空乾燥機導入
- 愛知県内3店舗で愛知経済連の協力により堆肥化および作物栽培・販売の実験開始
- 三重県で堆肥へのリサイクルに参加（アピタ鈴鹿店）

2005年

- 三重県内で堆肥を使って栽培した作物の販売開始（アピタ松阪三雲店）
- 愛知県で2店舗（アピタ瀬戸店・アピタ江南西店）乾燥機導入

2006年

- 横浜市内3店舗が、店舗から排出した食品残さを飼料にして飼育した豚の肉を販売する「横浜有機リサイクル」（登録再生利用事業者）に参加

2007年

- 愛知県刈谷市で構築した「食品リサイクルループ」が、1月に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- けやきウォーク前橋（アピタ前橋店）・アクアウォーク大垣（アピタ大垣店）に真空乾燥機を導入

2008年

- 愛知県一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるユニー・サークルKサンクスで取り組むリサイクルループが完成し、食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- アピタ御嵩店に真空乾燥機を導入

2009年

- 名古屋市内および春日井市内店舗から排出した食品残さを飼料にする取組「中部有機リサイクル」に参加
- 石川県・山梨県・三重県で地域の再生利用事業者や農業生産者とともに新たなリサイクルループを計画する
- 名古屋市内および春日井市・瀬戸市内店舗から排出した食品残さを飼料化施設「中部有機リサイクル」に搬入し、リサイクルループの構築を図る
- 千葉県・埼玉県・山梨県・石川県でリサイクルループの取り組みを始める

2010年

- 三重県（三功）、神奈川県（横浜市有機リサイクル）、富山県（富山グリーンフードリサイクル）の既存リサイクルループを再生利用事業計画に申請。8月横浜市有機リサイクルが認定される
- 愛知県（中部有機リサイクル）のエコフィードで豚の飼育実験を実施
- 千葉県（プライトビック）では、コンビニエンスストアのサークルKサンクス・ファミリーマートとの共同でリサイクルループを構築。ユニーの関東地区で山崎製パンが製造した「エコポークで作った惣菜パン」を販売

2011年

- 3月プライトビック・山崎製パンのリサイクルループが認定される。6月エコポークの惣菜パンをユニーとコンビニ2社で販売
- 6月三功のリサイクルループが認定される
- 愛知県・岐阜県（中部有機リサイクル）のリサイクルループを申請。岐阜県多治見市を組み込んだ
- 京都府（京都有機質資源）のリサイクルループを申請
- 京都有機質資源のエコフィードによる鶏卵生産のリサイクルループが認定される（ユニーで6例目）
- 中部有機リサイクルで愛知県・岐阜県のリサイクルループが認定される（ユニーで7例目）

2012年

- 京都有機質資源のリサイクルループに滋賀県・奈良県の店舗を加え、リサイクルループを完成させ、認定される
- 福井県坂井市長谷川造園とJA花咲ふきのリサイクルループ申請
- 新潟市不二産業とJA新潟みらいのリサイクルループ申請
- 長野県飯田市いい有機とJAみなみ信州のリサイクルループ申請
- 静岡県、山梨県の天カス堆肥（静岡油化工業）でサツマイモを栽培するリサイクルループを申請

食品リサイクルループの環

ユニーは店舗を営業している各地域で食品リサイクルループを構築し、循環の環を回し続けることを目標としています。食品リサイクルループは、食品廃棄物を再生利用するだけでなく、消費者と農業者を結び、地産地消を実現する有効な手段でもあります。またトレーサビリティが明確であることから、食の安全安心の確保にも繋がります。

さらに食品リサイクル法で定められた「再生利用事業計画」を国に申請し認定されることで、食品リサイクルループの有効性と法遵守を確実に継続させていきます。

ユニーの循環型リサイクル（乾燥食品残さ・大根のツマ）

2000年からユニーの店舗に食品残さ乾燥機を導入し、乾燥した食品残さを堆肥製造業者に販売し、堆肥の原料にしています。この堆肥を使って栽培した大根で「刺身のツマ」を作って、店舗で使用しています。2000年から2008年までに食品残さ乾燥機を新規開店店舗に導入してきましたが、2007年に食品リサイクルループが再生利用事業計画に認定されたことで地域循環型農業を推進する方針とし、乾燥機の新規導入は中止しました。現在では6店舗で継続しています。



各地で実施している食品リサイクルループ

ユニーは店舗を営業している各地域で食品リサイクルループを構築し、循環の環を継続することを目標にしています。食品リサイクルループは、食品廃棄物を再生利用するだけでなく、消費者と農業者を結び、地産地消を実現する有効な手段でもあります。またトレーサビリティが明確であることから、食の安全安心の確保にもつながります。さらに食品リサイクル法で定められた「再生利用事業計画」を国に申請し認定されることで、リサイクルループの有効性と法遵守を確実に継続させていきます。

愛知県ヒラテ産業・JAグループ【愛知県】

ユニーが最初に取り組み、2005年から事業を始めたリサイクルループです。愛知県刈谷市の再生利用事業者（ヒラテ産業：堆肥化）とJAグループとの連携で、現在は、愛知県下の刈谷市・知立市・安城市・岡崎市のアピタ・ピアゴの店舗から食品残さを回収し堆肥を製造。その堆肥を使って栽培した野菜や果実を再び店舗で販売しています。農業者とのパートナーシップは、JAあいち海部・JAあいち中央と組んで、地産地消に取り組んでいます。

- 2007年…食品リサイクル法再生利用事業計画を全国初の認定
- 2007年…第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞
- 2011年…再生利用事業計画変更の認定



2007年10月第1回環境省食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞



D.I.Dバイオマスリサイクルシステム・JAグループ【愛知県】

2008年、愛知県一宮市の再生利用事業者（D.I.Dバイオマスリサイクルシステム：堆肥化）に一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるアピタ・ピアゴの店舗から食品残さを搬入し、JAグループとの連携でリサイクルループを構築しました。当初から複数の自治体にある店舗からなるリサイクルループで、現在ではさらに拡大し、大口町・岩倉市・小牧市の店舗からも食品残さを搬入しています。

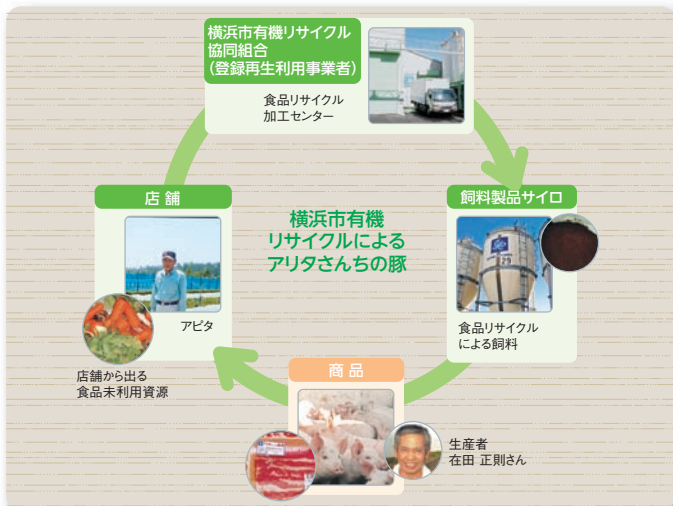
- 2008年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで2例目）



横浜市有機リサイクル・アリタさんちの豚【神奈川県】

2006年にユニーとして初めて飼料化のリサイクルに取り組んだリサイクルループです。横浜市内の店舗から食品残さ（パンと野菜）を再生利用事業者（横浜市有機リサイクル：飼料化）に搬入し、豚の飼料を製造。この飼料を千葉県のある田さんが飼育する豚に給餌し、横浜市内店舗で「アリタさんちの豚」ブランドで販売しています。

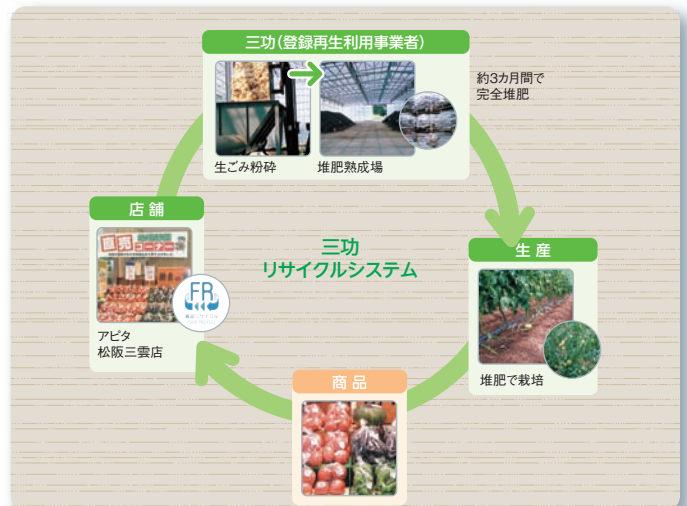
- 2010年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで3例目）



三功・酵素の里【三重県】

2005年から三重県にある店舗から食品残さを再生利用事業者（三功：堆肥化）に搬入し、堆肥を使って農業法人酵素の里で栽培した野菜や果実を店舗で販売しています。さらに、2006年からは消費者、特に子供達を対象に、食品リサイクルループ・循環型農業の見学・収穫体験を実施し、食品リサイクルの普及啓発を協働で行っています。

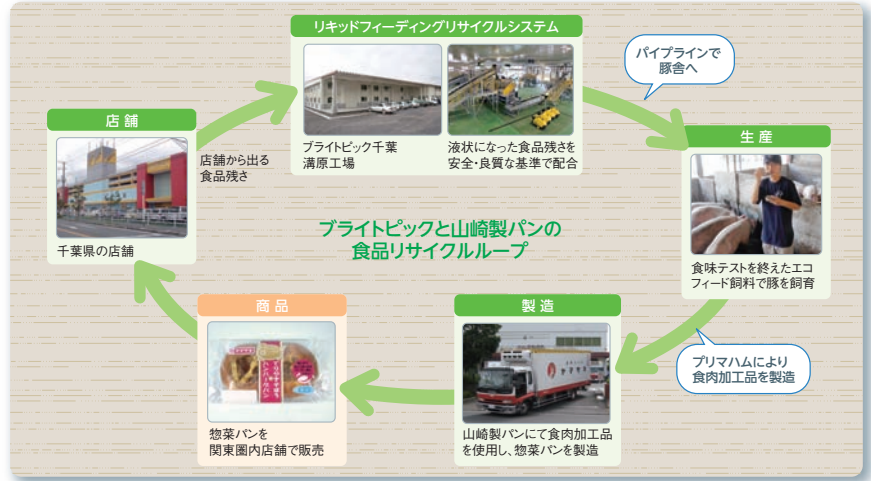
- 2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで5例目）



ブライtpick・プリマハム・山崎製パン [千葉県]

2009年に千葉県の店舗から排出される食品残さ(野菜)を再生利用事業者(ブライtpick:飼料化)に搬入し、生産された豚を原料にプリマハムで肉惣菜を製造。これを使って山崎製パンで作った惣菜パンを関東地区の店舗で販売するリサイクルループを構築しました。このリサイクルループには、サークルKサンクス、ファミリーマートも参加し、コンビニエンスストアの売れ残りの惣菜やパンを飼料の原料に使い、さらに惣菜パンを販売しています。

●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定(ユニーで4例目)



中部有機リサイクル・PBブランド豚 [愛知県・岐阜県]

2009年から愛知県の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者(中部有機リサイクル:飼料化)に搬入し、豚の飼料の原料としています。2010年にユニーのPBブランド豚の給餌試験を実施、豚の育成状況や豚肉の品質が良好な結果を得、2011年からリサイクルループを構築しました。さらに、環境省中部事務所の食品リサイクル推進事業「中部地方における地域循環圏の構築に向けた検討会」に参加、岐阜県多治見市との協議が成立し同市の店舗もループに加わりました。

●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定(ユニーで7例目)



京都有機質資源・鶏卵 [京都府・滋賀県・奈良県]

2010年から京都府下の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者(京都有機質資源:飼料化)に搬入し鶏のエコフィードを製造、鳥取レイクファームで給餌し生産した鶏卵「ほのぼの卵」を店舗で販売しています。

2011年に食品リサイクル法再生利用事業計画認定。2012年に近隣の滋賀県下、奈良県下の店舗もリサイクルループに加入し、変更届を提出し認定されました。

●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定(ユニーで6例目)
●2012年…再生利用事業計画変更の認定



いいだ有機・JAみなみ信州 [長野県]

2011年から長野県下の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者(いいだ有機:堆肥化)に搬入し堆肥を製造。これをJAみなみ信州で栽培する作物に施肥、収穫した作物は店舗で販売するというリサイクルループを構築しました。

●2012年6月…食品リサイクル法再生利用事業計画申請



長谷川造園・JA花咲ふくい [福井県]

2011年から福井県下の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者(長谷川造園:堆肥化)に搬入し堆肥を製造、JA花咲ふくいのでこの堆肥を使って栽培した作物を店舗で販売しています。

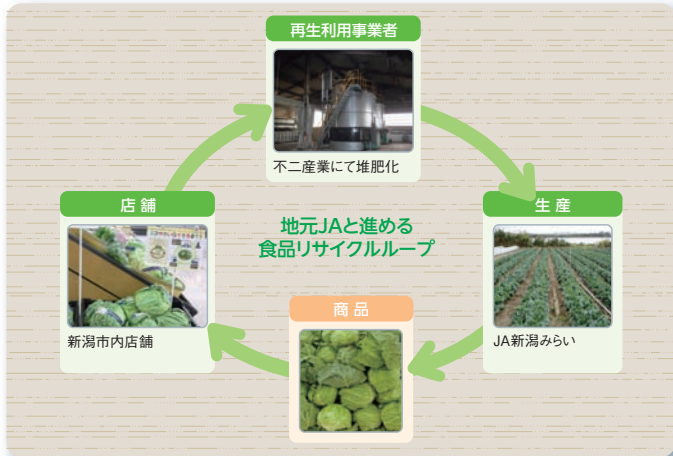
●2012年5月…食品リサイクル法再生利用事業計画申請



不二産業・JA新潟みらい [新潟県]

2011年から新潟県下の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者（不二産業：堆肥化）に搬入し堆肥を製造、JA新潟みらいでこの堆肥を使って栽培した作物を店舗で販売しています。

●2012年5月…食品リサイクル法再生利用事業計画申請



静岡油化工業・地元の農業生産者 [静岡県・山梨県]

2010年から静岡・山梨県下の店舗から排出される食品残さ（天ぷらかす）を再生利用事業者（静岡油化工業：堆肥化）に搬入し堆肥を製造、地元の農業生産者でこの堆肥を使って栽培した作物を店舗で販売します。

●2012年7月…食品リサイクル法再生利用事業計画申請予定



富山グリーンフードリサイクル・JAなのはな [富山県]

2003年から富山県下の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者（富山グリーンフードリサイクル：メタン化）に搬入し、メタンガスを取り出した後の副産物で堆肥を製造、2008年からJAなのはなでこの堆肥を使って栽培した作物を店舗で販売しています。



食品廃棄物発生抑制目標の設定

食品廃棄物等の発生抑制の目標値が設定されました。2012年度は、発生抑制の重要性が高い業種から先行して目標値を設定しました。当面は暫定目標値として実施されますが、食品関連事業者は食品廃棄物等の単位当たりの発生量がこの目標値以下になるよう努力が必要です。

発生抑制の目標値一覧 (2012年4月～2014年3月)

業種	業種区分	暫定目標値
食品製造業	肉加工品製造業	売上高百万円あたり 113kg
	パン製造業	売上高百万円あたり 194kg
	そう菜製造業	売上高百万円あたり 403kg
食品卸売業	すし・弁当・調理パン製造業	売上高百万円あたり 224kg
	飲料・飲料卸売業 (飲料を中心とするものに限る)	売上高百万円あたり 14.8kg
食品小売業	飲料・飲料卸売業 (飲料を中心とするものを除く)	売上高百万円あたり 4.78kg
	各種食品小売業	売上高百万円あたり 65.6kg
	菓子・パン小売業	売上高百万円あたり 106.0kg
	コンビニエンスストア	売上高百万円あたり 44.1kg

※食品廃棄物の発生量と密接な関係を持つ値（売上高、製造数量等）当たりの発生量を、発生原単位（単位当たりの発生量）といえます。

食品リサイクル普及に向けての取り組み

農業体験

食品リサイクルループを体感してもらいました。食品残さが堆肥になる過程での臭いや温度を体感して、また田植えや収穫体験を通して、食べるということは多くの生き物との関わりによって成り立っているという「生物多様性」も学びました。



消費者交流

循環型農業で生産している農業生産者と消費者の交流会を定期的で開催しています。農業体験や郷土料理を味わいながら、安全安心な作物作りにおける生産者の努力を知ってもらいました。さらに消費者からも生産者への要望をお聞きしました。



JAあいち海部のエコ部会

食品リサイクルループで地域循環型農業を実践しているJAあいち海部のエコ部会総会が開催されました。食品残さを原料にした堆肥を使った栽培は、堆肥の形質や栄養成分などの知識や技術が必要です。エコ部会では毎月生産計画と販売計画のすりあわせをユニー青果部と行い、食品リサイクルループの継続的発展を確認しあっています。



食品リサイクル法 2011年度定期報告書

■再生利用等実施率 64.1%

(2011年度単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した数値)

■食品廃棄物等の発生原単位

(食品売上高百万円当りの廃棄物発生量) 34.67696kg / 百万円

(●2007年度=44kg / 百万円、2007年度比=78.8%)

(●2010年度=35.64kg / 百万円、2010年度比=97.3%)

低炭素社会の構築 [環境にやさしいお買い物]

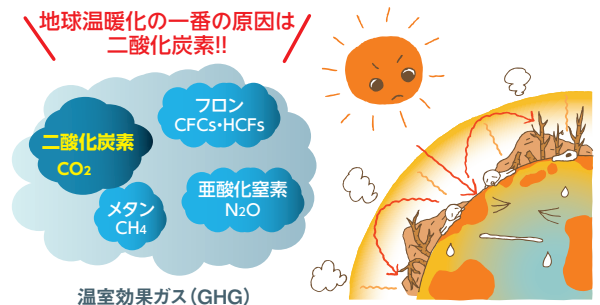
地球規模での環境問題「地球温暖化」を防止するために、2009年には我が国の目標を、2020年までにCO₂など温室効果ガス排出量を1990年比25%削減することとし、環境省は「チャレンジ25キャンペーン」を立ち上げました。2011年3月11日の東日本大震災による原子力発電所の事故を踏まえ、すべての立場で節電を要求されています。安全で持続可能なエネルギーを創造していくことが、これからの大きな課題ですが、私たち一人ひとりの暮らし方を見直し、ライフスタイルを低炭素型に変えていくことが地球温暖化防止に大きく寄与するのです。

地球温暖化とは

地球環境の現状

CO₂などの温室効果ガス（GHG：Green House Gases）の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスが取れていたのですが、人間が化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）を消費するようになり、吸収しきれなくなりました。

地球温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することにより温室効果ガスを排出し、また熱を放出していることが原因といわれています。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスがさらに増加し、平均気温が上昇し、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。

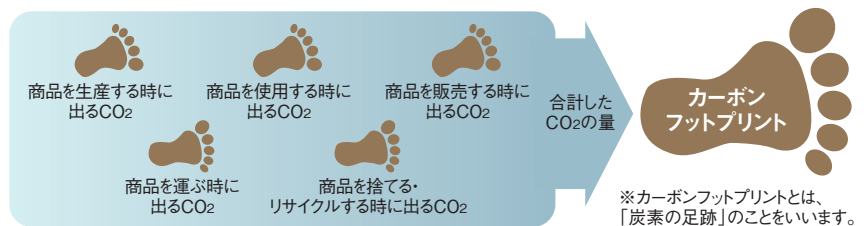


CO₂排出量を減らすための取り組み

CO₂の見える化

CO₂は大きな工場や輸送などでたくさん発生していると思いがちですが、実は私達の生活からも少なからず発生しています。

家庭での電気使用や自家用車などだけではなく、スーパーでの買い物由来のCO₂もあります。例えば店先に並んでいる野菜や果物も旬の季節の路地栽培だけではなく、石油を燃料にしてハウスで栽培された季節外れのものや、遠い海外で栽培され飛行機で届けられたものも、普通に販売され購入されています。また、商品の容器包装やレジ袋も、中身を出してしまったあとはゴミになり、焼却処分されればCO₂が発生します。買い物をするとき、地産地消や旬のものを選んだり、容器包装の少ないものやレジ袋を断れば、それだけCO₂の少ない低炭素型社会への貢献につながります。



レジ袋を断ると、1枚あたりCO₂は32.8g削減できます。肉や魚をトレイを使わずに購入すると、トレイ1枚あたりCO₂は10.7g削減できます。飲み終わったペットボトルをリサイクルボックスに持って行くと1本あたり180g削減できます。（環境省 3R見える化プロジェクト）

カーボンフットプリントの算出

ユニーで販売し、お客様に購入していただいている商品やサービスは、原料の採取、生産、運輸、販売、消費、使用後までの商品の一生（ライフサイクルアセスメント）を通じて、多くのエネルギーが使われています。そのエネルギーの多くは化石燃料から得られているので、地球温暖化の原因となるCO₂を大気中に放出しているのです。

商品の一生からそれぞれの過程で排出されるCO₂を数値で表したものがカーボンフットプリントです。



原子力発電所の稼働中止以降の消費電力削減対策

ユニーでは2012年夏の電力需要に備え、節電対策を積極的に実施しています。店舗での節電には、照明や空調温度などお客様からの協力が必要なものがあります。電力不足に配慮するだけでなく、地球温暖化防止を目指しています。期間は2012年6月21日から9月30日までの102日間、中京（関西電力管内を除く）、北陸エリアは削減目標5%、関東、山梨静岡、関西電力管内エリアは削減目標15%（数値目標は2010年比）としています。

お客様の家庭での節電対策

2011年同様、原子力発電所の稼働中止による電力供給量の減少や夏のピーク電力時の停電などへの配慮から、家庭でも積極的な節電対策が必要とされています。ユニーは2011年につづき2012年夏も、節電ライフに役立つ情報や商品の紹介をパンフレットにして配布しました。



「節電ライフ」パンフレット

消費電力削減のための取り組み

- ①室内温度を28℃に設定
(事務所、社員食堂、バックヤードを含む)
- ②店内照明の消灯
(衣料・住居関連商品のスポット照明の一部、バックヤード)
- ③自動販売機の消灯と冷蔵停止時間の設定
- ④冷蔵ケースの適温管理
(ビール、ワイン、ペットボトルを5℃から10℃に)
- ⑤衣、住、食のフィールド天井照明を20~30%消灯、モール店舗は通路も同様
- ⑥店外照明(塔屋の照明、イルミネーション、店舗壁面広告照明)の消灯
(夜間照明はお客様の安全を考えた設定です)
- ⑦その他、エレベーター、エスカレーターの一部停止

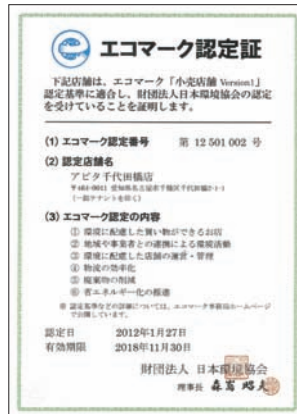
低炭素社会を目指すエコストア

アピタ千代田橋店がエコマーク小売店舗第1号に認定

名古屋市のアピタ千代田橋店は、日本環境協会が新たに認定基準を制定したエコマーク小売店舗第1号として2012年1月27日に認定されました。ユニーは持続可能な社会を目指し、店舗で具体的に実践しています。その活動と成果がエコマーク小売店舗の認定基準に達していると認定されたのです。

特に評価された項目は、次のとおり。

- 食品リサイクルループを実践し生産した野菜や精肉を販売、さらにその工程を消費者に見学や農業体験を通して伝えていること。
- 容器包装廃棄物削減とリサイクル推進の取り組み。
 - ・レジ袋辞退率……89.4% (2011年度)
 - ・青果、鶏卵のパックにバイオマスプラスチックを使用。使用後は回収しリサイクルしている。
 - ・ばら売りの促進やトレイを使わない販売の試行など
 - ・店頭回収の実施および再生品化の推進 (牛乳パックから製造したトイレトペーパーの販売など)
- 消費者交流などによる環境啓発活動の実施
 - ・地域の消費者と一緒に「環境にやさしいお買い物」をテーマにした交流会を開催している。
 - ・子供達のお店探検など、次世代に環境教育を行っている。



アピタ千代田橋店 古橋幸典店長

容器包装削減活動とリサイクルによるCO₂削減効果 (環境省「3R行動見える化ツール」プロジェクトによる)

節電やエネルギーの節約以外にも、レジ袋を使わなかったり、飲み終わった容器をリサイクルボックスに持って行くといった環境活動でCO₂削減ができます。ユニーでは2011年度の環境活動で、レジ袋の削減で約7,325t、リサイクルボックスで約1万1,024t、合計約1万8,349tのCO₂を削減できました。

- レジ袋を辞退すると、33gのCO₂が削減できます。
ユニーが2006年に使ったレジ袋 …… 3億3,363万枚
2011年に使ったレジ袋 …… 1億1,163万2,000枚
2億2,199万8,000枚削減 (CO₂は732万5,934kg削減)

2011年度リサイクル回収によるCO₂削減量

	回収実績 (kg)	CO ₂ 削減量 (kg)
アルミ缶	534,081	3,257,894
牛乳パック	598,709	535,246
食品トレイ	304,644	1,507,988
ペットボトル	1,760,944	5,723,068
合計		11,024,196

- リサイクルボックスで回収すると
アルミ缶1kgで6.1kgのCO₂削減
牛乳パック1kgで0.894kgのCO₂削減
食品トレイ1kgで4.95kgのCO₂削減
ペットボトル1kgで3.25kgのCO₂削減

日本環境協会によるエコマーク小売店舗の認定基準

エコマーク新規商品類型「小売店舗Version1」を2011年11月に制定。店舗面積が1000㎡を超える大規模店舗を対象にしています。

認定基準項目 (大分類 中分類)

1. 消費者と一体となった環境活動
 - (1) 環境配慮商品の販売と購入の促進
 - (2) 容器・包装材の使用削減の呼びかけ (協力へのPR)
 - (3) レジ袋の使用削減
 - (4) レジ袋以外の容器、包装材に関する省資源化や使用削減
 - (5) 容器・包装材の使用削減の公表
 - (6) 資源回収の呼びかけ (協力へのPR)
 - (7) 資源ステーションとしての役割
 - (8) 回収量および回収物のリサイクル方法についての公表
 - (9) 消費者に向けた環境に関する普及啓発活動の実施
2. 地域や事業者との連携による環境活動
 - (10) 地域や自治体との連携による環境活動の実施
 - (11) メーカー・生産者や物流関係者などとの連携による環境活動の実施
3. 環境に配慮した店舗の運営・管理
 - (12) 環境マネジメントシステムなどの運用
 - (13) 環境報告書などの公表
 - (14) 店舗の環境活動に関する従業員教育の実施
 - (15) 店舗備品のグリーン購入の実施
4. 物流の効率化
 - (16) リターナブル容器・包装資材 (通い箱など) の利用
 - (17) 輸・配送システムの効率化
 - (18) 輸・配送の効率化による環境負荷低減効果の公表
5. 廃棄物の削減
 - (19) 廃棄物の発生量削減とリサイクルの実施
 - (20) 販売飲食料品における商品ロスの削減
 - (21) 食品リサイクル法に基づく食品廃棄物のリサイクル
6. 省エネルギー化の推進
 - (22) 店舗における省エネルギー化効果の把握
 - (23) 各設備における省エネルギー化の実施とその方法

環境配慮商品

ライフスタイルをエコにする商品

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を構築するエコライフスタイルとは、毎日の生活を省エネ省資源にしていけることであり、節電や公共交通機関をできるだけ使うことにしたいものです。

そして、毎日のお買い物に「環境負荷が少ない」という視点で商品を選ぶ、ということもエコライフスタイルといえるでしょう。ユニーでは、原料や製造過程、容器包装、使用時、使い終わったあとの廃棄物が少なくリサイクルできることなど、環境負荷の少ない商品をお客様に提供することが地球環境を守ることに繋がると考え、そうした商品の品揃えを増やし商品も開発しています。

環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

ユニーはPB(プライベートブランド)・SB(ストアブランド)商品を開発するうえで、特に環境に配慮した商品をサブブランド「eco!on」(エコオン)として、パッケージやタグにこのロゴを付けて販売しています。

「eco!on」の審査は、申請書と添付資料をもとに行い、特に商品開発担当者の「環境配慮への思い、ストーリー」についても審査対象にしています。その思いには、「現在だけでなく未来の地球環境に対する責任」や「購入していただくお客様へのメッセージ」「生産者のこだわり」などが含まれています。さらに、生産現場や製造過程を視察し、審査します。

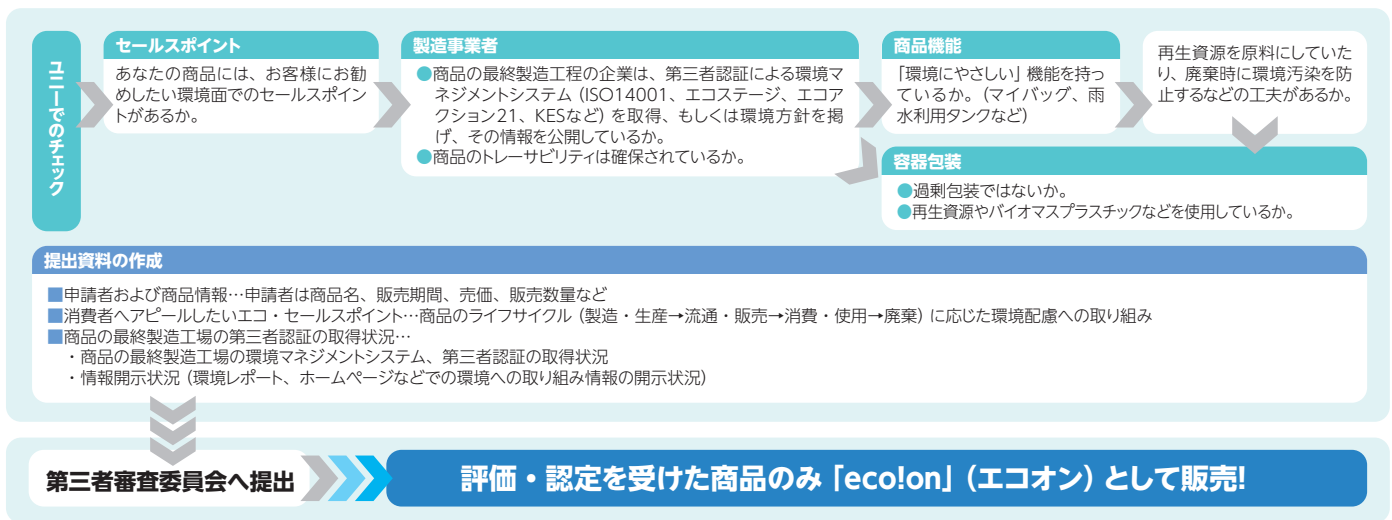
「eco!on」の考え方

「eco!on」は、環境負荷の少ない安全安心な商品を提供することにより、お客様の快適な生活を支援し、持続可能な社会構築をお客様と一緒に推進していくことを目指しています。また、環境配慮商品を生産する生産者を支援します。

- 1 お客様と一緒に育てていく環境配慮型商品です
- 2 ユニーが定める品質基準を満たしています
- 3 ユニーが定める環境に配慮した生産条件を満たしています
- 4 「eco!on」第三者審査委員会で審査を受け認定されています(毎年見直しを実施)

「eco!on」商品が販売されるまで

商品部の商品開発担当者がオリジナル商品を開発し、環境配慮商品「eco!on」の認定を受けるため、商品やメーカーに関する情報や認証などの資料を添えて、第三者審査委員会に提出します。



「eco!on」の商品

特別なものではなく、日常生活に欠かせない商品を環境に配慮したものにすることで、地球環境保全に貢献していることになります。「eco!on」は、たくさんのお客様と一緒に低炭素社会・持続可能社会を築いていくことを目指しています。



●アローザトイレトペーパー
リサイクルボックスで回収した牛乳パックが原料の再生製品



●マグボトル
何度も繰り返し使用できるのでゴミを出さない



●特別栽培の無洗米
お米を研がないため河川を汚さない



●さとうきびうまれのプレート・ボウル
木材を使わないでさとうきびから作ったボウル



このタグが目印です!



●泡のハンドソープ
店舗から出た使用済み食用油が原料の再生製品



●洗濯洗剤
植物原料の使用は大気中のCO₂(※)の増加抑制に貢献
※1990年当社商品に比べCO₂排出量を51%削減



●液体洗剤・柔軟剤
容器をサステナブル素材のバイオマスプラスチック製にしてCO₂を削減

第三者審査委員会

「ecolon」の認定は社内審査ではなく、専門家や有識者の方々による第三者審査委員会で審議していただいています。審査基準を満たした商品だけを「ecolon」として販売しています。

また、製造事業者の環境調査は、フルハシ環境総合研究所その他の外部機関に現場で審査してもらい、第三者審査委員会で確認しています。



専門家、有識者による審査



消費者からの意見もいただき、参考にしています

消費者からの応援

店舗で販売する商品の品揃えや商品開発は、メーカーと小売事業者が行い、「買う側」である消費者の意見や要望がなかなか反映されていませんでした。ユニーでも商品開発担当者が環境配慮への思いを込めてメーカーと取り組み、製造した商品を販売していましたが、期待どおりに販売数が伸びませんでした。そこで「買う側」である消費者と商品開発担当が一緒に「環境配慮商品」を作り上げ、他の消費者に伝える活動を行いました。

今後はさらに、「どんな商品を開発してほしいか」「開発商品の使い勝手はいかがか」「他の消費者に伝えるにはどうしたらよいか」など、ユニーと一緒に「ecolon」の開発を応援していただきます。

「持続可能性」が生命維持のキーワード

名古屋大学 情報化学部環境学研究所教授 佐野 充

生命の誕生以来、人は、生き永らえること、つまり「持続可能性」を究極の目標にしてきました。だから、私たちは今を生きることが出来ます。しかし、「持続可能性」を忘れた時、絶えた多くの生物と同じ道を歩むことになり、「持続可能性」のある暮らし方は、私たちの責務で、環境と共生した暮らし方です。日々の暮らしが明日につながり、そして、将来につながります。私たちは日々の消費活動を通じて、子供達の明日に影響を与えています。「ecolon」が、環境と共生できる日常生活を実感でき、「持続可能性」のある暮らし方につながるように応援したいと思います。また、「ecolon」商品が、どんな持続可能性を持っているのか、消費者の皆さんに知って欲しいと思います。

コミュニケーションから生まれる環境配慮型商品

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 石崎美英

消費者として、毎日の生活に欠かせない買い物に、環境配慮型商品を選択することで「環境にイイこと」が実行できることは、大変うれしいことだと思います。環境配慮型商品を開発・販売する生産者・販売事業者にとっても、環境配慮型商品が多くの消費者に選択されれば、企業として環境問題に貢献できるのみならず、自社の発展につながります。環境問題を考える中で、消費者・生産者・販売事業者が密なコミュニケーションをとることによって環境に優しく、またすべての関係者の満足を得られる商品を開発していくことで、継続的な環境への取り組みを可能にすると考えます。リサーチーズクラブに代表される消費者の声に真摯に耳を傾け、生産者には徹底した情報公開・エビデンス等を求めるユニーの「ecolon」商品に今後も期待します。また、さらに多くの消費者の方に認知・利用され、気軽に楽しく「環境にイイこと、プラス。」が実行されるよう願っています。

エコとスマート

株式会社コボ 代表取締役社長 山村真一

最近のエコ関連のニュースでよく目にする「スマート」という言葉がある。スマートフォンに始まり、スマートハウス、スマートシティである。かつて日本で「スマート」はおしゃれ用語で、カッコイイ等の意味で使用されることが多いが、これは和製英語であり、本来の意味は「賢い」「利口」なのである。このことから、エコ用語としては「分け合う」「やさしさ」等といえよう。東北大学の研究に「90歳リサーチからの発想」プロジェクトがある。90歳のリサーチから、次世代社会への提案である。「少々お借り電力」もその一例である。ケイタイの廃バッテリーを集めた小さなバッテリーシステムにより、冷蔵庫や照明等、小さな電力を集めて使うスマートな「アイデア」が素晴らしい。

これからのエコは最先端ばかりに頼らず、作る人、使う人、売る人がともに、生活目線から見た「スマート」な取り組みが必要になるだろう。

生産事業者を応援

ecolon商品の生産状況を確認する環境監査を実施させていただいています。環境監査では工場経営者の環境への想いや情報開示、マネジメントシステムの運用状況、法令遵守など、さまざまな状況を確認させていただきます。「主要材料の製品安全データシートを入手してほしい」「廃棄物の分別方法が悪い」「染色作業の色替え時のマニュアルと状況写真を提示してほしい」「従業員に環境活動の重要さと作業で生じる汚染の関係を教育してほしい」などecolon商品として認定するためにさまざまな要求を出させていただきます。事業者はそれを真摯に受け止め対応されます。



フルハシ環境総合研究所
環境経営プロデューサー
徳永重生

また、環境監査では多くのことを教えられます。「資源を有効に使うことがコスト削減につながり、環境活動そのものでもある」と断言される工場長、よく整理整頓され礼儀正しい工具さんが働く、創業120年の重みを感じる工場、伝統商品を製造しながらも環境商品への想いを情熱的に語る若い経営者、こうした現場に接した時「この生産事業者を応援したい」と切に思います。

ecolon開発の考え方

環境配慮型商品について

今期は、ecolonの開発に当たり、以下のことを考慮して進めています。

1. ecolon商品が、ユニーにとって企業価値を上げるブランドであること：ecolon商品を通じて、「ユニーの環境の考え方」「環境への取り組み」をお客様に伝えていきます。
2. 売れるecolon商品を作ること：環境に良かれと開発した商品も、売れ残ればゴミになっていきます。売れることを最重視していきます。
3. 環境を前面に出さないこと：「使った結果がエコ」となるよう、環境の押し付けをせず、お客様に納得いただける商品の開発を進めます。
4. ユニーに利益を残せること：利益が出なければ、次の開発につなげていくことができません。販売で得た利益を、商品を通じてお客様に還元していきます。



住関本部
商品企画開発部
菅野誠一

中敷にペットボトルをリサイクルした繊維を一部使用したスリッパ

私が商品開発したスリッパがecolon第三者委員会の審査を通り現在商品として販売しています。お客様から回収させていただいたペットボトルを、わずかではありますが使用させていただいています。リサイクルのストーリーは、ユニー中京地区にてお客様よりペットボトルを回収→リサイクル工場でのわたにする。→紡績工場にて糸にして、パイル生地にする。→中国の工場にてスリッパにする。→ユニー各店にて販売しています。スリッパ1足に約10gのペットボトル再生ポリエステルを使用しています。ペットボトルが1本約20gとすると、1本で2足のスリッパができる計算です。



住関本部 商品企画開発部
墨 康秀

環境負荷

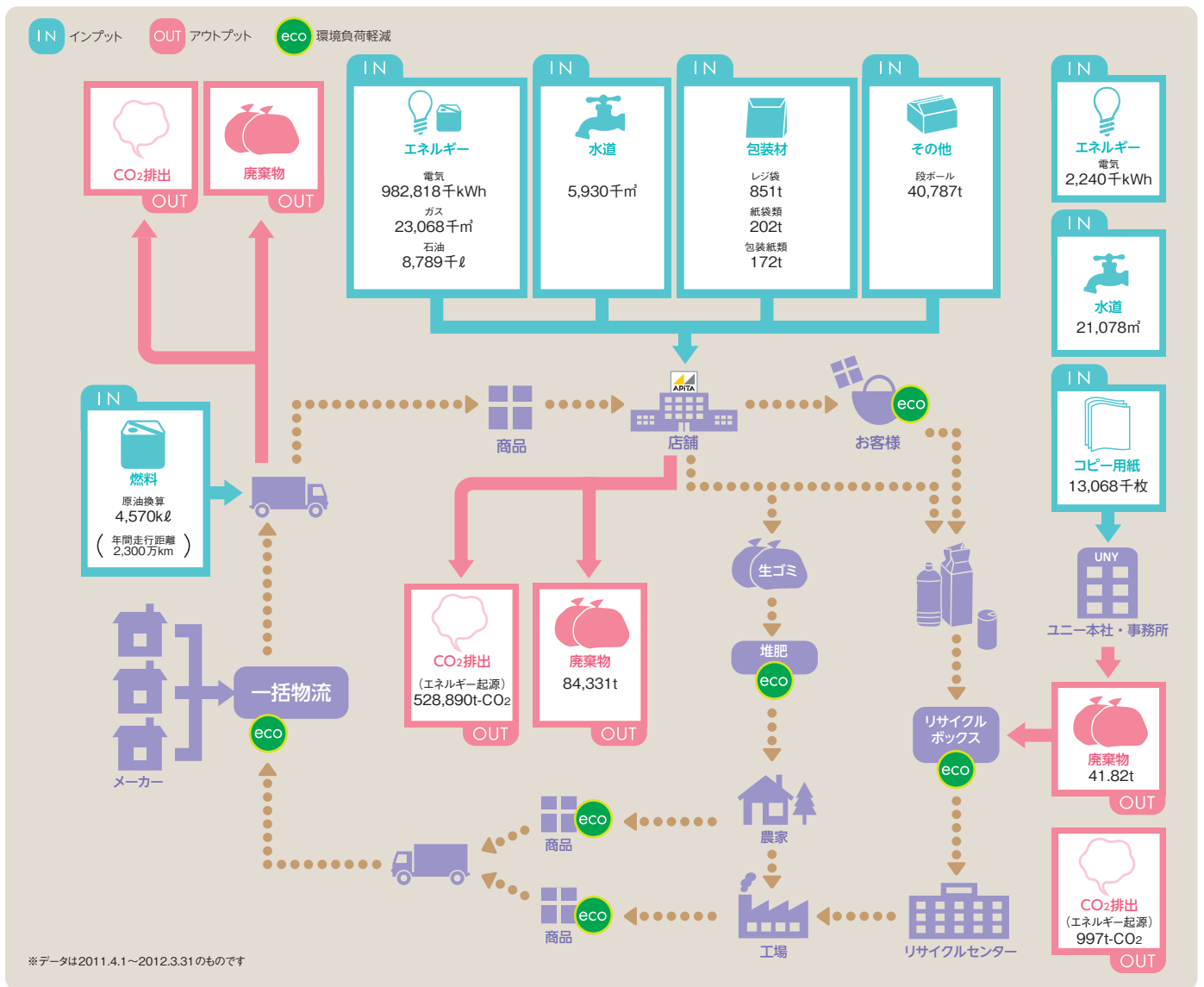
企業は事業活動（事業所の維持・商品の輸送など）をするうえで、地球環境にマイナスの影響を及ぼしています。これを環境負荷といいます。

ユニーはこれらの環境負荷をできるだけ出さないよう、継続的に軽減していくよう、その原因を調べ対策を考え行動していくことを、従業員や関係者がそれぞれの役割の中で実践しています。

事業活動における環境負荷

ユニーの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品の冷蔵・冷凍の陳列ケースなどに電気やガスなどのエネルギーを使います。また、商品の輸送や冷蔵・冷凍保管の倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギーは化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）から得ているため、地球温暖化の原因といわれているCO₂などを排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。

ユニーでは、これらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。



営業統括本部 IT物流部
物流担当部長 村井秀紀

環境負荷削減に向けて商品を店舗に配送する場合、車両台数削減（店舗混載）に努めています。また、備蓄商品等センターでピッキングするものは、できるだけオリコン（通箱）や入荷ダンボールなどで配送し、ダンボール削減にも努めています。結果、以下の通りになりました。

- エネルギー使用量は、原油換算で4,570kℓ、前年比97.9%
- 輸送量は、4,300万tkm、前年比97.7%（輸送距離2,300万km）
- エネルギーの使用にともなって発生する二酸化炭素の排出量 12,145t-CO₂、前年比97.9%
- ダンボール購入金額（弥富購入分）は、17,487,542円、前年比87.8%

ユニーグループのホールディングス化にともない、サークルKサンクスとの物流統合によるさらなる物流の効率化に向けて、センター統合計画を進めています。

省エネルギー・省資源活動

省エネ活動

2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故で、2011年の夏はピーク時の電力消費を抑えるために、店舗や事務所ではできるだけ電気を使わないよう、照明を落とし空調温度は適正設定としました。また、お客様にも節電していただくために「節電ライフ」という啓発パンフレットを配布し、省エネライフを推進する商品の紹介やアイデアを提案しました。こうした活動の成果として、電気・ガス・石油の使用量が減少し、CO₂を削減できました。

●お客様と一緒に節電

お客様が家庭で取り組む節電を応援しています。ユニーは昨年に続き、日常生活の工夫や省エネの提案を「節電ライフ」という冊子にして配布しました。毎日の暮らしを、ちょっと見直し、ちょっと工夫するだけでできる節電・省エネを紹介しています。朝・昼・夜の生活リズムに合わせた「涼しく過ごせる」「家計にもうれしい」具体的な節電・省エネのコツを気軽に取り組んでもらえるよう活動しています。



●事務所内の空調

本社事務所内は、「エアコン使用規定」が定められています。6月～9月は夏季温度設定として28℃、12月～2月は冬季温度設定として19℃に決められています。またそれ以外の月はエアコン使用禁止期間とし、事務所での大半を占める空調による消費電力の削減に取り組んでいます。



●バックヤードの照明

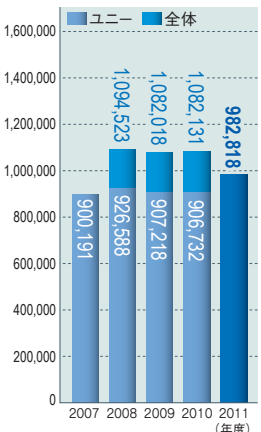
「必要な場所で必要な時だけ点灯する」と、店舗のバックヤードや事務所の電灯にはプルスイッチ（紐）をつけています。特にバックヤードには、作業や設置場所の状況を調べ、一つひとつのスイッチに「常に点灯」「必要な時だけ」を表示しました。



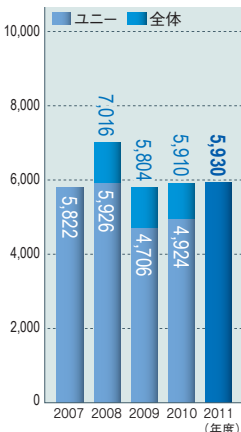
エネルギー使用量の推移

※データは、各年度とも当年2月21日～翌年2月20日までのもので、2008年度より日ユースタアとの合算数値になります。

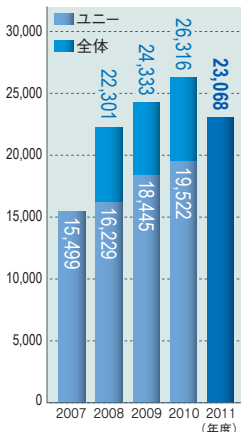
電気 (単位: 千kWh)



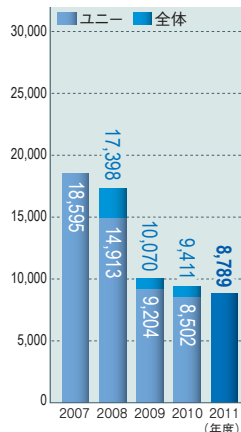
水道 (単位: 千m³)



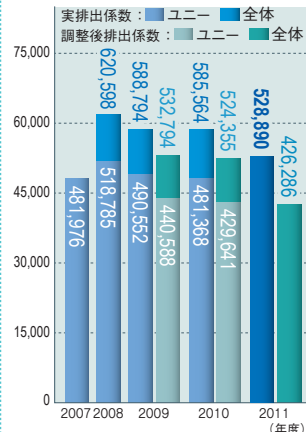
ガス (単位: 千m³)



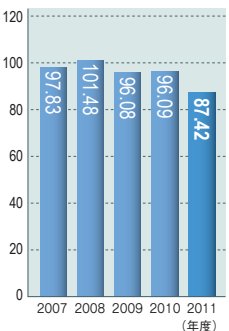
石油 (単位: 千リットル)



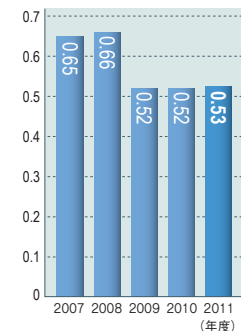
二酸化炭素排出量 (単位: t-CO₂)



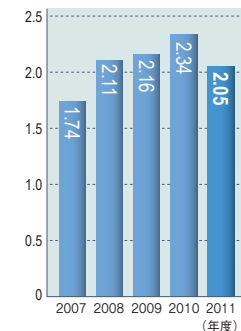
単位面積時間当たりの使用量 (単位: W/H.m²)



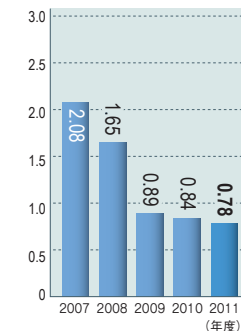
単位面積時間当たりの使用量 (単位: リットル/H.m²)



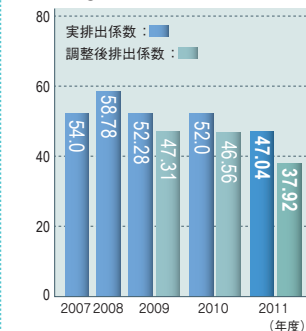
単位面積時間当たりの使用量 (単位: リットル/H.m²)



単位面積時間当たりの使用量 (単位: cc/H.m²)



単位面積時間当たりの使用量 (単位: gCO₂/H.m²)



国による2011年夏期の電力需要対策を受け、東京電力および東北電力管内はもとより、全店において照明設備関連、空調設備関連、冷蔵設備関連などで節電に積極的に取り組み、大幅に削減できました。

水道使用量は、削減には至りませんでした。今後は雨水利用や節水トイレの採用などにより、使用制御を図ります。

店内設定温度を上げて、空調使用量を抑えることができました。また、店内照明等の節電により店内熱量が減少したことも削減の要因です。

店内設定温度を上げて、空調使用量を抑えることができました。また、店内照明等の節電により店内熱量が減少したことも削減の要因です。

節電による大幅なエネルギー使用量の削減により、大幅に削減ができました。

※調整後排出係数：電気事業者の調整後排出係数（京都市メカニズムクレジット：国内認証排出削減量を加味している）
※単位面積時間当たりの使用量：CO₂排出量/営業面積×営業時間

2008年にユースタアと合併し、店舗数が増えました。

2011年度のCO₂換算係数は下記より換算しました。

●電気・環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO₂排出係数(2009年度実績)(平成22年12月27日公表) ●水道…独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO₂排出原単位の算定根拠」(環境省推奨) ●ガス・石油…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法、排出係数一覧(平成22年3月改訂後)

生物多様性 [自然共生社会を構築するために]

私達の生活は、さまざまな「生物多様性」の恵みを受けて成り立っているということをお客様に認識していただくとともに、ユニーでお買い物をしていただくことで、生物多様性への貢献につながる取り組みを進めます。また次世代を担う子供達が、生物多様性の恵みを受け続けられる「持続可能な社会」を構築していくために、体験を通じた環境学習を行っていきます。

命と暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間も含めたさまざまな生き物が生まれ、つながり合って生きてきました。その生物多様性がもたらす恵み（生態系サービス）によって、私達の命や暮らしは支えられています。生物多様性条約ではこの生き物のつながりを3つのレベルに分類しています。

生物多様性の危機

地球上に3000万種の生き物がお互いにつながり合っている生物多様性ですが、人間の活動が原因で毎年約4万種が絶滅していると推定されています。その要因は、①開発、乱獲により自然を破壊している、②里地里山などに人間が手を入れなくなった、③外来種の持ち込み、化学物質の排出などで生態系を攪乱した、④地球温暖化の影響、が挙げられています。

生態系の多様性
海や川、森、里、さまざまな自然があること

種の多様性
いろいろな生き物があること

遺伝子の多様性
同じ種でも個体差があること

生物多様性条約とCOP10

生物多様性条約

1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択され、193の国や地域が加盟しており、地球温暖化防止を目的とした国連気候変動枠組条約とともに環境関連の重要な条約で、1993年に発効しています。その目的は、①生物多様性の保全、②その構成要素の持続的な利用、③遺伝資源の利用からの利益の公正かつ均衡な配分、です。

●生物多様性条約第10回締結国会議

生物多様性条約締結国会議（COP10）は、条約を結んだ国が2年ごとに集まり、生物多様性を守り、それが絶えることなく存続するための仕組みや遺伝子の利益を公平に分ける仕組みなどが話し合われます。COP10は2010年10月11日から29日までの3週間、名古屋市で開催され、「名古屋議定書」「愛知ターゲット」として成果を上げることができました。また、地元本社を持つユニーにとっても、生物多様性への取り組みの必要性を再認識する契機になりました。

●名古屋議定書

「名古屋議定書」では、医薬品や食品の開発につながる動植物や微生物の遺伝資源を利用して得られる利益について、資源を提供した国と利用国とで分け合うことに実効性を与えることが決められました。遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS: Access and Benefit Sharing）に言及しています。ABSの対象には、先住民や地域社会の持つ伝統的知識も含まれます。「地域社会の薬草の知識」など、その土地に伝わる知恵に対しても利益は配分されることになりました。生物の多様性を確保するとともに人類の豊かな暮らし、貧困解消に貢献することを意図しています。

●愛知ターゲット

地球規模で進んでいる生物多様性の損失速度を減少させるとする「2011年目標」に代わり、COP10で合意された目標が「愛知ターゲット」です。国際社会において2020年までに実効性のある緊急行動を起こすことが求められています。生物多様性の損失の根本原因に対処すること、持続可能な利用を促進すること、生態系、種、遺伝子の多様性を守ることで生物多様性の状況を改善することを目標としています。

生物多様性を守る取り組み

私達が生きるために必要な酸素は植物によってつくられ、汚れた水も微生物などによって浄化されています。そして私達人間は、いろいろな生き物からの様々な「恵み」をもらって生きています。こうした「恵み」を与えてくれる「生物多様性」を育む環境で作られた食べ物や製品を選ぶことが「生物多様性」を守ることに繋がります。ユニーでは、お客様が買い物をする事で生物多様性を守ることに繋がる取り組みを「供給作用」を通して行っています。

サポート

- 生息地
- 栄養
- 水
- 土壌の形成

緩和作用

- 気候変動を緩和
- 害虫・病気・汚染を制御

供給作用

- 食料・繊維・燃料・淡水・遺伝子・資源の供給

文化的効用

- 精神・宗教的価値・知識・教育・インスピレーション・レクリエーションや美しいものの提供



名古屋商工会議所「ガイドライン」

COP10開催地名古屋市では、名古屋商工会議所が生物多様性に対する取り組みのガイドブックとして「知ろう、学ぼう、始めよう！ 事業活動と生物多様性」を作成しました。



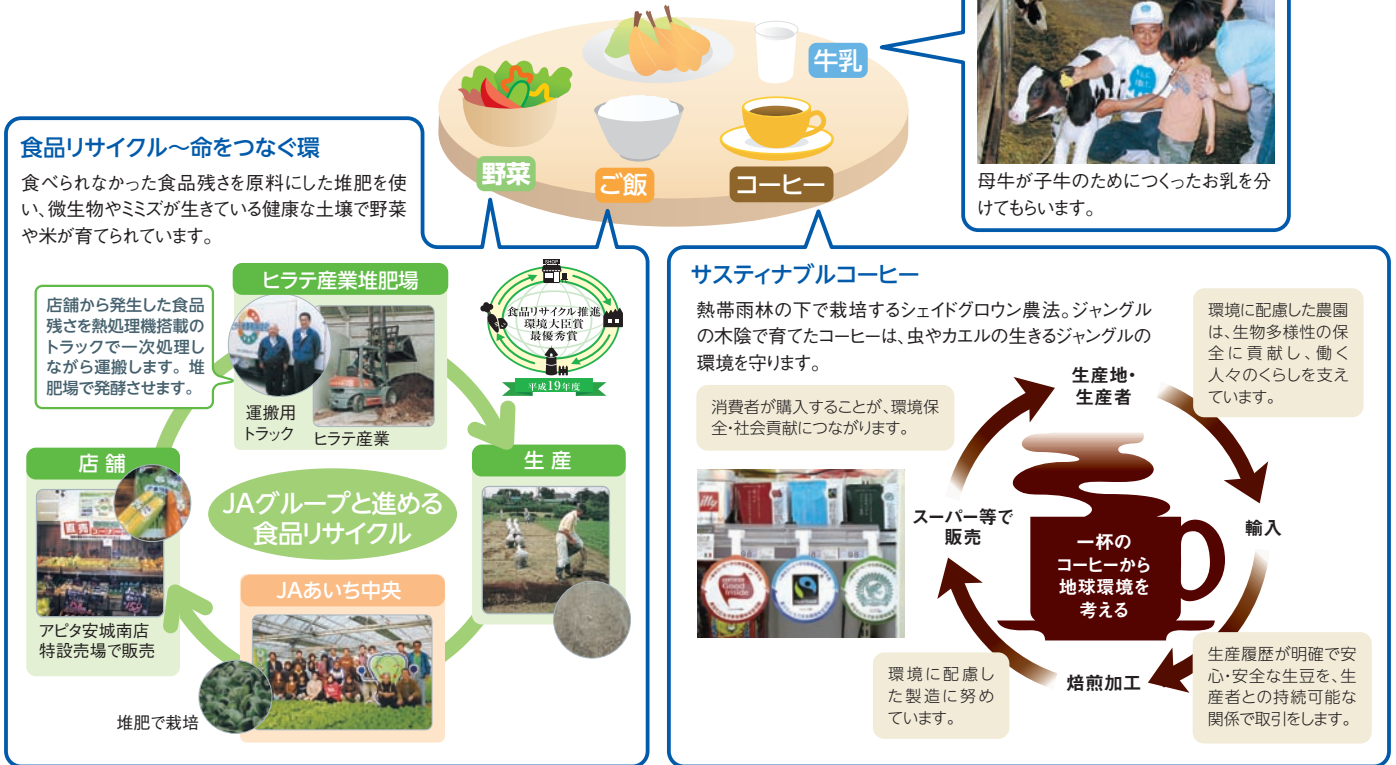
名古屋商工会議所の生物多様性に対する取り組み方針

企業活動は生物多様性の恩恵を受けているにもかかわらず、企業活動を含めた人間活動の影響によって生物多様性は地球規模で急速に損なわれ、まさに危機的状況にあります。そこで、名古屋商工会議所は、COP10で採択された「愛知ターゲット」や「名古屋議定書」を踏まえ、持続可能な経済社会の実現に向けて積極的に行動します。

1. 企業活動は、生物多様性の恵みに支えられていると同時に、生物多様性に影響を与えていることを理解し、自らの事業活動と生物多様性の関連の把握に努めます。
2. 事業活動を通じた、生物多様性の保全と持続可能な利用、業種、業態によっては愛知目標や名古屋議定書への対応について検討を進めます。
3. 事業活動や社会貢献活動を通じて、生物多様性に対する具体的な取り組みを推進します。
4. 企業間の連携、従業員への教育、地域社会との協働によって、生物多様性を育む社会づくりに努めます。

テーブルの上の生物多様性

ユニーの売り場に並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。生物多様性を身近なことに感じ、「私達の毎日の食べ物生き物の命」ということを伝え、自然環境やそこで生きる生き物を大切に守りながら生産した食べ物を選ぶことが、生物多様性に貢献することだと知ってもらう活動を行っています。



母牛が子牛のためにつくったお乳を分けてもらいます。

食べ物はみんな生き物の命

漁港に行って魚に触ってきました

お店に並んでいる魚やたこは海から捕獲してくることを、漁港に行って見て触って食べて、体感してきました。生きている魚やたこの動きや手触りに夢中でした。



農業体験

食品リサイクルグループによる食品循環資源で作った堆肥で栽培した野菜の収穫体験をしました。堆肥が発酵するときの臭いや熱を体感して、堆肥で育てた野菜の畑にはミミズやカエルが生息していることを確認しました。



森の命を守るために（森林保全活動）

ユニーはエコ・ファースト企業のキリンビールやライオンとの協働企画で、植樹活動を行いました。販売キャンペーンで応募していただいたお客様と一緒に木を植え、植えた後にも手を入れることで森林を健全に保全することを学びました。



水を守る活動をしている団体を支援

ユニーは、花王の「洗濯に節水と節電、そしてできるだけ排水で環境を汚さない」洗剤の販売キャンペーンの一環で、水を守る活動をしている団体に寄付の支援しました。



寄付先：郡上八幡山と川の学校、堀川1000人調査隊、NPO千葉自然学校

子供達と生き物との触れ合い

●エコ博のキッズズー
子供達に「生き物の命」と触れ合うことで体感するイベントを、日本モンキーセンターとの協働でエコ博にて開催しました。水の中で泳ぐイモリを掌に乗せて、みんな地球の仲間であることを感じてもらいました。



●モンキースクール

愛知県犬山市の日本モンキーセンターでサマースクールを開催し、人間に一番近い地球の仲間たちと一緒に過ごし、自然を守ることが命を守ることだと学びました。



店舗での取り組み

来店された全てのお客様が快適にお買い物を楽しんでいただけるように、ユニーでは店内のいろいろな所を工夫しています。また、「環境にやさしいお買い物」をお客様と一緒に進め、持続可能な社会を目指して、環境にやさしい商品の販売や包装資材の削減や廃棄物の削減、分別、リサイクルなどを実施しています。

環境に配慮した設備や工夫

“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミの減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進めるゴミの減量に関しては、お客様が利用しやすいように、リサイクルステーションのほか、各所に分別ゴミ箱を設置しています。

1 リサイクルステーション

牛乳パックをはじめ、アルミ缶・トレイ・ペットボトル・バイオマスプラスチック・卵パックなどお客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



2 分別ゴミ箱

店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別するためのゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。



3 リサイクル処理機

生ゴミは肥料、発泡スチロールはプラスチックチップなどは再生資源としてリサイクルを行っています。



4 環境配慮商品

原料・製造工程・使用時・容器包装廃棄時などの環境負荷を低減した環境配慮商品を開発・販売しています。



5 情報の開示

ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。



6 廃棄物計量システム

各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。



7 壁面緑化

ヒートアイランド対策と断熱効果のある、壁面緑化を店舗の外壁に導入しました。建物温度の上昇を抑え空調使用量を削減します。



ユニバーサルデザイン

8 多目的トイレの設置

車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。



9 段差のない入り口

駐車場と店内の段差をなくし、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



10 車椅子専用駐車場

入り口の近くに、車椅子専用駐車場を設置しました。



11 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



12 優先エレベーター

混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。



13 介添えサービスの実施

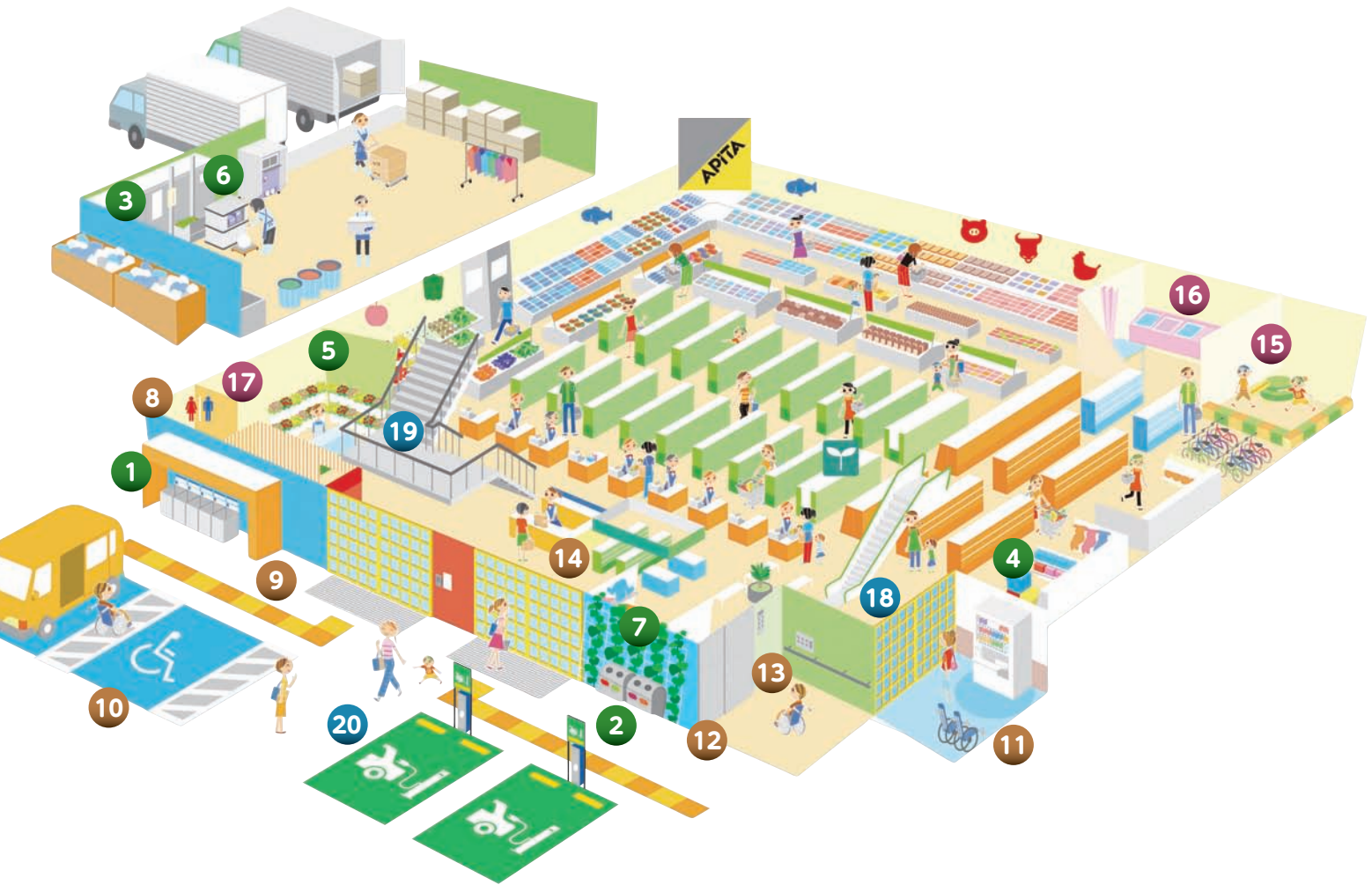
1階各出入り口にインターホンを設置し、呼び出しによって介添えサービスのご要望にお応えします。



14 AED(自動体外式除細動器)

不測の事態に備えてAEDを設置しました。





お子様連れの方への配慮

15 小さなお子様の遊び場

小さなお子様に安全に遊んでいただけるように、床や遊具にソフトな素材を使用した遊びのスペースを設けています。



16 ベビー休憩室(赤ちゃんルーム)

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室(赤ちゃんルーム)を設けました。



17 子供用トイレ設備の設置

男性用トイレにベビーシートを設置したり、子供専用トイレを設置しました。



子供専用
トイレ

ベビーシート

よりよく利用していただくためのサービス・工夫

18 アピタのおいしい水

飲料やお料理に使用していただける水を提供する浄水機を設置しました。



19 危険防止の工夫

危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。



20 電気自動車充電スタンドの設置

地球温暖化防止の取り組みとして、電気自動車用「急速充電器」を設置しました。お買い物しながら充電ができます。



バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。



社会・地域に
イイこと、プラス。

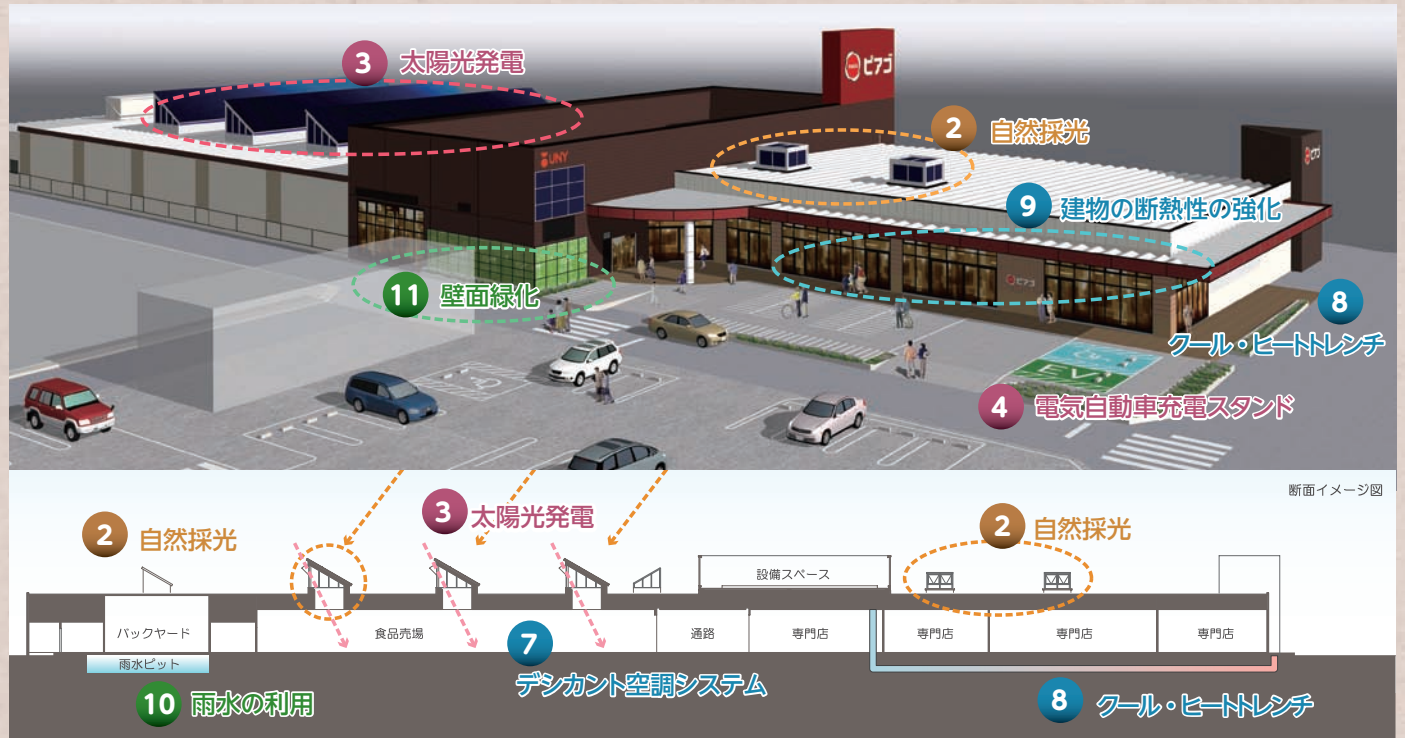
ピックアップ エコストア

地球温暖化防止を目指し、ユニーでは省エネルギー設備を設置し、さらに従業員をはじめ、お客様や取引先など関係する人たちと一緒に環境活動を進める「エコストア」を開店しました。

ピアゴ 蟹江店

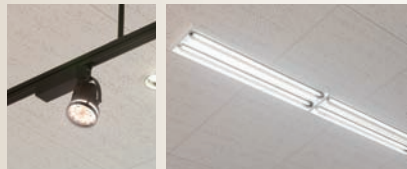
節電対策充実の省エネルギー（エコストア）モデル店舗

省エネルギー実現に向け、ピアゴ初の節電対策充実の省エネルギーモデル店舗として、「ピアゴ 蟹江店」を2011年9月23日にリニューアルオープンしました。ランニングコストおよび二酸化炭素排出量の30%以上削減を目指します。



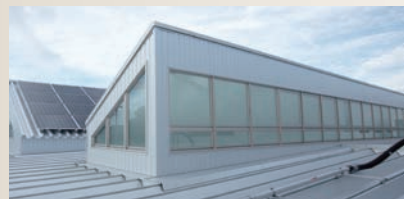
1 LED照明

従来の蛍光灯に比べ、電力量を約40%削減し、施設全体の年間CO₂排出量を約5.3%削減します。

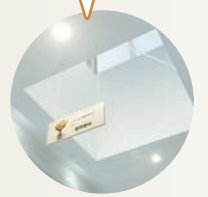


2 自然採光

昼間の照明の点灯時間を短縮し、施設全体の年間CO₂排出量を約0.7%削減します。



天井の窓から太陽光をお店の中へ入れることで、電気使用量を削減します。



3 太陽光発電

太陽の光を電気に変える太陽光発電パネルを設置。昼間の照明の点灯時間を短縮し、施設全体の年間CO₂排出量を約3.0%削減します。



4 電気自動車充電スタンド

環境に優しい電気自動車を広めるために、充電スタンドを駐車場に設置。



5 オール電化

省エネ性能に優れた機器を導入する事で、二酸化炭素発生量を抑え、店内で火を使わず安心・安全な施設を実現します。



6 高効率空調

さまざまな環境の変化にも対応した最適な運転を行う事で、空調による電力使用量を約4.3%、施設全体の年間CO₂排出量を約1.4%削減します。



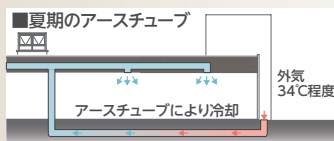
7 デシカント空調システム

温度管理を適正に行う事で冷ケースの霜取り運転を削減し、施設全体の年間CO₂排出量を約8%削減します。



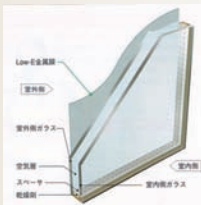
8 クール・ヒートレンヂ

地中熱を利用して行う空調。店内に冷えた新鮮な空気を送る事ができ、空調による電力使用量を約1.8%、施設全体の年間CO₂排出量を約0.6%削減します。



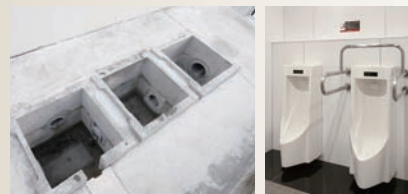
9 建物の断熱性の強化

折板屋根に二重葺きを採用。建物全体の断熱性能を強化する事で、外気の影響による室内の温度変化を抑え、空調による電力使用量を約32%、施設全体の年間CO₂排出量を約11%削減します。



10 雨水の利用

トイレの洗浄水や散水栓などに雨水を利用する事で、水道使用量を約16%削減します。



11 壁面緑化

日当りの良い建物南側の壁面を利用して、約45mの壁面緑化を導入。空調負荷を軽減し、ヒートアイランド現象の抑制にも貢献します。



お店の壁に植物を植えることで、お店の中の温度変化を防ぐ「天然のエアコン」になります。



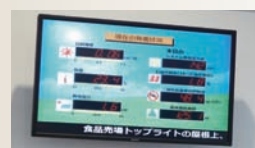
12 リサイクルステーション

お客様の家庭からでる廃棄物を削減し、再生資源とするため、牛乳パックやアルミ缶、トレイなど使用済み容器包装を回収します。



13 節電観測パネルの設置

太陽光発電でつくられた電気量や二酸化炭素量を使用した量が分かるパネルを店内に設置し、お客様にも節電状況を公開しています。

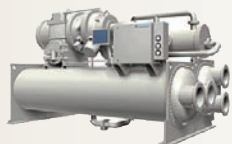
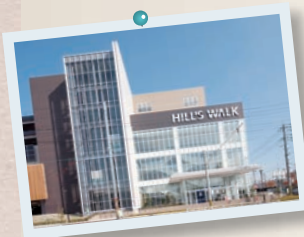


その他のエコストア

ヒルズウォーク徳重ガーデンズ

●空調

空調熱源に電気式ターボ冷凍機を採用しています。省エネルギーでCO₂排出量を削減します。



ピオニウォーク東松山

●空調関連

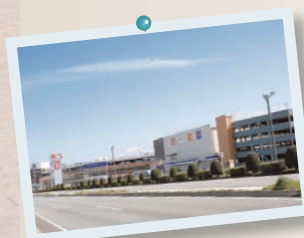
空調熱源を電気式ヒートポンプチラーで実施。60%で設定。



ラザウォーク甲斐双葉

●電気式ヒートポンプ空調システム

空気中の熱を効率よく汲み上げ、少量の電気エネルギーでたくさんの熱エネルギーを取り出せる効率的なシステム。エネルギー使用量を抑えCO₂排出量削減にも貢献できます。



リーフウォーク稲沢

●ガスコージェネレーションシステム

都市ガスを用いて発電した際に発生する排熱を冷房や給湯に利用する省エネルギーシステム。CO₂削減に貢献しています。



お客様の声 [人にやさしく、環境にやさしい店づくりのために]

よりよい店づくりのために、何よりもお客様のご意見を大切にしています。
お客様の声に真摯に耳を傾け、速やかな回答と迅速な対応ができる仕組みを整え、商品やサービスの改善を進めています。
また、地域のコミュニケーションの場としての役割を果たすことに努めています。

お客様の声のポスト

お客様の声ユニーを変えます

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスなどさまざまなご意見ご要望・お問い合わせ、またご指摘やお叱りの言葉が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗や商品、サービスなどに反映させていただいています。ポストに入れていただいている「お客様の声」はユニーがこれからも地域のお客様と一緒によりよい生活を築いていくためのメッセージであり、羅針盤でもあります。1枚の「お客様の声」には、ポストには入っていないもっとたくさんの「お客様の声」が感じられます。これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努力していきます。



営業統括本部
お客様サービス部長
奥村 巧

内容	件数	構成比率(%)
ご意見・ご指摘	1,754件	72.5
お問い合わせ・ご要望	608件	25.1
お褒め	58件	2.4

※データは、2011年2月21日～2012年2月20日（ユニー本部 受付分）のものです。



環境・社会貢献に対してのご提案・ご要望など貴重なご意見をいただき、今後の取り組みの参考にさせていただいています。また、最近はお客様より心温まるお褒めの言葉をいただく機会が増えており、従業員一同のさらなる励みとしてありがたく思っています。

お客様の立場でさまざまな改善に努めています

お客様からお寄せいただきましたご意見・ご要望・ご質問などのうち、全体的な内容につきましては店舗から本部へ報告され、毎週取りまとめた上で本部内・各地区本部・関係部署へフィードバックされ、商品開発や品揃え、売場づくりやサービス改善に活かされています。こうしてお客様の声が全社の改善につながるのです。

お客様サービス部は2012年2月より、毎日お客様の声をお聞かせいただけるよう対応しています。よりたくさんのお客様の声をお聞きし、なおいっそう従業員の意識をさらに高め、お客様に気持ち良くお買物をしていただけるよう努めてまいります。

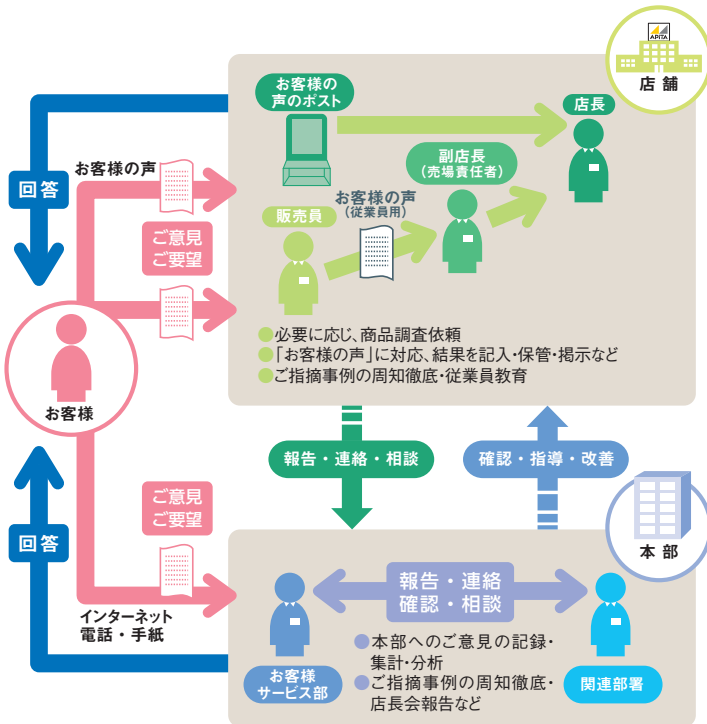


お客様サービス部
マネジャー
志村京子



お客様サービス部
マネジャー
森山佳子

お客様の声の流れ



ホームページからの環境情報発信

ユニーのホームページでは、環境保全についての取り組みを紹介しています。「エコショッピング」「環境レポート」「やさしいくらしダイアリー」などがご覧いただけます。また、メールマガジン「エコロNews」も作成しており、環境保全についての有益な情報を多くの皆様へ発信しています。

環境社会貢献部 ホームページアドレス

<http://www.uny.co.jp/corporate/torikumi/eco/index.html>



社会貢献・地域貢献

持続可能な社会は、地球環境保全そして「みんなが幸せに暮らしていくことができる社会」であると考え、ユニーは社会貢献活動を推進しています。

また、市民の皆様やNPO、自治体と一緒に地域の発展のために努め「地域のコミュニケーションセンター」としての役割を果たしていきます。

社会貢献活動

東日本大震災支援のベルマーク運動

ユニーの226全店舗と事業所で、「ベルマークを集めて被災地の子供たちに教材や文房具を贈ろう!」活動を2012年1月10日から1カ月間実施しました。集まった325万2,000点のベルマークをベルマーク教育助成団名古屋事務所に寄贈しました。お客様と従業員がベルマーク活動を通して東日本大震災の被災地の子供達を支援することができました。回収箱設置や点数処理にはキリンビバレッジの協賛をいただきました。

ベルマーク運動は、商品に付いているベルマークを切り取ってユニーまで持ってきていただくことで、お客様は社会貢献できます。メーカーとユニーは対象商品を積極的に販売することで、ベルマーク運動の応援ができ、お客様、メーカー、小売店と一緒に子供達を応援することができます。

2011年度に日本各地から集まった被災地支援のベルマークは約1,200万点だということで、ユニーの店舗事業所での回収数は驚異的でした。この活動に対し、ベルマーク教育助成財団から感謝状を贈られました。



感謝状を受ける前村社長



全ユニー労働組合と一緒に活動しました



活動に協賛していただいたキリンビバレッジ中部圏地区本部流通部霜田部長(右)



店舗での回収

難民衣料救援

ユニーはNPOや他の企業のボランティアと協働で、お客様の家庭で不用になった衣料品を回収、日本救援衣料センターを通じてアジア・アフリカや南米に送りました。またこの事業には日本通運などからも協力を得ました。



名古屋を明るくする会



トヨタ紡織ボランティア



デンソーボランティア支援センター

衣料品回収店舗	実施日	協力機関	回収量(t)	参加者数(名)
アピタ刈谷店	2011年10月22日	デンソーボランティア支援センター	23	330
アピタ豊田元町店	2012年 1月12日	トヨタ紡織ボランティア	12	150
アピタ千代田橋店	2011年 5月23日	日本救援衣料センター、名古屋を明るくする会	12.5	357
アピタ刈谷店	2012年 6月 2日	デンソーボランティア支援センター	22	314
アピタ安城南店	2012年 6月 9日	デンソーボランティア支援センター	16	207
アピタ豊田元町店	2012年 6月16日	トヨタ紡織ボランティア	13	166

「エコとくお買い物券」プレゼント企画

家庭で不用になった衣料品の回収にご協力いただいたお客様に、アピタ・ピアゴでのお買い上げ金額



エコとくお買い物券

に応じて使える「エコとくお買い物券」をプレゼントしました。エコとくお買い物券の使用で1枚につき3円を、ユニーから社団法人国土緑化機構の「緑の募金」や日本赤十字社を通じて東日本大震災被災地への義援金として寄贈しました。

アピタ・エコとくお買い物券・使用実績と寄付金推移

	企画	直営使用枚数	専門店使用枚数	使用枚数合計	寄付単位(円)	寄付金(円)	寄付先
2011年 5月	衣料品引取り	389,218枚	45,213枚	434,431枚	2	868,862	日本赤十字社
2011年 7月	衣料品引取り	263,279枚	35,586枚	298,865枚	2	597,730	日本赤十字社
2011年10月	衣料品引取り(アピタ・ピアゴ)	929,096枚	29,010枚	958,106枚	2	1,916,212	社団法人 国土緑化機構
2011年12月	衣料品引取り	153,568枚	22,377枚	175,945枚	2	351,890	社団法人 国土緑化機構
合計		1,735,161枚	132,186枚	1,867,347枚		3,734,694	

※2010年12月までの寄付金確定額 1,057万円(寄付予定額を含む)

3年目のエコキャップ運動

2011年7月から2012年6月までに集まったエコキャップ564万個。800個のエコキャップで、こども1人分の命が救えます。

スーパーでは毎日たくさんのペットボトルに入った飲料を販売しています。そして飲み終わったペットボトルとふた(エコキャップ)を店頭回収、再生資源としてリサイクルしています。特に「エコキャップ運動」ではその売却益を発展途上国の子供達の命を守るワクチン購入に役立てています。こうした活動は店頭回収にご協力いただいているお客様と、集まったエコキャップを回収してくださる読売新聞販売店の善意によって成り立っています。



読売新聞販売店が定期的に回収



各販売店からエコキャップを積んだ新聞配送の帰り便が清須工場へ集約、リサイクル事業者へ販売



NPO法人JCVを通じ、発展途上国の子供達にワクチンを届けます

体験型イベント「エコ博」

エコライフが地球環境を守ります

毎日の暮らしの中で「地球にやさしい生活」をお客様と一緒に続けることで、ユニーは持続可能な社会を目指しています。各地のモール型店舗やアピタで、エコについて楽しんで関心を持っていただける「地球にやさしいライフスタイル」の体験型イベント「エコ博」を開催しました。エコな暮らしに関心のある方も、そんなに意識していなかった方も、エコ博に参加されて「今日からエコライフ」を始められたら、未来の子供達に美しい自然を残すことにつながります。

周年を迎え「エコ博」開催

2011年にユニーは「創業100周年」を迎え、「100年のありがとう そして100年後の地球を守るために」をテーマに、プレ葉ウォーク浜北（静岡県浜北市）とリーフウォーク稲沢（愛知県稲沢市）でエコ博を開催しました。2012年には、アピタ誕生30周年記念「未来の子供達に美しい自然を残したい」をアピタ大垣（岐阜県大垣市）、リーフウォーク稲沢で開催しました。また、2010年からは「アピタエコ博」をけやきウォーク前橋（群馬県前橋市）、2011年にアピタ各務原店（岐阜県各務原市）、2012年にアピタ新潟亀田店（新潟県新潟市）で開催しています。



けやき・エコ博

ユニーのエコ活動をお客様と一緒に

ユニーは「環境にやさしいお買い物」をお客様と一緒に進めたいと考え、エコ博や環境展でエコ活動のパネルや環境配慮商品eco!onの紹介、店頭回収した容器包装のリサイクルなどを展示しています。また、お客様により理解して協働していただけるように、アンケートやクイズ、エコ工作などの参加型イベントも実施しています。



エコ博会場



環境紙芝居



環境ブース



リサイクル展示

エコ博に地元自治体も出展しました

県や市、県地球温暖化防止活動推進センターが、「エコな暮らし」をパネル展やゲームなどで分かりやすく紹介しました。ユニーの店舗にはたくさんのお客様が来店されています。自治体の情報発信や市民参加活動に最適な場として、ユニーの店舗を提供しています。



前橋市市役所展示「ごみの分別釣りゲーム」

生物多様性

私達はいろいろな生きものと一緒に地球で暮らしています。子供達に生き物に触れることで命を感じてもらいました。そして、「サステナブルコーヒー 一杯のコーヒーから地球を考える」では、美味しいコーヒーを味わいながら生物多様性について考えてもらいました。



日本モンキーセンターのキッズズ「生きものとなかよし」



静岡県浜北市パネル



静岡県地球温暖化防止活動推進センター（自転車発電）



大垣市環境市民会議による、希少生物ハリオの展示



ひぐち珈琲によるサステナブルコーヒーの試飲・販売



浜北市環境ブース



新潟市環境部ブース

エコ工作

段ボールや木の切れ端、繭のケバなど、捨てるとゴミになるものを使って、素敵なものを作り出すエコ工作。たくさんの子供達が参加しました。



モンキーセンターの端材でつくるゴリラのエコ工作



けやきホールで段ボール工作

地元NPOや企業も出展

「エコライフが地球環境を守る」エコ博に賛同して、たくさんのNPOや企業が参加していただきました。それぞれが推進している環境活動やお客様にエコライフを紹介する展示やゲーム、クラフトなどを出展したブースは大人気でした。



容器の軽量化 (キリンビール)



環境にやさしい商品 (ライオン)



「環境にやさしい洗濯」教室 (花王)



太陽光パネル (日本エコシステム)



明治乳業宅配



段ボールコンポスト (大垣市環境市民会議)



「あなたの食事バランス」(NPO食の絆)



減装ショッピング (NPOごみじゃぱん)



太陽光発電機・オール電化 (ケイセイシステム)



「活かそう資源プロジェクト」 ペットボトルからペットボトル (環境省)

エコカーの展示

地球環境にやさしく、人にもやさしいエコカーの電気自動車。お買い物に電気自動車で来ていただくことが、これも環境にやさしいお買い物につながるとユニーでは考えています。今後、充電設備も整備していきます。



静岡県温暖化防止推進センターのミニカー電気自動車



日産の電気自動車リーフ



人気のトヨタ車アクア



富士スバル「ぶつからない車」アイサイト試乗会

ステージも楽しくエコ

ステージではエコライフをテーマにした講演や演奏、歌唱、人形劇などを発表、たくさんのお客様に楽しんでいただきました。また地元大学生や子供達も劇やミュージカルで「地球を守る」ことを表現してくれました。



城戸真亜子さんのトークショー



地元音楽家の演奏



静岡県常葉学院大学学生の演劇



静岡県常葉学院大学山田先生のトークショー



劇団シンデレラのエコミュージカル



竹や自然の材料で演奏「竹竹パンパーズ」



モンキーセンターの子供達とモンパくんのダンス



成尾亜矢子さんのピアノ演奏



新潟のヒーロー「超耕21ガッター」



エコ人形劇「ミニ天井」

社会貢献活動のブース

持続可能な社会は「人にやさしい社会」です。みんなが楽しく暮らしていくために、助け合う活動を紹介しました。



アジアの車椅子写真展 (AJU自立の家)



小児がん支援プロジェクト「ゴールドリボンキャンペーン」(アフラック)



盲導犬協会

子供エコ博ツアー

エコ博は子供達が主役です。案内役はユニーのインタープリター、ボランティアの皆さんです。エコ博会場を一緒に回って、エコを楽しく学びました。



インタープリター (案内ボランティア) が子供達をガイドします



ブースで説明を聞いたクイズに参加しました

地域貢献

「レジ袋 市民の森」が環境大臣賞を受賞

JR大垣駅前のアクアウォーク大垣（アピタ大垣店）は紡績工場跡に建設したモール型ショッピングセンターです。お店のレジ袋削減運動（レジ袋ないない運動）で得たポイントにより大垣市環境市民会議と共に植樹、敷地内のクスノキの巨木をシンボルツリーとして「レジ袋 市民の森」と名付けました。

「レジ袋 市民の森」は、2011年度環境省主催の「みどり香るまちづくりコンテスト」に「クスノキの下で『噴井の里 香りそよぐ』～市民とお店のコラボレーション」の企画で応募、環境大臣賞に輝きました。これにより、香りの樹木による再整備の支援を得られることになり、2012年の早春に大垣市長も参加して植樹祭を開催、園芸協会の指導のもと、大垣市民やアピタ従業員が植樹をしました。



レジ袋 市民の森



表彰状を持つ大垣市環境市民会議奥田さんとアクアウォーク社支配人



授賞式（奥田さん）



植樹祭（大垣市長、市民会議会長、アピタ営業本部長、支配人）



植樹作業

環境大臣賞 全 国 最 大 の 賞

クスノキの下で『噴井の里 香りそよぐ』～市民とお店のコラボレーション～

企画テーマ

- 大垣の北公園に鮮やかな緑が舞うコミュニティパークを創り、人々の幸福と健康に貢献します。
- 環境保全活動の拠点としてこの場所を活かし、環境に優しい人づくり、街づくりを進めます。

コンセプト

癒しのコミュニティパーク

持続可能な社会づくり

地域に愛される公園

使用する植物一覧

香りのコンセプト

幸福感と健康

香る花木、実のなる木

観葉植物

ハーブ

「レジ袋 市民の森」の再整備

今回の植樹は、「レジ袋ないない運動」のシンボルとしてたくさんの市民と共に植樹した「レジ袋 市民の森」の再整備です。これを機に募集したグリーンサポーターには、124名の市民が友達や家族と共に参加してくれています。ハーブの育成や活用に詳しい園芸福祉協会の協力を得て、サポーターの皆さんと共に公園の維持管理やハーブを使ったイベントなどを実施しています。四季を通して花や木が香る公園に、市民とお店が協力して育てていきます。

「レジ袋ないない運動」の心を引き継ぎ、自然の豊かさを守り愛することの大切さを伝えるシンボルとして、多くの人に親しまれる場所になることを願って、活動していこうと思います。



大垣市環境市民会議 事務局次長 奥田陽子



グリーンサポーター「ハーブ教室」



グリーンサポーターによる 草木の手入れボランティア

滝ノ水緑地（名古屋市）維持管理支援

ユニーは市民と行政とのパートナーシップによる森づくり事業に参画、名古屋市緑区の「滝ノ水緑地」への支援を行いました。「滝ノ水緑地」は住宅地の中にある里山です。ピアゴ ラ フーズコア滝の水店の近くがあり、市民グループが保全活動を行ってきました。ユニーは有料レジ袋販売収益金「名古屋市レジ袋有料化還元基金」寄託金の一部をこの支援活動に寄付しました。



一般の参加者を募って森の世話をしました



ピアゴ ラ フーズコア滝ノ水店でキックオフを行いました（梅本執行役員グループ政策室長）



近所の子供たちも森林保全活動に参加

認知症の方へのお買い物サポート

ユニーは認知症の方にもお買い物を楽しんでいただけるよう、サポートしています。従業員に認知症への理解と見守りの役割を担ってもらうための教育を行い、店内での困りごとに対応や支援をしています。

また、一般のお客様にもご理解・協力していただくために、店内で認知症支援のボランティアや市の職員、支援企業と一緒に買い物サポートイベントを開催しています。



従業員教育



名古屋市社会福祉協議会港区東部いきいき支援センターによる「認知症サポーター養成講座」をアビタ東海通店で開催し、全従業員が受講



2011年秋のアルツハイマーデー（アビタ東海荒尾店）



お買い物セーフティネットのイベント（アビタ大府店）



大府市社会福祉協議会の相談コーナー



介護食の試食コーナー（キューピー）



宅配でお買い物支援をするユニーのネットスーパー

認知症啓発イベントを各地で開催

昨年7月からNPO法人HEART TO HEARTでは、ユニー(株)環境社会貢献部のご協力をいただきながら、「認知症買い物セーフティネット」（買い物を通して認知症の人を地域で見守る支援）として、店舗内での認知症啓発イベント・パネル展示・従業員の皆さんの認知症勉強会などを通して認知症を多くの皆さんに知っていただく活動に取り組んでいます。啓発イベントは、これまで大府店・東海荒尾店・刈谷店・阿久比店・安城南店・岡崎北店と各地で開催していますが、子供から大人まで、延べ6,000人を超える皆さんがブースに足を止めて、楽しみながら認知症を学んでくださっています。またたくさんの従業員の皆さんに勉強会に参加していただき、嬉しく思っています。



NPO HEART TO HEART
尾之内直美

サービス介助士の養成

サポートの必要なお客様への知識や技術を得るために、サービス介助士の資格取得をすすめています。店長、副店長や本社管理職など1,000名以上の従業員が資格取得し、お買い物のサポートに備えています。



車椅子のサポート実習



高齢者体験実習

全国一斉グリーンアップキャンペーン

ユニーでは常に店舗や事業所周辺の清掃や草取りの活動を行っていますが、6月の環境月間、10月のリサイクル月間には清掃活動範囲を近くの公園や道路などに広げ、全店一斉グリーンアップキャンペーンとして取り組んでいます。



店舗周辺の清掃活動



公園や周辺道路を清掃

募金活動

被災地への支援

2011年3月11日の東日本大震災での地震発生以来、ユニーでは全社を挙げて被災地の支援活動を行ってきました。2011年度に日本赤十字社を通して贈った募金は7億196万5,195円（ユニー店頭募金分／2億6,679万773円）になりました。

また、8月25日に発生した大型の台風12号では、豪雨災害義援金募金により354万2,106円（ユニー店頭募金分）の募金が集まりました。

WFP（国連世界食糧計画）

ユニーはWFP協会参加企業として、全従業員を対象に「ワンコイン募金活動」を実施しています。「ポケットのワンコインで飢えに苦しむ途上国の子どもたちの給食をプレゼントしよう」と社内会議の出席者や社員食堂利用者に協力を呼びかけています。2011年度は106万6,570円を寄付しました。



AJU車いすセンター

1982年より旧ユースストア店舗で続けられてきた「車椅子の無料貸し出し」を行うAJU車いすセンターへの募金活動を、2009年からはユニーが引き継ぎました。2011年度は150万円を寄付しました。



愛の1円玉募金

各店舗の店頭「愛の募金箱」を設置し、お客様・お取引先・従業員から善意の募金を募っています。集まった募金は、地域の福祉協議会や福祉団体へ寄贈しています。

中京地区	12,881,206円
関東地区	2,225,774円
山静地区	1,131,555円
北陸地区	923,590円
合計	17,162,125円

Re DESIGN PROJECT (リ デザイン プロジェクト)

「地球」「若者」「障がい者」がお買い物を通じてつながりあう

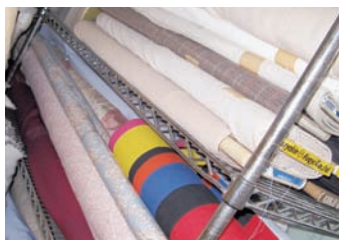
Re DESIGN PROJECTは、未利用資材を商品の素材に使い、デザイナーの卵であるデザイン学校の学生達がデザインしたものを、障がい者が就業訓練を行う授産所で生産し、ユニーの店舗で販売するというものです。ファッション性を取り入れ機能性にも優れたエコ商品を創り、障がい者へのチャリティーではなく、「私の好きなエコ商品」としてお客様に購入していただくことを目指しました。



素材は未利用の繊維素材

ユニーの本社のある愛知県尾張地方は、古くから繊維業が盛んで多くの織物製造業やアパレル産業、繊維商社があります。それらの企業の倉庫に眠っている、もしくはサンプルや少しの傷や汚れで廃棄される「繊維素材」を提供していただきました。(2011年度協賛企業/15社4団体)

提供していただいた素材を持って各デザイン学校に出向き、学生を対象のデザインコンテストの説明会を実施しました。



未利用素材



素材を確かめるデザイナーの卵達

プロジェクトの目的



デザインコンテスト

各校では、「未利用資材を使う」「授産所の技術レベルで生産できるもの」「商品として販売できるもの」という条件と、素材を提供して学生達に参加を呼びかけました。

参加校：

- 愛知文化服装専門学校
- 名古屋学芸大学
- OKA学園トータルデザインアカデミー
- 名古屋ファッション専門学校
- 中部ファッション専門学校
- 名古屋モード学園

Re DESIGN PROJECT コンテスト (2011)

作品テーマ「みんなにあったかいクリスマス…」

- 「みんなにあったかいクリスマス」を連想させる、未発表のオリジナル作品
- 授産施設で生産することができる「結ぶ」「縫う」「刺し子」の手法を使った作品
- 未利用資材を80%以上使用した作品
- 応募カテゴリー
 - ① 雑貨…小さなぬいぐるみ・クッションなどインテリア用品、② バッグ…エコバッグ・巾着・箸袋・お弁当袋など、③ クリスマス用オーナメント
- 募集期間：2011年4月15日～6月30日

デザイン選考

コンテストの審査は、ユニーの住関本部商品企画開発部・環境社会貢献部・大森授産所・デザイン会社のプランニングオフィス ラグーンの次のような観点で行いました。

環境に配慮しているか

授産所が生産に関われるか

消費者にとって魅力ある商品か

商品化が可能か

優秀作品を選び、さらに商品化するものをユニーの担当バイヤーが選出しました。



応募作品の審査



応募作品

2011年 リ デザインコンテスト入賞者発表および表彰式

愛知県稲沢市のリーフワーク稲沢で、素材を提供していただいた企業・団体や参加校、授産所のみなさんをお招きし、入賞作品の発表と表彰式を開催しました。



入賞作品



表彰式



入賞者

授産所の生産

このプロジェクトは、授産所に通う障がい者の方の働く機会を創出し、公正な対価を支払うことで自らの力で暮らしを向上させ、自立するための支援をお手伝いするものです。素材の提供や製品の販売先が決まっているので収入を確保することができます。また商品のデザインや販売をユニーが協力することにより、商品価値や品質が向上し、より良い商品の製造、販売につながります。



授産所の作業



授産所のみなさん

参加授産施設：

- 社会福祉法人大森授産所
- 社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連衡会
- 身体障害者通所授産施設 名身連第一ワークス

授産所はどこなところ？

授産所とは、障がいをお持ちの方が、働くなどいろいろな活動を通して社会参加し、自立を目指して訓練するところです。名古屋市では障がい者手帳を持っている方が利用しています。仕事は、企業からの下請け作業を主とし、自主製品を作って販売もしています。ここからの収入だけで生活することはなかなか難しく、より多くの収入が得られる仕事を創り出すことが課題です。



大森授産所主任
柴田浩二

また、このプロジェクトがメディアや店舗で紹介されることで、世の中に授産所への理解や関心が高まりました。

各地のアピタで販売

入賞作品を商品化（ユニーの品質基準をクリアし、品質表示のために素材を検査機関で検査。また使い勝手などに改良を加えるなど）し、授産所の生産能力などを考慮して、販売時期をクリスマスシーズンにしました。お客様がクリスマスプレゼント用に購入してくださり、その売り上げが授産所で働く方たちへの支援につながることを期待しました。授産所では少しボーナスが出たそうです。2011年11月21日から12月25日までの期間、各地区の大型店舗の専用売り場で販売しました。



商品販売ディスプレイ

販売店舗：

- アピタ長津田店（神奈川県）
- アピタ静岡店（静岡県）
- アピタ千代田橋店（愛知県）
- リーフウォーク稲沢（愛知県）
- アピタ富山東店（富山県）
- アピタ東海荒尾店（愛知県）
- ピオニーウォーク東松山（埼玉県）
- アピタ安城南店（愛知県）
- アピタ鳴海店（愛知県）
- アピタ長久手店（愛知県）

「世界の医療団」スマイル作戦キャンペーン

「世界の子供たちを笑顔にしたい」と先天性やけがや病気、戦争などで傷を負って、顔に手術が必要な途上国の子供達に医療を施し、笑顔を贈る活動です。2011年度、ユニーでは9店舗で開催し、900名を超える方々にメッセージを書いていただいたり、284万円もの募金が集まりました。この支援で78名の子供達が笑顔を取り戻す手術を受けることができました。



スマイル作戦募金活動



笑顔でハートマーク

AJU自立の家「ピア名古屋ワイン」をワインコーナーに設置

ピア名古屋は知的障がい者の授産施設です。岐阜県多治見市の修道院で収穫したブドウからワインを醸造し、販売することで自立を目指しています。また、世界の修道院で自家醸造したワインを直接仕入れて販売も行っています。ユニーは多治見市近隣の販売力のある店舗の酒類売り場のワインコーナーで「ピア名古屋ワイン」を定番商品として販売し、ピア名古屋を応援しています。



ブドウの収穫



ピアワイン売り場



5店舗のワイン定番売場で販売

ピア名古屋とワイン

ピア名古屋では障がいを持つ仲間と岐阜県多治見市にある修道院で葡萄を栽培、多治見修道院ワインや自己輸入した世界の修道院ワイン・オリジナルワインなどを販売、「障がいのある人も社会の一員として、地域で生活できる福祉」の実現に取り組んでいます。

多治見修道院の葡萄畑は、品種・環境とも他にはない特色に溢れた働く場です。我々はその圃場を無償でお貸しいただき、葡萄を丹精して栽培、美味しいワインを消費者に提供、収益を上げ、障がいを持つ人が地域で生活できる仕事としています。ユニーでは5店舗でオリジナルワイン販売と毎年11月3日に収穫を祝う「多治見修道院ワインフェスタ」の後援を頂いております。

2015年度には愛知県小牧市にAJU小牧ワイナリー（仮称）を建設、シンプルでいて、なおかつ今もっとも求められている「循環型社会」、人にも環境にも優しい社会モデルとして、誰もが集える事業展開を目指します。



ピア名古屋ワイン事業部
川原克博

ユニーの食育について

心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げて取り組まれている食育。ユニーでは、皆様の「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。子供達の「食」への興味・関心を育て、親子や親しい人同士で食の楽しさを発見・実感するきっかけになるよう、「おいしく」「たのしく」をモットーに、さまざまな食育活動に取り組んでいます。

ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子供から大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身に付け、おいしく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組めます。



たべものがたり

食材の旬・生まれ・栄養素・調理方法や昔ながらの伝統食など、親から子へ語り伝えていきたい食の物語を「たべものがたり」と名付け、皆様にわかりやすくお伝えしていきます。

ユニーの食育理念

私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。

ユニーの食育方針

- 1 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 2 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 3 食材のルーツをたどることにより食べ物を大切にする心を養います。
- 4 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。

あいち食育サポート企業団の活動

地元愛知の健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、「あいち食育サポート企業団」を結成し、愛知県や関係団体等と連携・協働して食育を推進していきます。また、「おうちでごはんの日」や「早寝早起き 朝ごはん」運動の普及、日本型食生活の良さ・地産地消の啓発、食の体験活動なども推進しています。

- 2007年 「あいち食育サポート企業団」の結成
- 2008年 「地域に根ざした食育コンクール」で最優秀賞
- 2010年 愛知県とともにドアラを食育大使に任命
- 2011年 愛知県図書館に食育絵本110冊を寄贈
- 2012年 愛知県に企業団オリジナル食育絵本1,000冊を寄贈

あいち食育サポート企業団 加盟企業

ユニー(株)	イチビキ(株)	カゴメ(株)
カネハツ食品(株)	(株)クレスト	コーミ(株)
敷島製パン(株)	(株)浜乙女	(株)ポッカコーポレーション
(株)丸越	マルサンアイ(株)	(株)ミツカン



「地域に根ざした食育コンクール2008」にて農林水産大臣賞（最優秀賞）を受賞



愛知県とともにあいち食育大使にドアラを任命



愛知県にオリジナル絵本を寄贈



愛知県と共催で食育講座を実施



愛知農林水産フェアで食育イベントを実施



毎月加盟企業による店頭イベントを実施

店舗を中心とした食育活動

企業との食育への取り組み

料理教室や、店内のイベントを通じて、皆様に「食」についての関心を持っていただくために、食品関連企業や各種団体と共同で、食に関するさまざまなイベントを開催しています。



5ADAY (ファイブ・ア・デイ) 食育体験ツアー

「1日5皿分(350g)以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとした活動を推進しています。



学生との食育への取り組み

大学や専門学校の学生と、食育まんがやイベントなど、お子様にも分かりやすい食育活動に取り組んでいます。食育における学生とお子様の「共育」推進も目的としています。



ふれあいクッキング

お客様に食材の「おいしさ」「栄養」「使い方」を実感し、よりよく知っていただくために、店舗で料理教室を行っています。



生産者との食育への取り組み

お客様が農産物の栽培から収穫までを生産者とふれあいながら体験することにより、売場の野菜・果物を身近に感じていただくことも大切な食育のひとつと考えています。



クッキングワゴン

栄養士が健康を考え、旬の食材を使ってレシピを提案する店頭でのライブクッキングコーナーを開催しています。



ホームページ

私たちにとって、一番身近な「食」に関するさまざまな「こと」を紹介するサイトです。旬の食べ物を食卓に取り入れる方法や栄養士が考える健康&簡単「からだにイイことレシピ」、食物栄養学科の学生と協力して作った「食育まんが」など、さまざまな情報で日々の食生活を応援しています。また、店頭などで行った食育イベントレポートも順次アップしています。

ユニー たべものがたり

検索



<http://www.uny.co.jp/tabemonogatari/>

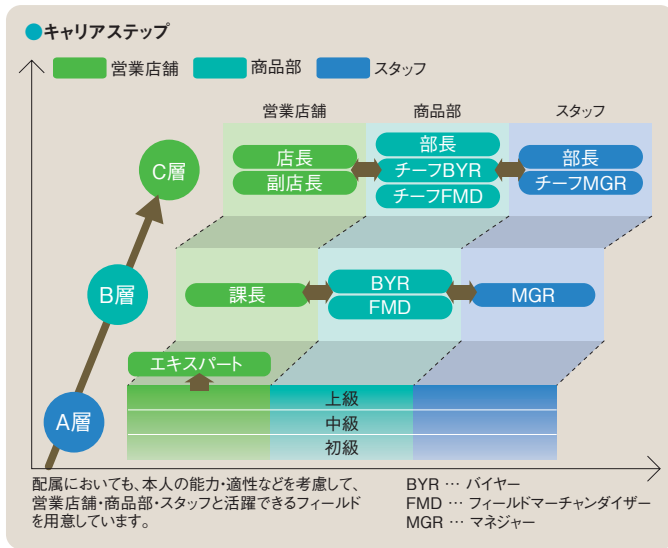
働きやすい職場環境づくり

ユニーでは従業員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考勤」する人材になることを目指しています。流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、広く社会に貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、従業員一人ひとりを強力にバックアップしています。

キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、会社の成長につながっています。そこでユニーでは、配属においても本人の希望を考慮しています。毎年、全社員を対象に自己申告を実施し、今後のキャリアについて本人の希望を確認しています。配属希望の部署やそのために取り組んでいる自己啓発などを調査することで、その後の配属に活かしています。

営業店舗で店長を目指して仕事をされている方、商品部でバイヤーとして世界中に商品の買い付けに行く方、スタッフ部署で営業の企画を立案している方など、各人の能力・適性により活躍できるフィールドはたくさん用意されています。



充実の教育体系

キャリアに応じて必要な教育研修を実施。自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。

● 研修

新入社員から管理職まで各職層別に研修を実施。2011年度の研修参加者数は述べ3,908名になります。



● 従業員キャリアアップ

従業員のキャリアアップを手伝うため、131講座におよぶ通信教育講座を案内。会社推薦講座受講者には会社からの補助があります。2011年度は524名が受講しました。



● サービス介助士資格

高齢者の方や障がいをもつ方にも安心して買物に来ていただけるよう、店舗の店長や副店長などの管理職を中心にサービス介助士資格の取得を促しています。現在までに、1,000名以上が取得しています。



● 技能研修

特別勤務者（パートタイム）の方には、生鮮部門担当者を中心に商品加工技術のある方に技能給を、福祉用具専門相談員やグリーンアドバイザー、自転車安全整備士、ホームヘルパーなどの資格を取得し、仕事に活かしている方にライセンス給を支給しています。



障がい者雇用

ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいを持つ人も活き活きと働ける職場環境をつくるため、障がい者雇用に取り組んでいます。毎年、養護学校や施設から職場体験の受け入れも実施しています。

障がい者雇用率	
2010年	2.12%
2011年	1.92%
2012年	1.95%

ワークライフバランスへの取り組み

● 半日年休制度

付与された年次有給休暇のうち6日間を半日に分割して年間12回取得可能。年次有給休暇をより取得しやすくするため、2006年より導入しました。

● 65歳までの再雇用制度

定年を迎えた従業員がその後の生活の安定をはかため、再雇用されることを希望した場合、65歳までを上限とし再雇用し、長年培った知識・経験・専門能力・技能を活用できるようにしています。

● 配偶者出産休暇

配偶者が出産のとき、出産日から2週間以内に有給の休暇を2日取得可能。2010年より導入しました。

● 自社商品割引購買制度

自社商品を割引で購入可能。同居家族も同条件で利用できる「家族証」を発行しています。

● 愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録

労働者が男女ともに仕事と家庭を両立させながら働くことができる職場環境づくりに取り組んでいる企業として認められ、2003年に愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録しました。



● 次世代法に基づく基準適合一般事業主認定企業

仕事と子育ての両立を図るために必要な、雇用環境の整備などを進めるための「一般事業主行動計画」を策定し、基準に適合した一般事業主として2008年に認定されました。



働きやすい職場環境づくり

ユニーグループ

総合福祉センター
労使による共同事業です。会社・労働組合いずれにも属さない単独の組織として、ユニーグループ全ての企業の従業員が同条件で加入できる共済会制度を運営し、祝金や見舞金、弔慰金等の慶弔活動、各種補助、セミナー、契約施設の幹旋、OB・OG会活動等を行っています。

● ライフデザインセミナー

40歳、50歳、60歳と人生の節目となる年代を対象としたセミナーを開催し、生涯生活設計の基盤をつくるための意識づくり、体系づくりを図っています。



● 健康セミナー、健康ウォーキング

近年関心の高い「健康」に特化した、夫婦で参加できるセミナーやウォーキング大会を開催しています。



● レクリエーション活動

従業員同士の親睦や交流を促し、職場の活性化を目的とした店舗行楽や趣味開発のための文化体験を取り込んだバス旅行を実施しています。



● 保険・貯蓄・年金制度

従業員の生涯生活設計の一助として、年1回、集中募集を行い、財形貯蓄や団体保険（死亡・医療・所得補償保険）、独自の年金制度の加入促進を図っています。



環境教育

ユニーはエコ・ファースト企業として、地球環境保全と地域社会貢献のために、従業員教育や関係者への環境教育を行っています。店舗や事業所で働く人達には、ユニーの目指す持続可能な社会を実現するために、それぞれの果たす役割を認識し、環境保全・社会貢献の実践に必要な知識や技術を習得させるための講習や実習も実施しています。さらに、ユニーと一緒に活動していただく消費者・行政・取引先や同業他社の方々の店舗見学や講習も行っています。

従業員教育

●管理職教育

新しく管理職になる社員には、それぞれの職制に必要な環境保全・社会貢献の教育を行っています。特に店舗管理職には、店舗に関わる法令やその他の要求事項について、その内容と遵守するための取り組みについての講習をしています。



●ISO14001集合教育

環境マネジメントシステムISO14001の適正な運用と、環境実施計画の遂行のために、本社および各事務所の従業員と働く人達に対して集合教育を行っています。



●テナント・その他の従業員教育

店舗に出店しているテナントやそこで働く人達に、環境保全活動を理解し協力してもらうための教育を実施しています。特に廃棄物の分別計量システムや排水に関する教育は、店舗ごとにマニュアルやDVDを使って行っています。



●関係会社従業員教育

ユニーの従業員以外の派遣社員や社内で働いている人達にも、ユニーの環境保全・社会貢献活動を理解し協力してもらうよう教育を行っています。



●環境関連事業者連絡会

ユニーと取引先のある一般廃棄物運搬事業者や産業廃棄物関連事業者、リサイクル事業者などの環境関連事業者を集め、年2回の連絡会を開催しています。環境問題全般や環境関連法令などに関する講習会、先進的な取り組みをしている環境施設の見学会を通し、法令遵守やリサイクル推進をユニーと一緒に取り組んでもらうことが目的です。



●店舗見学の受け入れ

店舗の環境施設や環境活動の見学に、消費者団体・行政・同業他社の方を受け入れています。特に食品リサイクルループの仕組みやエコ野菜販売などについての見学が多いようです。



環境コミュニケーションツール

社内コミュニケーション

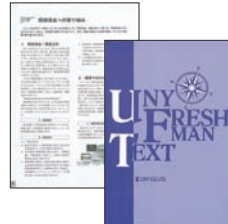
●従業員教育マニュアル

社内規定をまとめたポケットガイドに環境のページを設け、廃棄物分別などのマニュアルを記載しています。



●新入社員テキスト

新入社員に対して基礎教育に使用するテキストに、環境の基本的な事項や遵守すべき法令などを記載しています。



●社内報での情報の共有化

社内報に「環境」「社会貢献」のスペースを設け、会社や各店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員が共有し、従業員の環境意識を高めています。



社外コミュニケーション

●ホームページ

ユニーのホームページ「環境社会貢献」には、活動の最新情報や活動報告、環境配慮商品などの情報を掲げています。



●環境壁新聞

ユニーの店内には環境問題を紹介した「やさしくらしダイアリー」を掲示しています。ホームページでも見ることができます。



●DVDでの啓発

ユニーの環境活動を「食品リサイクル」「容器のリサイクル」「生物多様性」などのDVDにして、店内やイベントで使い、理解と協力を促しています。





この報告書の印刷・製本工程で
使用した電力量(1,500kWh)はグ
リーン電力でまかなわれています。



森の町内会
間伐に寄与する紙
www.mori-cho.org



「未来の子供達に美しい自然を残したい」
ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

未来が変わる。
日本が変わる。
チャレンジ
25



ユニー株式会社 環境社会貢献部
愛知県稲沢市天池五反田町1番地
TEL.0587-24-8093 FAX.0587-24-8034
http://www.uny.co.jp